

大阪大学総合学術博物館 年報 2016

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2016

はじめに

本年もこうして2016年度の私たちの活動の概要『大阪大学総合学術博物館年報2016』をここに刊行し、皆様に公開できますことを嬉しく思います。

2016年度も定例の展覧会として、特別展、夏期特集展覧会、企画展を開催しました。今年度は大きく大阪大学の歴史とアイデンティティを全体のテーマといたしました。まず第9回特別展として「嗚呼黎明は近づけり… -よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録-」を開催し、大阪大学の前身である大高・浪高の資料を豊富に展示して、私たちのもっとも直接的なルーツの一つを蘇らせました。また秋には第20回企画展として「重建懐徳堂開学100周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り -懐徳堂の美と学問」を開催し、大阪大学の精神的な源流として今も位置付けられている懐徳堂の姿を浮き彫りにいたしました。また冬にはかんさい・大学ミュージアム連携実行委員会との共主催によるシンポジウム「みんなのヒストリー みんなのミュージアム 学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営」を開催し、登壇された近隣の博物館との議論によって大学博物館としてのあり方について認識を新たにいたしました。これ以外にも夏季特集展覧会として「科学で楽しむ怪異考」を開催し、古生物学と民俗学や民間伝承などの世界との興味深い類似性と関係性について展示し、多くの来場者を集めました。

また新規事業として文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」助成による「記憶の劇場 大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」をスタートさせました。これは近隣の自治体などの芸術文化系諸機関と連携して行う社会人対象の育成講座で、年度末には1年の成果を博物館に展示をするというものです。大学博物館の新しいアウトリーチ活動として充実したものになりました。これら以外にも例年の「サイエンスカフェ」、「体験！こどもミュージアム」「大阪大学美術部夏部展」「阪大生が作った展覧会」などもみな力のこもった取り組みとなり、充実した活動ぶりをご覧いただけたかと思います。近年は豊中市との関係が親密になり、サイエンスカフェの中央公民館での開催、また小中学校理科展の優秀作品の博物館での展示、プレゼンを行う「サテライト展示」など、地域連携活動として意義深い事業を展開できました。

私たち大阪大学総合学術博物館は、世界最先端の研究を行う一方で、広く社会学連携に積極的な「交流型ミュージアム」を標榜しております。これからも個性的な大学博物館として邁進して参りたいと思いますので、今後ともご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2017年8月

大阪大学総合学術博物館長

永田 靖

目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館 第9回特別展 嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと –よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録–	
・概要	6
・報告（大阪大学総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐）	9
2. 展覧会報告Ⅱ	13
大阪大学総合学術博物館 夏期特集展覧会 科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展	
・概要	14
・報告（大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員 半田 直人）	17
3. 展覧会報告Ⅲ	21
大阪大学総合学術博物館 第20回企画展 重建懐徳堂開学100周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り –懐徳堂の美と学問–	
・概要	22
・報告（大阪大学大学院文学研究科 教授 湯浅 邦弘）	27
4. 大学を活用した文化芸術推進事業	31
記憶の劇場	
・概要	32
・報告（大阪大学総合学術博物館 特任研究員 山崎 達哉）	35
5. シンポジウム報告Ⅰ	41
大学ミュージアムをめぐるシンポジウム みんなのヒストリー みんなのミュージアム 学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営	
・概要	42
・報告（大阪大学総合学術博物館 助教 横田 洋）	45
6. シンポジウム報告Ⅱ	51
<具体>再考 第1回 1950年代の前衛グループ	
・概要	52
・報告（大阪大学総合学術博物館 招へい准教授 加藤 瑞穂）	55
7. サイエンスカフェ	58
・2016年度（サイエンスカフェ@待兼山 No.135～141）	59
・2016年度（サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-1～C-3）	60
8. 体験！こどもミュージアム@大阪大学	64
9. 大阪大学美術部 夏部展2016 私の展覧会	66
10. 豊中市立小中学校 理科展 サテライト展示	67
11. 阪大生がつくった展覧会2016ベスト	70

12. 専任教員活動報告	73
総合学術博物館 館長 永田 靖	74
総合学術博物館 研究・教育部	
・資料基礎研究系 准教授 高橋 京子	78
特任助教(常勤) 高浦佳代子	83
・資料先端研究系 教授 上田 貴洋	85
准教授 豊田 二郎	88
准教授 宮久保圭祐	90
・資料情報研究系 教授 橋爪 節也	92
助教 横田 洋	99
総合学術博物館 資料部	
特任講師(常勤) 伊藤 謙	100
13. 資料	101
・2016年度の主な活動一覧	102
・入館者数及びアンケート集計結果一覧	109
・団体見学一覧	120
・関連記事一覧	122
・寄贈図書一覧	126
・館内配置図	130

1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館 第9回特別展

嗚呼黎明は近づけり…

友よ我らぞ光よと

—よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—

概 要

大阪大学総合学術博物館 第 9 回特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと 一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録一」を 2016 年 4 月 27 日（木）から 7 月 9 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

かつて大阪に存在した二つの旧制高等学校、大阪高等学校と浪速高等学校は多くのすぐれた人材を輩出し、戦後は新制大阪大学の教養教育を担う一般教養部の母体となった。本展覧会では両校の同窓会が収集した資料を中心に、大阪の旧制高校の在りし日の姿と、そこで行われていた教養教育を紹介した。

本展覧会中の期間中の来場者は、4,900 名であった。

大阪大学総合学術博物館 第 9 回特別展

テーマ：「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと

一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録一」

期 間：2016 年 4 月 27 日(木) ～ 2016 年 7 月 9 日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学アーカイブズ

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪府立大学 21 世紀科学研究機構、 大学史編纂研究所

入館者数：4,900 人

ミュージアムレクチャー

第 67 回 4 月 30 日（土）旧制高校教育と大学一般教養読み比べー理系教員の視線でー
来場者数：27 人

宮久保 圭祐（大阪大学総合学術博物館）

第 68 回 5 月 21 日（土）大阪大学会館から「発見」された旧制浪速高等学校奉安庫
ー大阪大学に残る戦争遺跡ー 来場者数：20 人

菅 真城 氏（大阪大学アーカイブズ）

第 69 回 5 月 28 日（土）大阪大学における教養教育の現状 来場者数：17 人
下田 正 氏（大阪大学大学院理学研究科 前大阪大学全学教育推進機構長）

第 70 回 6 月 25 日（土）大阪の高等教育機関の変遷 来場者数：25 人
山東 功 氏（大阪府立大学 21 世紀科学研究機構 大学史編纂研究所）

大阪大学総合学術博物館 第9回特別展

嗚呼黎明は近づけり...

友よ我らぞ光よと



—よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—

学生の自主性を重んじた少人数教育により、戦前の日本の人材育成で輝きを放った旧制高校、かつて大阪にあった大高・浪高の記憶と記録をたどり、その意義と大阪大学への継承を紹介する。

2016年 4月27日[水] → 7月9日[土]

入館無料 ◆日曜・祝日休館、ただし5月1日[日]は開館会
会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館
共催：大阪大学アーカイブズ
協力：大阪府立大学 21世紀科学研究機構 大学史編集研究所
大阪大学21世紀懐徳堂



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。

写真所載 大阪大学アーカイブズ

大阪大学総合学術博物館 第9回特別展

あ あ れい めい 嗚呼黎明は近づけり... 友よ我らぞ光よと

一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録一

2016年 4月27日[水] → 7月9日[土]

入館無料 ◆日曜・祝日休館、ただし5月1日[日]は開館会
場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館



●大阪高等学校一覽



●浪速高等学校一覽



●行幸記念光栄録



●直筆ノート



●同人誌



背景写真所載 大阪大学アーカイブズ

教育は、いつの世でも社会における重要課題である。日本では終戦によって大改革がおこなわれ、戦前の教育制度は遠い過去のものになった感があるが、その実態を再検証することは、現代に生きる私たちにも有意義ではないだろうか。

新制大阪大学の一般教養教育は、大阪に存在した二つの旧制高等学校-大阪高等学校と浪速高等学校を母体に始まった。旧制高校は明治から昭和初期にかけての日本の教育制度の中で、少人数制や生徒の自主性の尊重、外国語教育の充実などの際立った特徴を持ち、日本が近代化を進め、激動していた時代の人材育成に輝きを放っていた。

大阪大学豊中キャンパスには、両校の“記憶”を後世に伝えるべく、大高の森や浪高庭園が設けられ、ブロンズ像など様々なモニュメントが置かれているが、それらが伝えようとしているものはなにか。

本展覧会では、大阪における二つの旧制高校について、設立、教育、学生生活、そして卒業生の活躍を、大阪大学が所蔵する様々な記録資料により紹介し、その意義を再考する。

展示構成と展示資料

I 旧制高校をしていますか？

主な展示物

浪高制服、学草、課外活動の記録、旧制高校関連書籍

II 大阪高等学校・浪速高等学校の設立

主な展示物

学校便覧、旧制高校写真、浪速高等学校 生徒生計調査報告、行幸記念光栄録、同窓会記念誌

III 大高・浪高での教育と学生生活

主な展示物

直筆ノート、教科書、愛読書、試験問題、教育用教材、同人誌、歌集

IV 大高・浪校出身者の活躍

主な展示物

大高文庫(大阪高等学校同窓会収集資料)、旧制浪速高等学校同窓会収集資料

V 旧制高校の終焉と大阪大学一般教養部の設立

主な展示物

公文書、同窓会誌、大阪大学学報

ミュージアム・レクチャー

会場：3Fセミナー室、30分前より開場、定員60名、予約不要

旧制高校教育と大学一般教養読み比べ -埋系教員の視線で-
4月30日(土) 14:00~15:30

宮久保 圭祐(大阪大学総合学術博物館)

大阪大学会館から「発見」された旧制浪速高等学校奉安庫
-大阪大学に残る戦争遺跡-

5月21日(土) 14:00~15:30

菅 真城(大阪大学アーカイブズ)

大阪大学における教養教育の現状

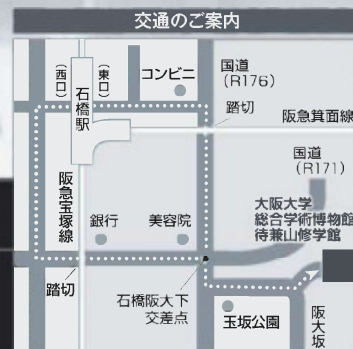
5月28日(土) 14:00~15:30

下田 正(大阪大学大学院理学研究科 前大阪大学全学教育推進機構長)

大阪の高等教育機関の変遷

6月25日(土) 14:00~15:30

山東 功(大阪府立大学 21世紀科学研究機構 大学史編纂研究所)



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分。※公共交通機関をご利用ください。

報 告

大阪大学総合学術博物館 第9回特別展

「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと

一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録一」

大阪大学総合学術博物館

准教授 宮久保 圭祐

博物館にとって所蔵資料を展示や研究に有効に活用することは、重要な責務であると言える。大阪大学総合学術博物館には、かつて大阪に存在した二つの旧制高等学校、大阪高等学校（大高）と浪速高等学校（浪高）に由来する資料が多数保管されている。しかしながらそれらの資料はごく一部が常設展示されている他には、展示する機会が少なく、その存在も限られた人にしか知られていない状況であった。一方で展覧会に使える経費そのものも、大学全体の予算の縮小と歩調を合わせて減少し続けている。所蔵品を中心に必要となる費用を抑えた展覧会を実施することは大学博物館運営に必須となってきた。

当館に所蔵されている旧制高校由来の資料は大きく三つに大別できる。一つは大高・浪高の教育資産を引き継いだ教養部により保管されてきた教材類である。さまざまな生物標本や歴史遺物の模型が教育に使用されていたことの痕跡である。残り二つは大高・浪高の同窓会によって集められた資料である。大高同窓会は関係者の著作物を網羅的に保管することを目指し「大高文庫」を収集した。浪高同窓会は失われた母校の全容を後世に伝えるべく、広く同窓生・旧教員に呼びかけ様々な資料を収集した。これらの同窓会が収集した資料は、様々な経緯を経て大阪大学総合学術博物館に現在は保管されている。

本展覧会はこれらの資料を活用する展覧会として、かつて大阪に存在し大阪大学に引き継がれた旧制高校である大高・浪高そのものと、そこでの教育・人材育成を紹介する展覧会として企画した。その内容から書籍・文書などの紙資料が中心になり、稀少性のある実体展示物が少なくなるため、テーマに関心の少ない方に来場していただけるのか、教育史などが専門でない理系教員が担当して質の高い展覧会が開催できるのか、などの課題を抱えながらの準備作業となった。担当者の専門性が不足していることについては、大阪大学の歴史に詳しい大阪大学アーカイブズの菅真城教授に助言をいただくとともに、大阪大学アーカイブズとの共催として、アーカイブズ保管資料も活用させていただくことになり展覧会の開催に大きな力を得ることができた。

この展覧会では、大きな方針として大高と浪高を可能な限り対等に扱うこととした。現実には浪高資料に比べて博物館保管の大高資料は書籍中心であったため、展示構成にかなり苦心することになったが、両校が大阪大学に引き継がれたことを強調するために必要なこ

とと考えた。さらに、この展覧会の最も重要な観客として、大阪大学で今まさに教養教育を受けている1,2年次の学生を想定した。現在の学生が興味を持てるように展示を構成し展示資料を選択することを心がけた。紙資料が多いためその文字まで読まなくても概要がわかるように解説パネルを多く作成し、より詳しく知りたい方は紙資料の文字までじっくりと読んでいただくことを考慮して展示配置を考えた。展覧会の主タイトルの「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと」は、大高の全寮歌の冒頭と浪高の愛唱歌の最後の歌詞を組み合わせたもので、旧制高校に関心のない方にも印象に残るようなタイトルになるように館員間で協議して決定した。会場内ではこの二つの歌を交互に流し、会場内の雰囲気盛り上げた。

展示内容を五章に区分して配置した。最初の第Ⅰ章では「旧制高校をしていますか？」



と題して、旧制高校制度そのものを紹介する導入とした。エントランスには浪高制服をマネキンに着せて、白線帽に学生服、マントの旧制高校生の姿を再現した。さらに周囲に当時の学章などの実物資料や写真パネルを並べ当時の様子を思い浮かべてもらうようにした。旧制高校に馴染みのない方のために、当時の学制や、全国に旧制高校の成立過程をパネルにより解説した。



第Ⅱ章では「大阪の高等教育の変遷と大阪高校・浪速高校の設立」として、両校が存在した当時の様子を伝えることを企図した。大阪大学は大高・浪高の両校を引き継いだ学校であるが、当時の公文書はほとんど残されていないため、同窓会によって保管された資料が中心となった。当時の生徒への配布物である学校便覧や、浪高の開校式の記録、当時の学

生が書いた著作物や、昭和天皇が大阪に行幸した折に大高を視察された様子を表す光荣録、同窓会による校史ならびに数々の記念冊子を展示した。冊子類が特定のページしか展示できないのを補うために、写真パネルや解説パネルを併用した。大高と浪高はほぼ同時期に成立しながら、大高が官立の三年制高校で、初年次生全員を学生寮に入寮させていたのに対し、浪高が府立の七年制で学生寮がないという、対照的な特徴があり、それを強調するようにした。

続く第 III 章では「大阪高校・浪速高校での教育と学生生活」として、当時の教育内容や学校生活を紹介した。教育内容を主題とする本展覧会では最も特徴的な部分でもある。当時の浪高生の直筆ノートや教科書を多数展示し、当時の学習内容を思い浮かべられるような展示を目指した。また当時の旧制高校生の自主的な文化活動を表すものとして、同人誌を大高文庫などから展示した。また浪高で実施された生活調査の記録を展示した。その他にも、旧制高校文化の華ともいわれる寮歌について、当時の歌集や戦後の寮歌祭の資料により紹介した。また旧制高校で教鞭をとられていた方には、その分野の斯学となられた方も多い。また当時の教員と学生の関係性も現在の教育現場とは一風異なっていることを紹介することが有意義と考えて、当時の教員に関する展示も行った。

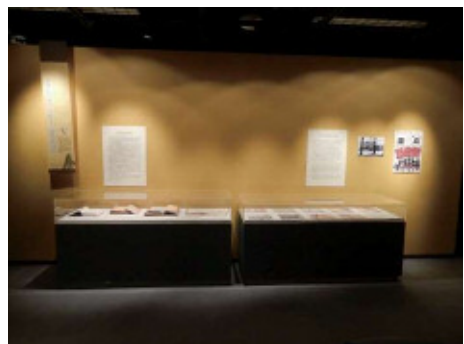


第 IV 章「大阪高校・浪速高校出身者の活躍」では、出身者がどのような活躍をされたかをその著書を展示することにより示すことを企画した。大高文庫には多くの卒業生の著作が収められているので、代表的なものを選択し卒業生の年代順に配置した。背表紙で書名と著者名を眺めるだけでも多方面の分野で活躍されたことが想起でき、また同世代の横



のつながりに興味が惹かれる。浪高同窓会の資料では書籍を意識的に集めるということは行われていなかったため、大高文庫に比べボリューム不足になってしまったが、多士済済であることは十分に表現できたと思う。書籍展示を補うために卒業生の中でも特に著名な方や、文化勲章受章者、阪大総長経験者は、パネルを作って紹介した。休憩スペースを設けて、同窓会の記念誌を自由に閲覧できるようにした。

最後の第 V 章では「旧制高校の終焉と大阪大学教養部の設立」として、大高・浪高が廃校となり新制大阪大学の一般教養部に引き継がれていく過程を展示資料と解説パネルで紹介した。大阪大学アーカイブズ所蔵の新制大阪大学の公文書で、大阪府立の浪高を国立の大阪大学にまとめる時にさまざまな議論があったことを示した。大高の校地・校舎は



大阪大学南校として使用された後、現在の豊中キャンパスに統合されて失われた。その際に大高の同窓生が別れを惜しんでキャンプファイヤーを行った様子を描いた色紙を最後に展

示した。

ミュージアムレクチャーは4回実施した。本稿の筆者である宮久保により「旧制高校教育と大学一般教養読み比べー理系教員の視線でー」として展覧会内容の概観と旧制高校と現在の大学での教養教育とのカリキュラムの比較が行われた。アーカイブズの菅教授による「大阪大学会館から「発見」された旧制浪速高等学校奉安庫ー大阪大学に残る戦争遺跡ー」では、現在も大阪大学会館にその遺構が残されている奉安庫についての調査が紹介され、終了後には奉安庫の展示見学が行われた。理学研究科の下田教授による「大阪大学における教養教育の現状」では現在の大阪大学での教養教育やその改革方針などが説明され、現役の学生からの熱心な質問もあった。大阪府立大学の山東教授の「大阪の高等教育機関の変遷」では、大阪でのさまざまな高等教育機関の歴史が豊富なエピソードを交えて解説された。いずれのレクチャーも参加者数こそさほど多くはなかったものの、双方向的な質疑応答がなされて、有意義なものであった。

展覧会会期中には多くの来館者があったが、なかでも大高・浪高の卒業生の方にも多く来訪していただき、展示についての感想やその当時のお話を伺うことができたのは担当者としてはありがたいことであった。また主に文学部などの学生に講義の一環で見学していただいたことや、展示会で使用した解説パネル・写真パネルがその後全学教育推進機構でも掲示されたことや、その後少しずつではあるが資料閲覧の希望が寄せられるようになったことなどから、大学博物館らしい展示会になったのではないかと思う。

最後になりますが、準備にあたりご協力いただいた、大阪高等学校、浪速高等学校卒業生の皆様、岩根正尚様、旧制高校学校記念館、天理大学関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝いたします。

2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 夏期特集展覧会

科学で楽しむ怪異考
妖怪古生物展

概 要

大阪大学総合学術博物館 2016 年夏期特集展「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」を 2016 年 7 月 23 日（土）から 8 月 27 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

この展覧会は、古典や伝承に登場する神や妖怪といった非日常的な存在と「古生物」という学問を結びつけ、空想と科学の垣根を越えた科学の楽しさを提供することを目的とした。近畿圏をはじめ日本や海外から集められた約 100 点の貴重な化石と骨格標本を公開し、最新の研究成果とともに展示した。また、浮世絵や絵巻物などに描かれた妖怪と見比べながら、実在した絶滅生物と空想動物の謎に迫った。本展覧会の期間中の来場者は、3,854 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 2016 年夏期特集展覧会

テーマ：「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」

期 間：2016 年 7 月 23 日（土）～ 2016 年 8 月 27 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市、豊中市教育委員会

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪市立自然史博物館、太田記念美術館

株式会社サイエンスモンスター、京都大学霊長類研究所、滋賀県立琵琶湖博物館

信州新町化石博物館、戸隠地質化石博物館、西浦青雅堂、三重県総合博物館

瑞浪市化石博物館

入館者数：3,854 人

ミュージアム・レクチャー

第 71 回 8 月 6 日（土）「民俗学と古生物学から見た怪異考」 来場者数：60 人

齊藤 純（天理大学文学部 教授）

荻野 慎譜（古生物学者 理学博士）

豊中市関連イベント

7 月 30 日（土）「ちっちゃい化石モンスターを探せ！」 来場者数：35 人

西岡 佑一郎（早稲田大学高等研究所）

半田 直人（大阪大学総合学術博物館）

7 月 31 日（日）「これでキミもワニ博士ーマチカネワニのレプリカ作りー」

西岡 佑一郎（早稲田大学高等研究所）

来場者数：記録なし

半田 直人（大阪大学総合学術博物館）

古生物 展

妖怪

科學で楽しむ怪異考

アケボノソウ ▶
(大阪市立自然史博物館所蔵)

大阪大学総合学術博物館
2016年夏期特集展覧会

入館
無料

7月23日(土) ~ 8月27日(土)

開館時間：10:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)
休館日：日・祝日
会場：大阪大学総合学術博物館 (待兼山修学館)

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20
電話 06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

▲目ひとつぼう (福岡市博物館所蔵)

主催 大阪大学総合学術博物館
共催 豊中市、豊中市教育委員会
協力 大阪大学 21世紀懐徳堂、大阪市立自然史博物館、
太田記念美術館、株式会社サイエンスモンスター、
京都大学霊長類研究所、滋賀県立琵琶湖博物館、
信州新町化石博物館、戸隠地質化石博物館、
西浦青雅堂、三重県総合博物館、瑞浪市化石博物館

骨と化石が見せる奇妙な形

神や妖怪のような伝承生物

実在した絶滅生物の謎

民俗学と古生物学をつなぐ太古の物語

日本各地や海外の動物化石と骨格標本、計百点

伝承生物と関連づけられて百鬼が大行進する

《古生物学》の新世界をご覧あれ

この夏、阪大博がおくる怪奇ミステリー

イベントのご案内

民俗学と古生物学の専門家による
妖怪古生物学の講演会

博物館員による展示解説

開催日時

8月6日(土)

13時 ~ 16時

会場

大阪大学総合学術博物館(待兼山修学館)

3階セミナー室

定員40名(参加費無料)

当日先着順・申込不要

プログラム

12時30分 開場

13時00分 第一部 ミュージアムレクチャー
『民俗学と古生物学から見た怪異考』

14時50分 講演者

齊藤純

荻野慎譜

(天理大学文学部教授)
(古生物学者 理学博士)

(休憩10分)

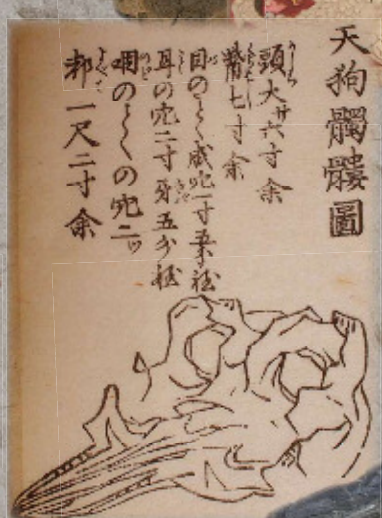
15時00分 第二部 ギャラリートーク

16時00分



マチカネワニ化石 (当館所蔵) ▼

▲ 東錦昼夜鏡 鶴草草葺不合尊 (太田記念美術館所蔵)



▲ 天狗髑髏鑑定縁起 (個人所蔵)



▲ イサナセタス(クジラ類)化石 (瑞浪市化石博物館所蔵)



▲ サンバー鹿化石 (三重県総合博物館所蔵)

交通のご案内
阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分
*公共機関をご利用ください。



報 告

大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会

「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」

大阪大学総合学術博物館

研究支援推進員 半田 直人

現代の私たちが目にすることのできない不思議な絶滅生物。その化石が見せる奇怪な姿形は、古来人々を魅了してきた。大阪大学総合学術博物館の常設展示室には、マチカネワニという巨大ワニ化石が展示されている。この展示でマチカネワニがどんな動物だったのか、どんな世界で生きていたのかという情報を知ることができる。これは研究者が「古生物学」という学問を作り、長年の研究で巨大ワニや恐竜のような絶滅生物の存在を明らかにしてきたからこそ受け入れられる、科学的事実である。

それでは、たとえばマチカネワニの一部だけを見つけた時に、それが絶滅したワニだと分かる人は少ないだろう。まして、古生物学が普及する以前の人々が絶滅生物の化石を目にしたとき、何を考えたか。目の前に理解できないものが現われた時、私たちはそれを神々や妖怪といった概念と結びつけることがある。絶滅生物の化石や動物の骨はそれ自体が“^{とくろ}髑髏”と言われることもあり、妖怪のような非日常的な存在が可視化したものとして扱われてきた。古生物学が普及した現代でも、化石や石を怪異として崇める信仰は世界中で確認されている。本展覧会は、古生物学としての科学的側面と、古典や伝承に登場する生き物の民俗学的側面を関連付けて、新しい「古生物学」の楽しみを紹介することを目的とした。

本展覧会は大きく3つの構成からなる。第1章では「古来の人々が目にした竜」と題して、竜の伝承とそれに関連する動物化石を展示した。古来、薬として利用されてきた動物化石はしばしば“竜骨”と呼ばれてきた。古来の人々は化石を竜の骨と見立てることがあり、それらはワニやゾウの頭や、シカの角である場合が多い。この章では、国内外で見つかっているゾウの頭骨や歯化石、ひとつの産地から同時に見つかっているワニとシカの実物化石を展示した。さらにゾウとシカの化石を組み合わせた“竜の頭”が古文書に記録された例を紹介した。



第1章展示風景



豊中市で見つかったゾウ化石

第2章「伝承と古生物」では、日本や海外に伝わる古典と伝承に登場する空想生物の描写と絶滅生物の化石の外見を比べ、その関連について紹介した。鬼と角と偶蹄類の角の関係、一つ目巨人とゾウの頭骨化石、天狗の爪とサメの歯化石、天狗の頭とクジラ類の頭骨化石、「因幡の白兔」の伝説とワニ・サメ化石、月のおさがりと呼ばれる奇石とビカリア（巻貝）化石、鶴伝説と食肉類化石、グリフォンとプロトケラトプス（恐竜類）化石、双頭のウシの発生的知見、ヤマタノオロチの火山説を展示した。



第2章展示風景



瀬戸内海海底から見つかった
ゾウの頭骨化石

第3章「描かれた妖怪古生物」では、神や妖怪が描かれた歴史、美術資料を展示した。具体的には、さまざまな器物などの妖怪が描かれた百鬼夜行絵巻（真珠庵本）や大阪大学豊中キャンパスで発見されたマチカネワニとゆかりのあるトヨタマヒメの描かれた作品（東錦画夜競／鶴茸草葺不合尊：楊洲周延、豊玉姫命 大日本国開闢由来記：歌川国芳）などを展示した。また、第2章で紹介した鬼、鶴、牛鬼、天狗などの浮世絵や絵巻物も展示した。絵画のほか、妖怪を模した根付や鏢なども展示して、当時からさまざまな物に妖怪や伝承が扱われてきたことを紹介した。



第3章展示風景



美術作品展示風景

また、本展覧会の関連行事としてミュージアムレクチャーと豊中市関連イベントを実施した。ミュージアムレクチャーは「民俗学と古生物学から見た怪異考」と題して、齊藤 純教授（天理大学文学部）と荻野 慎諧博士（兵庫県丹波市）により歴史資料に残された伝承や妖怪の姿が紹介され、それらの由来や当時の人々の自然観について講演が行われた。豊中市関連イベントとして「ちっちゃい化石モンスターを探せ！」では西岡 佑一郎博士（早稲田大学高等研究所）を講師として、洞窟の堆積物から小型哺乳類化石を探す体験を実施した。「これでキミもワニ博士ーマチカネワニのレプリカ作りー」では、西岡博士および当館職員の半田直人研究支援推進員により、マチカネワニの歯化石の石膏模型作り体験を行った。このほか、展示関連資料として、『2016年夏期特集展覧会古生物解説書』を配布した。

3. 展覧会報告Ⅲ

大阪大学総合学術博物館 第20回企画展

重建懐徳堂開学 100 周年記念 KAITOKUDO

大阪の誇り

— 懐徳堂の美と学問 —

概 要

第 20 回企画展「重建懐徳堂開学 100 周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」を 2016 年 10 月 22 日（土）から 12 月 22 日（木）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

本展は、大正 5 年（1916）に再建された懐徳堂（重建懐徳堂）の開学 100 周年にあたり、大阪大学大学院文学研究科および一般財団法人懐徳堂記念会との共催として企画されたものである。享保 9 年（1724）、大坂町人によって創設された漢学塾「懐徳堂」の精神は、その膨大な資料群とともに大阪大学に継承されているが、本展では、5 万点におよぶ懐徳堂文庫資料の中から、最重要の資料 35 点を厳選し、(1) 重建懐徳堂および懐徳堂幅、(2) 草創期の懐徳堂、(3) 懐徳堂の展開、の 3 つのブロックに分けて展示した。中には、五井持軒の「和語集解」、「中井履軒・上田秋成合賛鶉図」（ともに懐徳堂記念会新収資料）など、初公開の資料もあり、注目された。

本展覧会の期間中の来場者は、3889 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第 20 回企画展

テーマ：「重建懐徳堂開学 100 周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り・懐徳堂の美と学問」

期 間：2016 年 10 月 22 日（土）～ 2016 年 12 月 27 日（木）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院文学研究科、一般財団法人懐徳堂記念会

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：3889 人

ミュージアム・レクチャー

第 72 回 11 月 5 日（土）「懐徳堂の歩みとそれを支えた人々」 来場者数：16 人

中村 翼（文学研究科 助教）

第 73 回 11 月 26 日（土）「懐徳堂の儒学」 来場者数：20 人

佐藤 由隆（文学研究科 博士後期課程院生）

第 74 回 12 月 17 日（土）「懐徳堂の和学—新出資料『和語集解』について—」

河野 光将（文学研究科 博士後期課程院生） 来場者数：22 人

関連イベント

第 132 回懐徳堂秋季講座 10 月 29 日（土）「よりよく生きるために」

会 場：大阪大学 豊中キャンパス 共通教育棟 A102 参加者：106 名

主 催：一般財団法人懐徳堂記念会

共 催：大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科・大阪府

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 後援：大阪市

シンポジスト：大形 徹 氏（大阪府立大学 教授）

吾妻 重二 氏（関西大学 教授）

竹田 健二 氏（島根大学 教授）

大阪大学総合学術博物館 第20回企画展
重建懷徳堂開学100周年記念

KAITOKUDO

大阪の誇り — 懷徳堂の美と学問 —



入館
無料

2016年

10月22日(土)~12月22日(木)

開館時間 10:30~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 日曜・祝日 (11月6日(日)は開館)

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館



大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学大学院文学研究科

一般財団法人懷徳堂記念会

協力：大阪大学 21世紀懷徳堂

大阪の誇り—懷徳堂の美と学問—

懷徳堂は、享保9年(1724)、大坂町人によって創設された漢学塾です。2年後には江戸幕府の公認を得て、「学問所」と呼ばれるようになりました。町人と武士とが机を並べて学ぶ自由闊達な学びの場でした。

この懷徳堂は幕末維新の混乱で一旦閉校となりますが、大正5年(1916)に再建されます(重建懷徳堂)。江戸時代の懷徳堂の精神を継承し、広く大阪の人々に向けて開かれた市民大学でした。残念ながら、この重建懷徳堂が、昭和20年(1945)の大阪大空襲によって焼失します。しかし、鉄筋コンクリート造りの書庫棟に保管されていて焼失を免れた貴重資料約3万6千点は、戦後、一括して大阪大学に寄贈され、「懷徳堂文庫」となります。ここに、大阪大学は、懷徳堂を阪大の精神的源流と位置づけ、一般財団法人懷徳堂記念会と協力して、公開講座などの各種事業を展開し、現在に至っています。

懷徳堂文庫の膨大な資料群は、近世から現代に至る大阪の美と学問を今に伝えています。本年は、重建懷徳堂が開学してからちょうど100年。大阪の誇り「懷徳堂」を今一度見直してみましょう。

【展示構成】

(I) 重建懷徳堂および懷徳堂幅

重建懷徳堂復元模型、同設計図、
懷徳堂幅(三宅石庵)など

(II) 草創期の懷徳堂

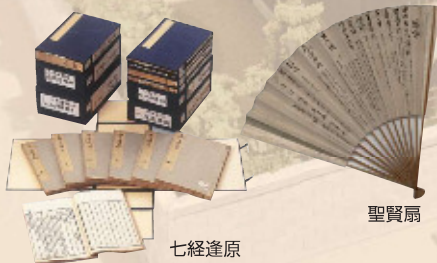
宝暦八年定、万年先生論孟首章講義、喪祭私説、
和語集解(五井持軒、懷徳堂記念会新収資料)など

(III) 懷徳堂の展開

中井竹山肖像画、中井履軒肖像画、
帰馬放牛図(谷文晁)、非徴、草茅危言、
中井履軒・上田秋成合賛鶉図(懷徳堂記念会新収資料)など



懷徳堂幅



聖賢扇

七経逢原



中井履軒・上田秋成合賛鶉図



天図(木製)



左九羅帖



中井履軒肖像画

ミュージアムレクチャー

各回定員40名、当日先着順、予約不要
参加費無料、開始30分前に開場します

場所：待兼山修学館3階セミナー室

■ 11月5日(土)13:30~14:30

■ 11月26日(土)13:30~14:30

■ 12月17日(土)13:30~14:30

大阪大学の研究者が企画展示資料について解説します。
解説の中心となる展示資料は毎回異なります。

関連イベント

「懷徳堂展」連携重建懷徳堂開学100周年記念

場所：大阪大学豊中キャンパス共通教育棟A102

第132回懷徳堂秋季講座

「よりよく生きるために」

2016年 **10月29日(土)**

◆ 開会式：13:00~13:10

◆ 第一部 講演会：13:10~14:10

吾妻重二(関西大学教授)

「儒教の葬祭儀礼と日本」

◆ 第二部 シンポジウム：14:30~16:10

大形 徹(大阪府立大学教授)

吾妻重二(関西大学教授)

「中国の古典に学ぶ生と死」

司会 竹田健二(島根大学教授)

◆ 特別参観

講演・シンポジウムで取り上げられる中井塾
「喪祭私説」をはじめ、懷徳堂の貴重資料を
ご覧いただけます。観覧ご希望の方は、シンポ
ジウム終了後、大阪大学総合学術博物館待兼山
修学館までご案内し、担当者が資料の解説をさ
せていただきます。

※要事前申し込み。

詳細は懷徳堂記念会ホームページをご覧ください。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>



参加費(講演会・シンポジウム)

● 懷徳堂記念会会員 500円 ● 一般 1,000円
(申込順150名)



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



館内ミュージアムカフェ「坂」にて懷徳堂関連グッズ販売中

交通のご案内：

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分

※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館



一般財団法人
懷徳堂記念会

「懐徳堂展」連携 重建懐徳堂開学100周年記念

2016年 10月29日(土)

大阪大学 豊中キャンパス
共通教育棟A102(大阪府豊中市待兼山)

スケジュール

13:00～13:10 開会式 (受付12:20～)

13:10～14:10
第一部 講演会

「儒教の葬祭儀礼と日本」
吾妻重二(関西大学教授)

14:30～16:00
第二部 シンポジウム

「中国の古典に学ぶ生と死」
大形 徹(大阪府立大学教授)
吾妻重二(関西大学教授)
司会 竹田健二(島根大学教授)

生
よりよく
たきこる
ため

第132回
懐徳堂
秋季講座

特別参観

大阪大学総合学術博物館「待兼山修学館」で、下記の期間中、懐徳堂展が開催されています。

講演・シンポジウムで取り上げられる中井齋庵「喪祭私説」をはじめ、懐徳堂の貴重資料をご覧いただけます。観覧ご希望の方は、シンポジウム終了後、係の者をご案内し、担当者が資料の解説をさせていただきます。



吾妻重二



大形 徹



竹田健二

※都合により、講座内容・時間が変更になることがあります。ご了承ください。

主催／一般財団法人 懐徳堂記念会

共催／大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科・大阪府

協力／大阪大学21世紀懐徳堂 後援／大阪市

大阪大学総合学術博物館 第20回企画展

KAITOKUDO
大阪の誇り

— 懐徳堂の美と学問 —

2016年10月22日(土)～12月22日(木)

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

「懐徳堂展」連携 重建懐徳堂開学100周年記念

生

よりよく
ためきる

第132回
秋季講座
懐徳堂

かつて懐徳堂で学ばれていた中国の古典には、人間の「生」と「死」に関わる重要な教えが含まれています。重建懐徳堂の開学100周年を記念し、私たちにとって最も大切なこの問題を取り上げます。

第一部は、朱子学の大成者・朱熹の冠婚葬祭マニュアルとも言える『家礼(かれい)』を手がかりに、儒教の葬送儀礼を探ります。また、位牌はいつ頃から日本で使われるようになったのか、仏壇と『家礼』はどういう関係にあるのかなど、日本への影響についても考えます。

また第二部では、儒教・道教の死生観に詳しい大形徹大阪府立大学教授と吾妻重二関西大学教授を迎え、中国の様々な古典に視野を広げて、「生」と「死」の問題を語っていただきます。

2016年
10月29日(土)

第一部 講演会	13:10~14:10	関西大学教授 吾妻 重二	儒教の葬祭儀礼と日本
第二部 シンポジウム	14:30~16:00	大阪府立大学教授 大形 徹 関西大学教授 吾妻 重二 司会 竹田 健二 島根大学教授	中国の古典に学ぶ生と死
特別参観	シンポジウム終了後、ご希望の方には、下記の懐徳堂展をご案内(資料解説付)致します。		

※都合により、講座内容・時間が変更になることがあります。ご了承ください。

大阪大学総合学術博物館
第20回企画展

KAITOKUDO 大阪の誇り

— 懐徳堂の美と学問 —

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館

展覧会のお問い合わせ 大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 電話 06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

懐徳堂春秋記念講座

懐徳堂春秋記念講座は、懐徳堂記念会が大阪大学に「懐徳堂文庫」を寄贈したのを記念して、昭和26年(1951)、第一回の講演会が開かれました。以来、春と秋にテーマを決めて開講しています。懐徳堂創立以来の開かれた精神、自由・独創を重んずる気風を大切にしながら、古今東西の事象から魅力あるテーマを選択し、一流の講師陣が分かりやすく講演します。

享保9年(1724)、大坂に生まれた学問所「懐徳堂」は、町人文化の知的センターとして大きな足跡を残しました。

その精神を受け継ぎ、明治43年(1910)に設立された懐徳堂記念会は、平成22年(2010)に創立100周年を迎えました。

記念会では、今後も講座や出版物の刊行を通じて、懐徳堂の魅力とその意義を、社会に向けて積極的に発信していきたいと考えています。

記念会に1人でも多くの方のご入会を、心よりお待ちしております。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>

場 所
大阪大学 豊中キャンパス
共通教育棟A102 (大阪府豊中市待兼山)

参加費 (3日間)
会員:500円 一般:1,000円 賛助会員:無料
(当日受付にてお支払い下さい)

申 込
住所・氏名・電話番号を事務局まで。
TEL・FAX・メール・ハガキ、どの方法でも結構です。

連絡先
一般財団法人 懐徳堂記念会事務局
〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 (大阪大学文学部内)
TEL (06)6843-4830 (直通)
FAX (06)6843-4850
E-mail kaitokudo@let.osaka-u.ac.jp
URL <http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>

締 切
10月24日(月) 先着150名

会 場 : 大阪大学 豊中キャンパス 共通教育棟A102
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町
TEL:06-6850-6284

・阪急宝塚線「石橋」駅下車 東口から徒歩約15分
・大阪モノレール「柴原」駅下車 徒歩約15分

- 一般財団法人 懐徳堂記念会賛助法人 (五十音順)
- | | | | | | | |
|---|---|---|--|--|---|--|
| あいおいニッセイ同和損害保険(株)
(株)あおい
(株)朝日新聞社
朝日放送(株)
(株)石原時計店
(株)イーキ
稲畑産業(株)
(株)エイチ・アイ・エス
SMBCFレンド証券(株)
国立大学法人大阪大学
大阪大学出版会 | (株)大林組
(株)カネカ
(宗)華厳春日神社
(株)関西アーバン銀行
(株)紀伊國屋書店
近鉄グループホールディングス(株)
(株)近鉄百貨店
(株)きんでん
(株)ケーエスアイ
(株)合通
(株)鴻池組 | ココヨ(株)
サラヤ(株)
三機工業(株)
サントローホールディングス(株)
(株)ジェーシービー
塩野義製薬(株)
新日鐵住金(株)
住友化学(株)
住友商事(株)
住友生命保険(株)
(株)住友倉庫 | 住友電気工業(株)
(学)豊河台学園
誓願寺
(学)清風学園
ダイキン工業(株)
(株)ダイセル
大日本印刷(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
武田薬品工業(株)
(株)竹中工務店
辰野(株) | 東洋紡(株)
凸版印刷(株)
長瀬産業(株)
中西金匠工業(株)
日本板硝子(株)
日本生命保険(株)
(株)日本総合研究所
ハウス食品グループ本社(株)
パナソニック(株)
阪急電鉄(株)
ヒガシトウエンティワン(株) | ヒガシマル醤油(株)
(株)福永懐徳堂
丸一醤油(株)
三井住友カード(株)
三井住友海上火災保険(株)
(株)三井住友銀行
三井住友信託銀行(株)
三井住友フィナンシャルグループ(株)
(株)三菱東京UFJ銀行
(株)遼文舎
(株)読売新聞大阪本社 | (株)りそな銀行
レンゴウ(株)
(株)ロイヤルホテル
ほか、4社 |
|---|---|---|--|--|---|--|
- <H28年1月現在>

報 告

大阪大学総合学術博物館 第20回企画展

「重建懐徳堂開学100周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」

大阪大学大学院文学研究科

教授 湯淺 邦弘

開催の趣旨

大正5年(1916)に再建された重建懐徳堂は、江戸時代の懐徳堂の精神を継承するとともに、広く大阪の人々に向けて、近代の「知」を提供しようとする市民大学であった。残念ながら、この懐徳堂は、昭和20年(1945)の大阪大空襲によって焼失するが、鉄筋コンクリート造りの書庫棟に保管されていた貴重資料約3万6千点は、戦後、一括して大阪大学に寄贈され、「懐徳堂文庫」となって現在に至っている。



「重建懐徳堂模型」

大阪大学大学院文学研究科 所蔵

その最大の特色は、書籍に加えて、多くの器物を有する点である。書画・屏風・印章・版木など、当時の学校の様子を彷彿とさせる様々な資料が伝えられている。また、関係者からの寄贈や大阪大学・懐徳堂記念会の購入などにより、資料点数が今も増加している点も、「生きている文庫」として大きな価値を持っている(現在約5万点)。

さらに、デジタルアーカイブ化や資料修復も積極的に進められている。最新のデジタル技術と伝統的な修復の技。これらが、懐徳堂文庫に新たな生命を吹き込んでいるのである。

この展覧会では、重建懐徳堂開学100周年記念事業の一環として、大阪大学大学院文学研究科および一般財団法人懐徳堂記念会との共催で、約300年におよぶ懐徳堂の歴史を、貴重資料によって振り返った。大阪の誇りを今一度見直す機会になったと思われる。

本展覧会の意義

この展覧会は、広く一般市民に興味を持っていただけるとともに、国内外の研究者にとっても貴重な機会になった。近年、国内外の研究者・団体から懐徳堂文庫の視察が相次いでいるが、文庫を収蔵する大阪大学附属図書館が常設展示を行っていないため、こうした展覧会の機会が設けられたことは、きわめて意義深いことであった。

また、この展覧会は、一般財団法人懐徳堂記念会との共催で実施した。記念会は、重建懐徳堂の精神を尊重する多くの会員(法人・一般)によって支えられており、これらの会員に貴重資料を披露できたことは、大阪大学と懐徳堂記念会との協力関係をさらに緊密にする絶好の機会となった。

さらに、期間中に三回、学内の若手研究者によるミュージアムレクチャーを実施した。若手研究者が資料解説を行うことによって、大学と市民との距離を縮め、博物館にいつもの親しみを持ってもらうことができた。

展示の構成

懐徳堂文庫資料の中から 35 点を厳選し、以下の 3 つのコーナーに配置した。

(1) 重建懐徳堂および懐徳堂幅

ここでは、まず来館者に「重建懐徳堂復元模型」をご覧いただき、重建懐徳堂 100 周年記念事業の一環であることを印象づけた。この模型は、大正 5 年に再建された懐徳堂の 50 分の 1 サイズの精密な模型である。その制作が可能となったのは、大阪大学にその設計図が残されていたからである。このコーナーには、その設計図（竹中工務店設計・施工）や重建懐徳堂の出席者名簿も展示した。また、江戸時代の懐徳堂の創立を象徴する資料として、初代学主三宅石庵の筆になる「懐徳堂幅」を掲げ、〈懐徳〉の意味についてもご理解いただけるよう配慮した。

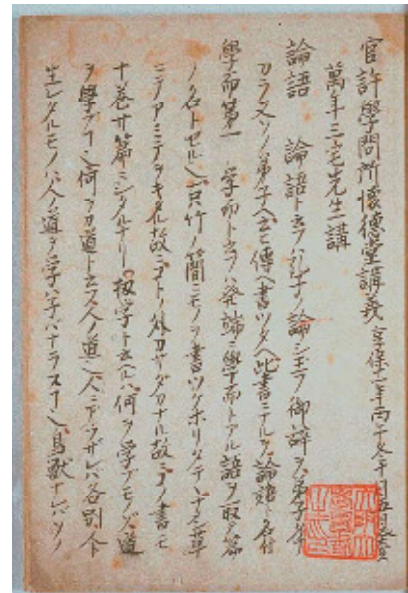


「懐徳堂幅」

大阪大学大学院文学研究科 所蔵

(2) 草創期の懐徳堂

懐徳堂は享保 9 年（1724）に大阪町人によって創設された。このコーナーでは、その基本的精神や運営・学問を知るための資料を展示した。懐徳堂の代表的な学則である「宝暦八年定」、三宅石庵による『論語』『孟子』の講義を記録した「万年先生論孟首章講義」、懐徳堂第二代学主中井塾庵が古礼の中で最も重要な「喪」「祭」二礼について解説した「喪祭私説」、五井持軒の語源辞書「和語集解」などを展示した。この内、「和語集解」は、イロハ順に語を挙げながら、その語源について説いたもので、懐徳堂記念会新収資料。今回が初公開となった。



「万年先生論孟首章講義」

大阪大学附属図書館 所蔵

(3) 懐徳堂の展開

第四代中井竹山とその弟履軒の頃に懐徳堂は黄金期を迎えたとされる。このコーナーには、その時期の資料を中心として展示した。まず、「中井竹山肖像画」と「中井履軒肖像画」。また、蔀関月・中井藍江による「宋六君子図」、

谷文晁による「帰馬放牛図」、中井履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えた「聖賢扇」など、美術史的にも極めて貴重な資料が出品された。「帰馬放牛図」はこれまで著しい経年劣化が見られたが、汚損の修復処理などにより、本来の姿に近づいた。修復作業の成果を示す展示である。「中井履軒・上田秋成合賛鶉図」は、中井履軒と上田秋成との交友を示す貴重な資料であるが、懐徳堂記念会新収資料で、今回が初公開であった。



「鶉図」

一般財団法人懐徳堂記念会 所蔵

もちろん、文献についても重要な資料が展示された。

中井竹山の主著で、荻生徂徠の『論語徴』を批判した『非徴』、中井竹山が老中首座松平定信の求めに応じて執筆した経世論『草茅危言』、中井履軒の漢学研究の成果『論語雕題』や『史記雕題』、杉田玄白らの『解体新書』に先立つ中井履軒の人体解剖図説『越俎弄筆』など、平常は非公開の重要資料が展示された。

成果と課題

期間中、新聞社の取材を受けた。まず、読売新聞夕刊（2016年11月14日）に、「懐徳堂 大阪300年の誇り」として紹介され、また、毎日新聞夕刊（2016年12月8日）に、「懐徳堂の精神宿す35点」として取り上げられた。江戸時代以来の学問所に関わる資料という、一般にはなじみが薄く、言わば地味な展示ではあったが、来場者は多数にのぼり、また開催に合わせて、『増補改訂版懐徳堂事典』（湯浅邦弘編著、大阪大学出版会）と『懐徳堂の至宝—大阪の「美」と「学問」をたどる—』（大阪大学総合学術博物館叢書、湯浅邦弘著、大阪大学出版会）が刊行されたのもタイムリーであった。

今後は、懐徳堂記念会とも連携して、さらに懐徳堂に関する情報を広く国内外に発信し、大阪大学の源流としての懐徳堂を顕彰する諸活動を推進したい。

4. 大学を活用した文化芸術推進事業

記憶の劇場

大阪大学総合学術博物館

— 大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 —

概 要

大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」を2016年7月23日（土）から2017年3月11日（土）の間、開催した。

アートマネジメント人材育成講座として、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の助成を受けた講座で、55名の受講生を迎え入れた。全体に関わる講座（活動①）と、それぞれの担当講師の特色を持った6つの講座（活動②～⑥）をおよそ9ヶ月にわたり開催し、講座の最後には成果発表として、全体で展覧会を開催した。本展覧会の会期は2週間足らずにもかかわらず期間中には552名もの来場者があり、好評であった。

「記憶の劇場」

大阪大学総合学術博物館—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座

期 間：2016年7月23日（土）～2017年3月11日（土）

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学文学研究科

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、公益財団法人吹田市文化振興事業団（吹田メシアター）、豊中市都市活力部文化芸術課、能勢淨るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、公益財団法人益富地学会館

助 成：平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

協 力：大阪大学21世紀懐徳堂

年間活動：

活動①「「記憶の劇場」オープニング講座」、「クロージング・シンポジウム」

2016年7月23日（土）・24日（日）、2017年3月11日（土）

講座内容：オープニング講座、博物館見学、クロージング・シンポジウム

活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」

2016年9月18日（日）、10月2日（日）、2017年1月8日（日）、1月29日（日）、2月4日（土）

講座内容：座学・演習、フィールドワーク、上方浮世絵館見学、イベント

活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」

2016年10月8日（土）、10月15日（土）、10月22日（土）、10月29日（土）、11月20日（日）

講座内容：座学、エクスカッション

活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」

2016年11月13日（日）、12月18日（日）、12月24日（土）、12月25日（日）

講座内容：座学、演奏会リハーサル、演奏会

活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」

2016年10月15日（土）、11月12日（土）、12月17日（土）、2017年3月4日（土）

講座内容：資料閲覧、シンポジウム、上演に向けてのワークショップ、上演

活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」

2016年8月6日（土）、8月13日（土）、9月11日（日）、11月27日（日）、12月11日（日）、2017年1月29日（日）、2月26日（日）、2月27日（月）、3月3日（金）

講座内容：講演、ワークショップ、映画上映会、上演、トークイベント

活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」

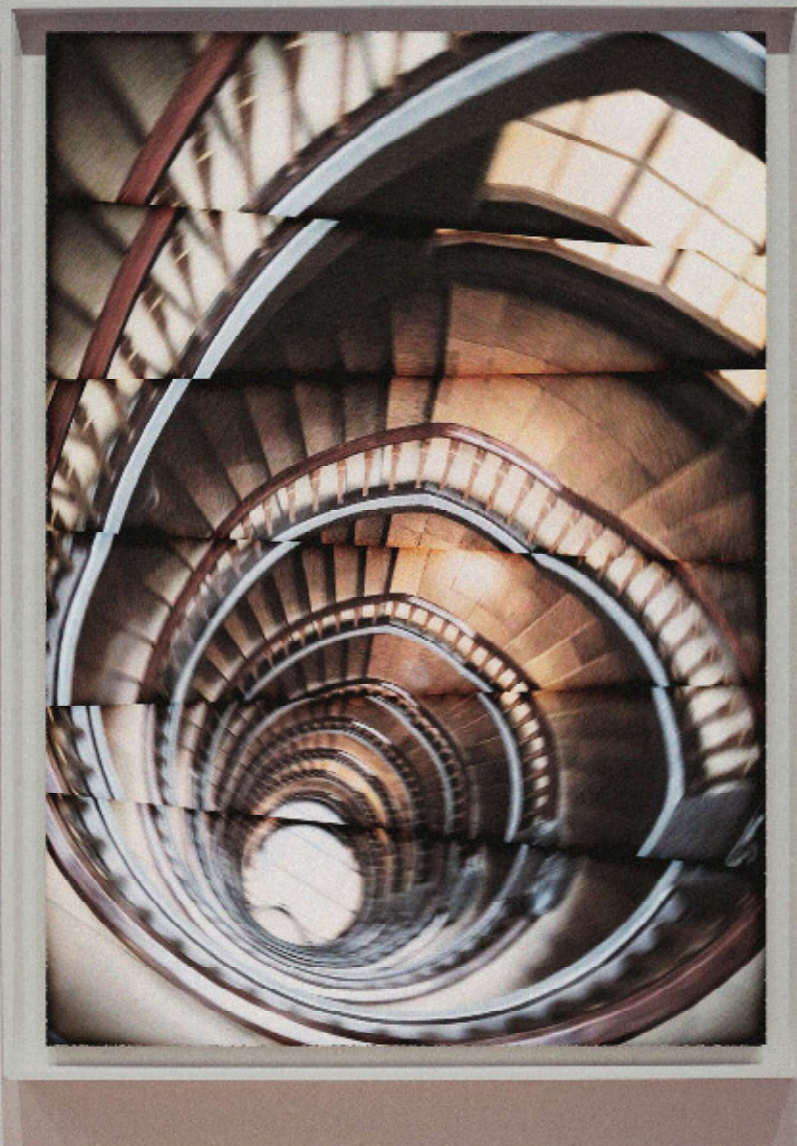
Vol.1: 2016年8月11日（土）～2017年1月14日（土）

Vol.2: 2016年8月12日（土）、9月4日（土）、9月9日（土）、9月10日（土）、9月17日（土）、10月8日、11月23日（土）

講座内容：映像の座学と実践、上演、トークイベント、remoscope ワークショップ

大阪大学総合学術博物館

記憶の劇場 展覧会



2017.2.27_月 → 3.11_土

[開館時間] 10:30~17:00 (入館は16:30まで) [休館日] 日曜日 入場無料

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 (大阪府豊中市待兼山町1-20)

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学文学研究科

連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 大阪新美術館建設準備室 公益財団法人吹田市文化振興事業団（吹田メイシアター）
豊中市都市活力部文化芸術課 能勢浄るりシアター 兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター） 公益財団法人益富地学会館

助成：平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

<https://kiogeki.org/>



大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」

社会と大学との協奏を生かしたリサーチ型ミュージアムの探求

本展覧会は、大阪大学総合学術博物館が主催し、近隣の劇場・音楽堂・美術館等とも共同して開催してきた、文化芸術ファシリテーター養成講座「記憶の劇場」の成果を公開するものです。この「記憶の劇場」は、博物館に収められているいわゆる〈ミュージアム・ピース〉の豊かさを引き出し、〈生きたアート〉として公開していく文化芸術ファシリテーターの育成を目指す講座です。受講されたのは、文化芸術に関心のある社会人を中心とした方々で、それぞれが6つの活動を選択し受講してきました。

本講座は、従来博物館が収集、維持保存し、研究してきた「ミュージアム・ピース」を現代社会に適合させ、それらを「生きたアート」として現代市民社会に開き、また大学博物館としての強みを生かし、文理融合的あるいは基礎研究的な潜在力と連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方をさらに探求するものとして始めました。本展覧会は、そのような活動を行ってきた本講座を紹介するとともに、講座に参加された受講生の成果を発表する場として開催いたします。

関連イベント

「展覧会『記憶の劇場』
クロージング・シンポジウム」

2017年3月11日(土)14:00~
会場:大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ
(大阪大学会館1階)

※入場無料・要事前申し込み
<https://kiogeki.org/contact>
よりお申し込みください

1 「記憶の劇場」オープニング講座、 クロージング・シンポジウム

国内外の公共施設やミュージアムの持つ今日的な意義と問題を学び各活動の理念を共有しました。また、総合的な芸術ファシリテーターとしての活動成果発表の場として、〈ミュージアム・ピース〉を活用した、地域社会との協奏による「リサーチ型ミュージアム」のあり方を実践する展覧会とクロージング・シンポジウムを開催します。

2 地域文化の研究による発信・顕彰と メディアリテラシー (担当:橋爪節也)

大阪の歴史や文化芸術、現状、「運河」などを、メディアリテラシーを踏まえつつ探り、地域の魅力を発信するペーパーの編集を試みました。



3 自然科学に親しむ・触る・アートする (担当:上田貴洋、伊藤謙)

“研究者”と“自然科学を題材とする作家”が協同してアートを紹介することで、アート作品に隠された科学的背景を知る“最初の一步”を体感しました。



4 オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ (担当:伊東信宏)

三輪真弘氏によるオペラ『新しい時代』の再演を念頭に演奏会「声のような音／音のような声」を企画開催しました。

5 パフォーミング・ミュージアム Vol.1 (担当:永田靖、横田洋)

博物館所蔵の森本薫関連資料を実際に扱い、研究を進めると同時に、関連上演のファシリテートと展覧会の企画を行いました。



6 紛争・災害の TELESOPHIA (担当:山崎達哉)

阪神淡路大震災における人々の協力関係や共生意識に重きを置いて、現地へ赴き、対話を主とした調査を進めました。

7 ドキュメンテーション / アーカイヴ (担当:古後奈緒子)

維新派の稽古場、劇団石の作品にインスパイアされた WS、remoscopeWS で、「記録すること」について考えました。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
Tel.06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>
阪急電鉄 宝塚線 石橋駅(徒歩10分)
お問い合わせ: <https://kiogeki.org/contact>



報 告

大阪大学総合学術博物館

「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座

大阪大学総合学術博物館

特任研究員 山崎 達哉

大阪大学総合学術博物館では、文学研究科と共催し、平成28年度より「「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」を開催している。これは、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の助成を受けているもので、アートマネジメントの人材を育成する講座として開いており、受講者は社会人を中心に学生も参加した。受講者には、多ジャンルの文化芸術プログラムに対応できるように、演劇、音楽、美術などの芸術ジャンルだけでなく、自然科学なども含む多様な文化芸術領域の講座を用意し、人材育成を行った。本講座では、「記憶」という共通のテーマのもと、大阪文化、化石・鉱物、現代音楽、演劇、震災、ドキュメンテーションという6つの個別の講座と、全体に関わる講座の全7つの講座を用意した。受講生は6つのそれぞれの講座に分かれ、ひとつのテーマに真摯に向き合い、フィールドワークやワークショップなどの講座を受講し、映像の撮影や上演にかかわる運営などの実践も行った。

本展覧会は、全7つの講座に参加した受講生と担当講師との約1年間の講座の成果発表として開催した。それぞれの講座を「活動①～⑦」と称し、それぞれ次のようなタイトルを持ち、展覧会でもそれぞれの部屋を表す名前となった。活動①「「記憶の劇場」オープニング講座、クロージング・シンポジウム」、活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」（担当：橋爪節也）、活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」（担当：上田貴洋、伊藤謙）、活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」（担当：伊東信宏）、活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」（担当：永田靖、横田洋）、活動⑥「紛争・災害のTELESOPHIA」（担当：山崎達哉）、活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」（担当：古後奈緒子）。「展覧会「記憶の劇場」」では、展覧会場である待兼山修学館を7つの部屋に分け、活動①～⑦の講座のコンセプトと内容を紹介するとともに、1年間の講座の成果報告の場となった。



「展覧会「記憶の劇場」パンフレット



「展覧会「記憶の劇場」パンフレットより、活動別の部屋割

展覧会は「活動①「記憶の劇場」オープニング講座、クロージング・シンポジウム」を第1室として始めた。ここでは、全体を統括する「活動①」として、「「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」の紹介と活動②～⑦の1年間の成果を表す写真と展示内容を示唆する「なぞかけ」の文章、またそれぞれの活動を象徴する物体を展示した。



第1室「活動①「記憶の劇場」オープニング講座、クロージング・シンポジウム」より、それぞれの活動内容を表す写真と造形物

第2室には「活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」」が展示された。この講座では、水都大阪のシンボルである《中之島》《道頓堀》の2つの地区に焦点をあて、その文化的価値と魅力を発信・顕彰する小冊子を作成した。展示においても、中之島と道頓堀という異なった個性の街の魅力を探求する過程を提起した。受講生による記録と記憶を探る調査を映像と写真などを駆使して展示した。好奇心を街や都市へと開いた“エコ・ミュージアム”の可能性への挑戦となった。



第2室「活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」」より、中之島から道頓堀までの地図と調査における写真展示



第2室「活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」」より、作成した冊子

次の第3室には、「活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」」を展示した。これは、三輪眞弘氏のオペラ『新しい時代』（2000年初演）という作品の再演を目指した演奏会とそれに関わるワークショップを行った講座の記録である。受講生も出演した、オペラの音楽的核となる作品が流れる部屋に、作曲家・三輪眞弘の紹介と、



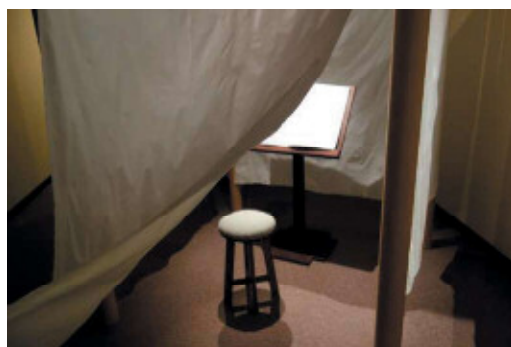
オペラ『新しい時代』を構成する作品による演奏会の記録を展示した。ここでは、電子音と「声」の往来による「言葉」の不思議さを見つめ直す演奏会や展示となった。

第3室「活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」」の演奏会の記録展示

第4室では「活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」」(Vol.1とVol.2)の成果が展示された。Vol.1では、維新派『アマハラ』公演の現場で、受講生個々が「何を」と「いかに」に揺れながら動いた成果を公開した。Vol.2では、劇団石（トル）が受け継いだものをめぐるWSに前後する受講生の記録者としての変化を、remoscopeの力を借りて浮かび上がらせた。この展示では、自発的に動き、決定し、見るメディアとしての人の可能性と、記録をしようとする際の「受け渡される」という現象を提示した。



第4室「活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」」より、映像作品の展示



第5室「活動⑥「紛争・災害のTELESOPHIA」」より、「聞き書き」本展示の様子

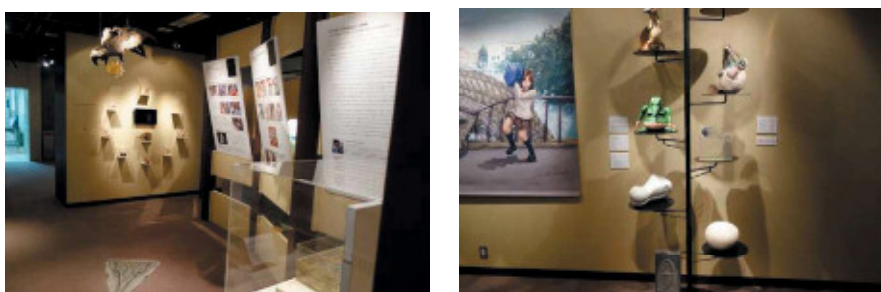
次の第5室では、1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災に焦点をあてた「活動⑥「紛争・災害のTELESOPHIA」」の展示があった。この講座では、受講生とともに調査と考察を進め、震災からの復興において、たくさんの助け合いや協力があったことを知り、「遠い・離れた(=tele)」「大切な知(=sophia)」を想うこととなった。展示においては、被災した方々から話を伺った「聞き書き」本を作成し、薄れつつある震災の記憶に触れる展示となった。

第6室の「活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」」に展示されたのは、大阪大学総合学術博物館に寄託されている「森本薫関連資料」であった。森本薫は、大阪生まれで、日本のモダン・ドラマを代表する劇作家で、劇団「文学座」での活動が知られている。活動⑤では、「資料」の閲覧や調査、森本薫についてのレクチャー、シンポジウムの開催を通して森本薫について理解を深め、作品への接近の仕方を模索した。さらに演出家を招いて、「森本薫関連資料」を活用した上演も行った。



第6室「活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」」の「森本薫関連資料」の展示

最後の第7室には、「活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」」を展示した。この部屋では、講座において学習・実習を行った化石・鉱物のアートとしての魅力と、その科学的視点からの考察を紹介した。鉱物標本においては、結晶の美しさに着目した写真による表現方法をとった。また、化石標本、我国の登録記念物である、大阪大学総合学術博物館蔵のマチカネワニ化石の頭骨レプリカを中心に、様々な立体造形作家による作品を展示し、自然科学を通じ“記憶”をアートとして表現した。



第7室「活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」」の展示

このように本展覧会においては、音楽、演劇などの芸術や、街の文化や記録、自然科学など様々な領域における講座を開催し、最終的に展覧会へと結実したものである。展覧会開催にあたっては、講座を受けた受講者と担当の講師による綿密で継続的な計画のもとで成立した。本展覧会においては、本講座において目指す、「博物館に収められているいわゆる〈ミュージアム・ピース〉の豊かさを引き出し、〈生きたアート〉として公開」することに成功したといえる。また、積極的な受講生の参加により、「地域社会との協奏による芸術実践の試みと基礎研究的な潜在力とを連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方」においても目的を達成することができたのではないだろうか。参加した受講生は、講座や展覧会を通して、多様な文化芸術領域のファシリテートに柔軟

に対応できる力が育まれたであろう。そのような受講生は、今後もコンセプトや内容にまで立ち入って企画運営に関与し、新しい展覧会やアート・イベント等を創出していくことで、文化芸術シーンの活性化に寄与できると期待している。

このように、博物館の資料を活用し、「リサーチ型」で講座を進め、展覧会の実践まで行えたことは大学で開催した講座ならではの特色だったと考える。また、様々な社会背景を持つ受講生同士、あるいは大学教員と受講生同士の協力の実現も大学における本講座の特有の成果といえ、講座、展覧会ともに大変意義のある結果を生むこととなったのではないだろうか。

5. シンポジウム報告 I

大学ミュージアムをめぐるシンポジウム

みんなのヒストリー
みんなのミュージアム
学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営

概要

シンポジウム

テーマ：平成 28 年度文化町地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

交流する大学ミュージアムを目指して～大学の扉を開く～

大学ミュージアムをめぐるシンポジウム

「みんなのヒストリー みんなのミュージアム」

大学・自治体・企業の歴史とミュージアム運営

日時：2016 年 12 月 11 日(日) 13:30～17:00

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム C01+02

主催：大阪大学総合学術博物館

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

後援：北大阪ミュージアム・ネットワーク

協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

来場者数：55 人

プログラム：

司会：徳田 明仁（愛媛大学ミュージアム准教授）

【第一部】

ごあいさつ・趣旨説明

永田 靖（大阪大学総合学術博物館館長）

「自校史教育の拠点～常翔歴史館のミッション～」

益山 新樹（常翔歴史館館長）

「小林一三をめぐるクロノスとトポス～近代の大阪における資産と文化の集積～」

仙海 義之（阪急文化財団学芸課長）

「関西大学における年史について」

伊藤 信明（関西大学博物館学芸員）

「地域博物館と連携～吹博（すいはく）の取組～」

藤井 裕之（吹田市立博物館副館長）

「大学の歴史は誰のものか～《源流》探しと都市大阪、そして博物館～」

橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館教授）

【第二部】

パネルディスカッション

益山 新樹（常翔歴史館館長）

仙海 義之（阪急文化財団学芸課長）

伊藤 信明（関西大学博物館学芸員）

藤井 裕之（吹田市立博物館副館長）

橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館教授）

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
交流する大学ミュージアムを目指して ～大学の扉を開く～

大学ミュージアムをめぐるシンポジウム

みんなのヒストリー

みんなのミュージアム



学校・自治体・企業の歴史と
ミュージアム運営

2016年12月11日(日)

13時30分～17時00分(13時開場)

【会場】 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル カンファレンスルームC01+02

第一部 司会:徳田明仁(愛媛大学ミュージアム准教授)

- ◇ごあいさつ・趣旨説明
永田靖(大阪大学総合学術博物館館長)
- ◇「自校史教育の拠点 ～常翔歴史館のミッション～」
益山新樹(常翔歴史館館長)
- ◇「小林一三をめぐるクロノスとトポス
～近代の大阪における資産と文化の集積～」
仙海義之(阪急文化財団学芸課長)
- ◇「関西大学における年史について」
伊藤信明(関西大学博物館学芸員)
- ◇「地域博物館と連携 ～吹博(すいはく)の取組～」
藤井裕之(吹田市立博物館副館長)
- ◇「大学の歴史は誰のものか ～《源流》探しと都市大阪、そして博物館～」
橋爪節也(大阪大学総合学術博物館教授)

第二部 司会:徳田明仁(愛媛大学ミュージアム准教授)

- ◇パネル・ディスカッション
益山新樹(常翔歴史館館長)
仙海義之(阪急文化財団学芸課長)
伊藤信明(関西大学博物館学芸員)
藤井裕之(吹田市立博物館副館長)
橋爪節也(大阪大学総合学術博物館教授)

無料
事前申込制
(定員150名)

主催:大阪大学総合学術博物館、
かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会(事務局)関西大学博物館 06-6368-1171
後援:北大阪ミュージアム・ネットワーク
協力:大阪大学21世紀懐徳堂
問い合わせ先:大阪大学総合学術博物館 06-6850-6714(平日 10:00～17:00)



大学ミュージアムをめぐるシンポジウム

みんなのヒストリー ミュージアム

学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営

日時 2016年12月11日(日) 13:30～17:00(13:00開場)

会場 グランフロント大阪
ナレッジキャピタル カンファレンスルームC01+02

申込方法
WEBフォーム

下記のURLから必要事項を入力ください。
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/symposium2016>
※定員に達し次第受付を終了します。



QRコードを
読み取って
お申し込み
できます。

主催:大阪大学総合学術博物館、

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会〈事務局〉関西大学博物館 06-6368-1171

後援:北大阪ミュージアム・ネットワーク

協力:大阪大学21世紀懐徳堂

参加方法:無料・事前申込制(定員150名)

問い合わせ先:大阪大学総合学術博物館 06-6850-6714 (平日 10:00～17:00)

学校や自治体・企業にはそれぞれの歴史があります。それぞれに紡いできた歴史はそれぞれの組織にとって、またその地域社会にとって貴重な財産だといえます。自治体だけでなく、企業や学校でも博物館的機能を持つ施設が設置されていることが多くあります。そうした施設は日常的に、またより広く地域社会に開かれた存在として、自らの歴史とその価値を担っています。

それぞれの組織のアイデンティティの根幹を担っている施設だともいえます。歴史を学び、伝え、またそれを活用することは、組織全体の運営の中できわめて重要なことですが、その中で博物館がどのような役割を背負い、実際にどのような活動を行っているのか、関西の大学博物館の担当者に加え、関西の企業・自治体の博物館関係者をお招きし、それぞれの活動を紹介、また新たな可能性を見出す討論を行います。

会場案内

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル
カンファレンスルームC01+02

〒530-0011
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーC8階

※会場へは1Fからしかアクセスできません。
グランフロント北館1FタワーCオフィスエントランスのエレベーターをご利用ください。



報 告

大学ミュージアムをめぐるシンポジウム

みんなのヒストリーみんなのミュージアム-学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営-

大阪大学総合学術博物館

助教 横田 洋

大阪大学総合学術博物館は、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会が行う平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「交流する大学ミュージアムを目指して～大学の扉を開く～」の一環として、「大学ミュージアムをめぐるシンポジウム みんなのヒストリー みんなのミュージアム ―学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営―」を開催した。このシンポジウムは2014年度にかんさい・大学ミュージアム連携実行委員会の事業として開催したシンポジウム「大学ミュージアムを熱く語る！」の続編といえるもので、大阪大学総合学術博物館ではさらにそれ以前から継続的に開催してきた大学ミュージアムをテーマにしたシンポジウムの一環である。

本年度はそれぞれのミュージアムの母体となっている組織、つまり大学や学校法人の歴史をいかに扱っているかというテーマに絞って開催した。本連携実行委員会の事務局を担当している関西大学は今年度創立130年で、さまざまな創立記念の展覧会やイベントが行われ、また大阪大学総合学術博物館では大阪大学の前身である旧制高校の展覧会と大学の源流と位置づけている懐徳堂の展覧会を行うなど、連携実行委員会に参加するミュージアムではその母体となって



いる大学や学校の歴史を扱う機会が多かったのも本シンポジウムでこのテーマを扱った理由のひとつである。

学校の歴史を学校が設置したミュージアムがいかに関係するかということに関しては、国公立と私立大学では大きな相違があることが想定され、それぞれに運営方針は異なるだろう。本シンポジウムではそうした違いを認識しつつ、抱える課題等をより広い視野で捉えるため、組織内に設置されたミュージアムという共通点を持つ、自治体のミュージアムと企業のミュージアムの関係者もパネリストとして招待し、報告を行ってもらった。学校に限らず企業や自治体においても、組織の歴史を学び、伝え、またそれを活用することは、組織全体の運営の中できわめて重要なことだと考えられるが、その中で博物館がどのような役割を背負い、実際にどのような活動を行っているのか、さまざまな立場からの報告を行ってもらった。

シンポジウムは愛媛大学ミュージアムの徳田明仁准教授の司会進行で、第一部では5名の報告者が個別に報告を行った。報告者は順に下記の通りであった。

- ・益山新樹（常翔歴史館館長）「自校史教育の拠点～常翔歴史館のミッション～」
- ・仙海義之（阪急文化財団学芸課長）「小林一三をめぐるクロノスとトポス～近代の大阪における資産と文化の集積～」
- ・伊藤信明（関西大学博物館学芸員）「関西大学における年史について」
- ・藤井裕之（吹田市立博物館副館長）「地域博物館と連携～吹博（すいはく）の取組～」
- ・橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授）「大学の歴史は誰のものか～《源流》探しと都市大阪、そして博物館～」

私立大学のミュージアム関係者が2名、国立大学のミュージアム関係者が1名、企業ミュージアム関係者が1名、自治体のミュージアム関係者が1名で、司会が国立大学のミュージアム関係者という構成であった。

一人目の報告者として登壇した常翔歴史館館長で大阪工業大学教授の益山新樹氏からは「自校史教育の拠点として～常翔歴史館のミッション～」と題して報告を行っていただいた。常翔歴史館は学校法人常翔学園が設置する7学校（大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校）の歴史を紹介する施設として2014年に開館したものである。創立90年の2012年を契機に「設置学校の学生生徒、教職員、保護者、そして地域の方々」に対し、「建学の精神」を正しく伝え、自校への理解を深め、育まれてきた校風、築かれてきた歴史と伝統を紹介し、自校への誇りを抱けるようにすることをミッションとして、設置学校それぞれの自校史冊子（読本）を作成し、さらに学園法人本部のある大阪市

旭区の大阪工業大学のキャンパス内に設置したのが常翔歴史館である。常翔歴史館では自校史を中心とした常設展を公開するだけでなく、二つの企画展や特別講演会を開催、2016年からは「常翔History」と題したWebマガジンを発行するなどの活動を行っていることが報告された。課題として大阪工業大学大宮キャンパス以外の校地への取り組みが不十分であること、地域との連携も不十分であることなどが報告された。

続いて阪急文化財団学芸課長の仙海義之氏から「小林一三をめぐるクロノスとトポス～近代の大阪における資産と文化の集積～」と題して、阪急グループ創業者の一人である小林一三自身が進めたミュージアム経営について報告いただいた。小林一三は1910年の箕面動物園を皮切りにさまざまなミュージアム施設を創設した。1915年には観光施設宝塚新温泉の敷地内に展覧会場と図書室を作るが、私立の美術館としては日本でも最初期のものであった。その後1932年に宝塚文芸図書館、1939年に宝塚昆虫館等を次々と創設する。これらは阪急の本業ではないが、電車に乗って行きたい場所を作るという旅客誘致施設としての役割を担っていた。一方、小林の私邸でもあった雅俗山荘は小林の死後逸翁美術館となるが、生前から小林の私設ギャラリーとしての性格も持っていた。1932年には阪急百貨店内に古美術街を作り、『阪急美術』という美術雑誌も刊行し、茶の湯文化、現代工芸も含めた美術の普及に務め、戦後には池田市に図書館、文化会館を文化施設を建設する計画を建て、1949年に池田文庫を創設した。小林の創設したミュージアムの多くはその後無くなったり、場所が移ったりするが、それこそが常に現代を見すえていた小林のミュージアム経営の特色であったと報告がなされた。

3人目の登壇者は関西大学博物館の伊藤信明氏で、「関西大学における年史について」について報告いただいた。関西大学博物館は1954年に設置された考古学資料室を母体として1994年に開館した博物館で、大学史を扱う年史資料展示室は2006年創立120周年記念事業として設置された施設である。本年は関西大学創立130周年記念の「関西大学のちから」展を開催し、平成29年末には「130年のあゆみ」「関西大学をまなぶ」という記念史を刊行予定である。現在の年史資料展示室では主に①創立（1886）②大学昇格（1922）③新制大学移行（1948）の三つのトピックを中心に学校史を紹介している。関西大学の前身である関西法律学校は12名の創立者が存在しており、特定の一人ではなく12名がみんなで作った学校であると紹介しているが、創立者を一人に絞り校祖としたいという要求が従来からまた現在でもあることが報告された。また藤澤東暎が大阪に開いた漢学塾である泊園書院の資料が関西大学に受け継がれているが、その縁をもって泊園書院を関西大学の源流と位置づけようとする新たな動きがあることも紹介された。

吹田市立博物館副館長の藤井裕之氏からは「地域博物館と連携～吹博（すいはく）の取組～」として吹田市立博物館の博物館外部との連携の取り組みについて報告いただいた。吹田市立博物館では2010年に策定した中長期計画で「(1)地域の文化を継承し、発信拠点となること(2)市民が参加し、市民文化の向上に寄与すること」とその目的、理念を定め活動を行っている。特に「(1)市民との連携」「(2)学校教育との連携」「(3)地域との連携」を活発に進めている。「(1)市民との連携」では公募市民による展示実行委員会が企画、準備、運営し学芸員がサポートする吹田方式によって、市民の視点が入った内容に深みと多様性を生み出す展覧会を開催している。「(2)学校教育との連携」では、学校のカリキュラムに連動した連携展示や、地域の自然や歴史に親しむさまざまなイベント、歴史教材の開発、教員の研修なども行っている。「(3)地域との連携」では「北大阪ミュージアムネットワーク」「西国街道連携事業」などの連携事業に参加し、近隣の博物館や自治体との連携を強めさまざまな活動を行っている。以上の活動を通して(1)地域の歴史・文化の発信拠点(2)市民の学習活動の場(3)交流の場という3つの社会的役割を果たしていくことの必要性について報告がなされた。



5人目の登壇者の大阪大学総合学術博物館教授の橋爪節也氏からは「大学の歴史は誰のものか～《源流》探しと都市大阪、そして博物館～」と題して、大阪大学総合学術博物館と大阪大学における大学史などについて報告がなされた。大阪大学では授業で大阪大学の歴史を扱う授業が開講されており、また大阪大学アーカイブズという大学史を専門に扱う部局も存在しているが、博物館でも大学史を扱う常設展、企画展を開催している。学校史と密接に関わる大阪にちなんだ展覧会も過去に多く開催し、大学のキャンパス内に散在しているさまざまな記念碑、オブジェなどを紹介するプロジェクトも進めている。しかし、国立大学の博物館設置の方針となった1996年の学術審議会の方針「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」では、大学史は博物館のミッションとして記されていたわけではない。一方で美術館・博物館の絶対数も少ない大阪においては大学博物館の果たすことのできる役割は大きく、大阪大学の大学史を大阪という都市の歴史とともに考えていく必要があると報告された。

5名の個別の報告の後、愛媛大学ミュージアム准教授の徳田明仁氏の司会による登壇者全員が揃っての討議が行われた。討議では特に高度情報化社会が成立し、誰もが発信者となれる時代におけるミュージアムの役割、その中での歴史、歴史資料の扱いといった点に焦点が当てられ、各ミュージアムにおける将来の展望などについて議論が行われた。設置趣旨がそれぞれに異なるミュージアムからの報告をもとに進められたシンポジウムであったが、理念として掲げているミュージアムの役割と現状との相違、あるいはその相違を埋めるべく行っているさまざまな活動の方向性などについては、登壇者、来場者で共有できる論点も数多く、非常に実りの多いシンポジウムであったと思われる。

6. シンポジウム報告Ⅱ

＜具体＞再考

第1回 1950年代の前衛グループ

概 要

シンポジウム

テーマ：「<具体>再考 第1回 1950年代の前衛グループ」

日 時：2016年12月18日(日) 14:00～17:30
会 場：大阪大学中之島センター3階 講義室 304
主 催：大阪大学総合学術博物館
来場者数：100人

プログラム：

【発 表】

- 14:00～14:45 「瑛九とデモクラート美術家協会」
安來 正博（国立国際美術館主任研究員）
- 14:45～15:30 「「実験工房」と「制作者懇談会」
ー東京・戦後アヴァンギャルド芸術の展開からー」
佐藤 玲子（川崎市岡本太郎美術館学芸員）
- 15:40～16:10 「O会の活動」
加藤 瑞穂（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

【討 議】

16:10～17:30

具体 再考

第1回デモクラート美術展
目録(1951年)表紙より

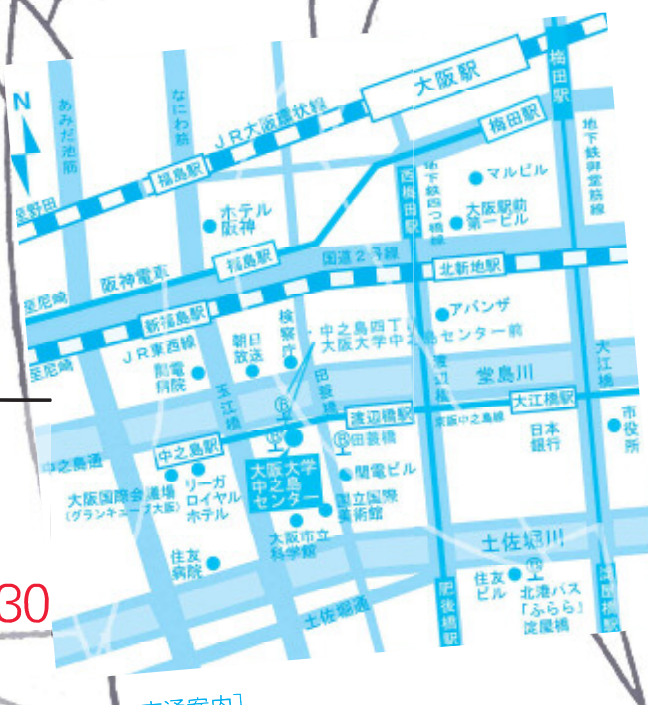
第1回 1950年代の前衛グループ

2016年12月18日(日) 14:00~17:30

大阪大学中之島センター3階 講義室304

定員: 80名 聴講無料、事前申込み不要、当日先着順(開場は13:30より)

主催: 大阪大学総合学術博物館



[会場・交通案内]

大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53
tel. 06-6444-2100
<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

- ◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分
- ◎京阪中之島線・渡辺橋駅(1番出口)より徒歩約5分
- ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
- ◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分
- ◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
- ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分



野外具体美術展会場(芦屋公園)での
具体美術協会会員たち(1950年)

関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972年）は、激しい身体行為の痕跡や生々しい物質感が特徴的な作品群で知られますが、その活動についてはこれまで、戦前との繋がりあるいは同時期の他の前衛的動向との関わりという観点から問われることがほとんどありませんでした。このような従来の解釈を複数の視点から再考する研究の一環として、2016年度よりシンポジウムを一年に一度、継続的に3回行います。今年度は、「具体」と同時代、特に1950年代に活動した他の前衛芸術家たちとの関係をテーマにし、研究者による発表・討議を通して、彼らの共通性ならびにそれぞれの固有性について考えます。「具体」のみならず近現代日本美術史の言説をより精緻に編み直そうとするこの試みは、2012年に大阪大学総合学術博物館主催で開かれたシンポジウム「大阪のアヴァンギャルド芸術」、そして翌年の第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代—戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」という一連の研究を引き継ぎ、さらなる展開を図るものと位置づけられます。なお本シンポジウムは、平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C） 課題番号 16K02266「具体美術協会」再考—複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面—）による研究成果の一部です。



第1回具体美術展会場（小原会館・東京）での具体美術協会会員たち（1955年）
写真提供：大阪新美術館建設準備室



デモクラート美術家協会発足時の記者会見の様相（1951年）
写真提供：宮崎県立美術館



実験工房メンバー集合写真 撮影：北代省三（1954年頃） ©東京パブリッシングハウス
写真提供：川崎市岡本太郎美術館



具体美術協会機関誌
『具体』第5号（1956年）



制作者懇談会機関紙
『リアリズム』第4号（1956年）
写真提供：川崎市岡本太郎美術館



第1回デモクラート美術展目録
（1951年）
写真提供：和歌山県立近代美術館

プログラム 12月18日（日）

【発表】

14:00～14:45

瑛九とデモクラート美術家協会

安來正博（国立国際美術館主任研究員）

1988-1999年、和歌山県立近代美術館学芸員。2000年より現職。主な企画展として「アメリカの中の日本 石垣栄太郎と戦前の渡米画家たち」（1997年）、「デモクラート 1951-1957 開放された戦後美術」（1999年）、「瑛九フォト・デッサン展」（2005年）、「草間彌生 永遠の永遠の永遠」（2012年）等。

14:45～15:30

「実験工房」と「制作者懇談会」

—東京・戦後アヴァンギャルド芸術の展開から—

佐藤玲子（川崎市岡本太郎美術館学芸員）

準備室を経て、1999年より現職。主な企画展として「青山時代の岡本太郎 1954-1970」展（2007年）、「池田龍雄 アヴァンギャルドの軌跡」展（2010-11年）、「北代省三の写真と実験 かたちとシミュレーション」展（2013-14年）等。

15:40～16:10

0会の活動

加藤瑞穂（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

1993-2011年、芦屋市立美術館学芸員。近年の主要共同企画展として「田中敦子—アート・オブ・コネクティング（Atsuko Tanaka, The Art of Connecting）」展（国際交流基金主催、2011-12年）、共編著として『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術』（大阪大学出版会、2013年）等。

【討議】

16:10～17:30

【問い合わせ先】

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

豊中市待兼山町 1-13 大阪大学会館内

tel. 06-6850-6715（平日 9：00—17：00）

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



報 告

シンポジウム <具体>再考

「第1回 1950年代の前衛グループ」

大阪大学総合学術博物館

招へい准教授 加藤 瑞穂

本シンポジウムは、関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972年）について、これまで問われることが少なかった視点からの再考を目的とした。2016年度より1年に一度、継続的に3回行う予定で、第1回目となる2016年度は、「具体」と同時代、特に1950年代に活動した他の前衛芸術家たちとの関係をテーマにし、研究者による発表・討議を通して、彼らの共通性および「具体」の固有性について考えた。

まず発表では、安來正博氏より「瑛九とデモクラート美術家協会」、佐藤玲子氏より「『実験工房』と『制作者懇談会』」と題して、それぞれのグループの概要と特徴を、多数の画像を用いて分かりやすく解説いただいた。「デモクラート美術家協会」（1951-1957年）ならびにその中心人物であった瑛九（本名：杉田秀夫、1911-1960年）、1950年代にはすでに美術評論家として著名であった瀧口修造（1903-1979年）が命名し、その精神的支柱としての役割を担った「実験工房」（1951-1957年）、そして「実験工房」のメンバーと同世代で彼らと交流があった池田龍雄（1928年-）が、美術以外のジャンルの友人と結成した「制作者懇談会」（1955-1957年）。これらのグループについては、関西では「具体」に比べて紹介される機会がほとんどなかったため、本シンポジウムで考察する場を作れたのは貴重であった。また企画者である筆者は、「具体」に1955年に合流した「0会」について、最近になって存在が確認された新たな資料に基づき、従来考えられてきた結成年を見直す必要性や、長らく詳細が不明であった活動の内実について発表した。「0会」を見直すことで、「具体」結成の1954年当時に、関西では複数の小グループが並存し、新しい美術をめざして作家たちが切磋琢磨していた状況が改めて浮き彫りになったと考える。

これらの発表の後、討議では最初に、上記で取り上げたグループのうち主要な「デモクラート美術家協会」、「実験工房」、「具体」の共通項を検討した。その一つとして挙げられるのは、中心となる人物、すなわち瑛九、瀧口修造、吉原治良（1905-1972年）が戦前の1930年代から活躍し、かつシュルレアリスムに関心を寄せていたという点である。瑛九が注目された初のフォト・デッサン集『眠りの理由』（1936年）は、いわゆるフォトグラム（レイヨグラフィ）というシュルレアリスムの手法を採り、また瀧口は、1930年代の日本におけるシュルレアリスムの紹介と普及に重要な役割を果たした美術評論家であった。そして吉原は、1930年代前半に当時の洋書を元にシュルレアリスムを独学し、それを色濃く反映した作品群を発表して二科会会員になっている。そうしたシュルレアリスムへの共通した関心を見



出せる一方で、物質あるいは物（オブジェ）に対する捉え方は一様とはいえず、特に吉原は、日常的な意味を剥奪した後に物が帯びる新たな意味というよりも、その物の素材自体が持つ性質に着目した。

三者の直接的な交流については、瑛九と吉原、瑛九と瀧口はそれぞれ戦前より面識があり、吉原と瀧口は、戦前から直接見知っていたかどうかは今のところ明ら

かでないが、少なくとも吉原は瀧口による1930年代の著書・訳書を所蔵していることから、その存在を戦前から認識していたと考えるのが自然であろう。また遅くとも具体結成後は、第1回具体美術展（小原会館・東京、1955年）に瀧口が訪れるなど、直接の交流を持っていたことが分かっている。さらにグループのメンバー同士の接点へと目を転じれば、「デモクラート美術家協会」と「具体」では、討論会を機に「具体」の吉原英雄と船井裕が退会して「デモクラート美術家協会」へ加入したことが思い起こされる。また「実験工房」と「具体」それぞれのメンバーが、当時新進の作家たちが出品した「モダンアートフェア」（大丸・大阪 [心斎橋]、1954年）、「第7回読売日本アンデパンダン展」（東京都美術館、1955年）等に同じように出品し、アンフォルメルの主唱者であるミシェル・タピエが1957年来日した以降は、タピエより「具体」のみならず「実験工房」も評価された。具体的には、タピエが企画した「世界・現代芸術展」（ブリヂストン美術館・東京／大丸・大阪 [心斎橋]、1957年）に「具体」の吉原、嶋本昭三、白髪一雄、田中敦子と並んで「実験工房」の福島秀子を選出され、続いて翌年に開かれたタピエと吉原の共同企画である「新しい絵画世界展 アンフォルメルと具体」展（高島屋・大阪、以後長崎、広島、東京、京都に巡回、1958年）にも、「実験工房」の福島と山口勝弘が加えられるなど複数の接点が見出せるのであり、彼らの同時代性を改めて確認することができる。

次に社会に対する意識という点では、「デモクラート美術家協会」はその名が示唆するように、社会における芸術家の生き方、強固なヒエラルキーが存在する既存の公募展に依らない芸術家のあり方について問題提起を試みた点で、社会性を帯びていた。「制作者懇談会」もまた、主に花田清輝が唱えた「新しい今日的リアリズム」を追求する姿勢を元に、絵画、演劇、映画のジャンルで啓蒙活動に取り組んだ、社会的意識の高いグループであった。それに対して「実験工房」や「具体」では、社会に対する働きかけや、社会問題に着目した作品や活動は見当たらないものの、従来美術の素材ではなかった工業製品や、音や映像等における新技术を積極的に取り入れた作品を発表しており、その意味では社会とのつながりは密接であったと言える。

加えていずれのグループも、複数のジャンルを横断して新しい表現を目指したことは軌を同じくするが、それぞれで発行された会報ないし機関誌を見ると、その果たした役割が「具体」と他のグループでは異なっていた。「デモクラート美術家協会」や「制作者懇談会」

では、会報・機関誌は主にグループ内で配布され、メンバー間の相互交流が目的とされたのに対して、「具体」では、自らの活動を外部へ発信する広報媒体と位置づけ、国内外の美術関係者に広く送付していたのである。

以上のことから、「具体」と同時代の前衛美術グループとの共通点として、中心的な人物が戦前に、現実に対する既存の認識を打ち破るシュルレアリスムに関心を寄せ、それを吸収して制作・評論活動を展開した点、また美術という既存の枠内にとどまらずインターメディア的な方向を標榜した点などが挙げられ、実際に人的な交流もあったことが確認された。その一方で「具体」では吉原の指導の下、現実とは異なる新たな意味の付与ないし読替えよりも、素材となる物質自体の特性を重視し、そこから未知の意味を生む造形が目指された点、そして自らの活動を国内外へ告知するための戦略的意識を明確に持っていた点が、他のグループとは異なると考えられる。

このシンポジウムには定員80名のところ100名を超える来場者があり、専門家にとどまらず一般の美術愛好家の間でも関心を集めるテーマであることが明らかになった。そして、「周辺から再考「具体」大阪でシンポ 「0会」結成時期新説も」と題して、12月22日付『毎日新聞』に、実施風景入りのまとまった報告記事が掲載されたことも考え合わせると、このたびの企画には一定の反響があったと言えるだろう。

発表・討議についてはすべて書き起こしを行い、2017年6月に弊館ホームページで公開した。その結果、当日来場できなかった人や、今後継続して開かれるシンポジウムに来場予定の人にも広く内容を周知できると共に、弊館の研究活動に対する理解を深めてもらう一助にもなる。なお本企画は、平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C） 課題番号16K02266「具体美術協会」再考-複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面-）による研究成果の一部である。



7. サイエンスカフェ@待兼山 サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

期 間：サイエンスカフェ@待兼山

2017年1月7日（土）～ 2017年3月11日（土） カフェ No.135 ～ 141

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

2017年2月4日（土）～ 2017年3月25日（土） カフェ No.C-1 ～ C-3

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の中で接する機会が少ない専門家と一般の方々の間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は2008年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。家族や友人と一緒に参加される方もおり、実施当日には会場が大いに盛り上がっている様も見られる。

サイエンスカフェの実施状況：

2008年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施13回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施14回
2009年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施10回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9回
2010年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施10回
2011年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施15回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8回
2012年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施11回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8回
2013年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4回
2014年度	通年	カフェ No.117 ～ 126	実施10回
2015年度	通年	カフェ No.127 ～ 134	実施 8回
2016年度	通年	カフェ No.135 ～ 141	実施 7回
		カフェ No.C-1 ～ C-3	実施 3回

No.	実施日	タイトル	要旨
		コーディネーター	
135	1/7 (土)	地上の実験で 宇宙の始まりを再現する	我々の宇宙は、138億年前にビッグバンにより誕生しました。誕生直後の宇宙は超高温で、そこでは現在の宇宙を構成する素粒子たちが溶解した世界が広がっていました。現在、世界各地で、加速器と呼ばれる実験装置を用いてこのような超高温状態を作り出す実験が行われています。これらの実験では、粒子をほぼ光速まで加速して衝突させることにより、2兆度を超える超高温状態が生成されます。 この講座では、これら宇宙の始まりに迫る実験について、素粒子やビッグバンといった現代物理の基礎概念と共に解説することを試みます。
		北澤 正清氏	
136	1/21 (土)	難病の克服に向けた 新しい治療薬の研究	次世代の医薬品として期待される核酸医薬品について紹介します。難病の中には、遺伝情報のエラーが原因で発症するものが数多くあります。遺伝情報はゲノム DNA から RNA という物質へと受け渡されますが、この RNA という物質に直接作用する事ができる新しいタイプのお薬が核酸医薬品です。核酸医薬品の登場で、これまで治療法が無かった難病も治療できる可能性が出てきました。当日は、核酸医薬品の研究の歴史と現在の状況、これからについてみなさんと考えます。
		下 剛典氏	
137	1/28 (土)	江戸時代の上絵画 ~曾我蕭白を中心に~	曾我蕭白(1730~81)は、江戸時代中期に上方(近畿圏)を中心に活躍した画家です。蕭白が画家になった詳しい経緯は分かっていませんが、作品を見れば20代後半にして相当な画技を身につけていたことが分かります。応挙、蕪村、若冲、大雅など、そうそうたる画家が上方でしごきを削っていたこの時代、蕭白の絵はどのような環境で制作され、どのような人々に求められたのでしょうか。 本講座では、同時代の画家との比較を通じて、蕭白画の魅力と謎に迫りたいと思います。
		波瀬山 祥子氏	
138	2/18 (土)	開発途上国の法づくりの 支援~東ティモール立法 支援の経験から	開発途上国に対する政府開発援助というと、道路、鉄道、港湾、発電所などの建設が目につきます。それは現地の人々にとって非常に重要な経済基盤の整備です。しかし開発援助は、それ以外にも現地の人材育成や技術向上をはかる支援があります。今回のサイエンスカフェでは、その一つである「法整備支援」という活動について、東ティモールの経験を手がかりにお話します。東ティモールは、今世紀に入ってから独立した若い国です。東ティモールの人々が、どのように、なぜ「法の支配」確立しようとしているのか、そこに日本による法整備支援はどのようにかかわっているのか…話題を提供し、皆さんと対話ができればと思っております。
		仁木 恒夫氏	
139	2/25 (土)	身体の周りの微生物が 免疫を制御する	免疫系の正常な発達には、バクテリアなどの微生物の刺激が重要であることが明らかになってきました。アレルギー疾患が急速に増加していますが、衛生環境の向上による乳幼児期のバクテリアへの曝露の減少や寄生虫病の減少、家屋の密閉性の増加によるダニアレルゲンの増加、栄養環境の改善(高糖質食、高脂質食)などが原因となって、免疫バランスが崩れていると考えられております。一方、発酵食品が免疫系を活性化することや免疫バランスを保つ働きがあること、腸内細菌群の正常な発達が免疫系や神経系の発達に決定的に重要であることなども明らかになっております。この講義では、主にバクテリア由来の分子が物質レベルで免疫増強作用や免疫バランス作用を示す仕組みについて紹介します。
		深瀬 浩一氏	
140	3/4 (土)	タンパク質の不思議への 挑戦	タンパク質と聞いて何を連想するのでしょうか? たぶん、栄養素、そしてお肉や大豆でしょうね。肉や大豆がタンパク質を豊富に含んでいるのと同様に、私たちの体のなかにも多くの種類のタンパク質があり、細胞内で起きるさまざまな現象に関わっています。ですから、タンパク質は生命現象の最前線で働いていると言ってもよいでしょう。タンパク質の働きを調べてみると、その巧妙さにとても驚かされます。そして、その巧妙な働きに対して疑問が次々と湧いてきます。この講演では、タンパク質の不思議と、それに対するこれまでの研究者の挑戦をお話します。
		水谷 泰久氏	
141	3/11 (土)	世界を元素で語る-「エネルギー、薬、化学産業、生活」を総合的に解説-	地球は何でできているのでしょうか。私たちは何でできているのでしょうか。そして、私たちは何を作り、どのように利用しているのでしょうか。この世に存在する元素は高々、百個程度です。周期表に載っている元素群のことです。これらからすべてのものができています。元素をもとに、この世界を総合的に解説し「元素観」を養ってもらいます。エネルギー問題、化学産業、身の回りの製品等を、元素観を意識しながら眺め、将来を見通すための知識と考え方をお話します。さらに、すべての元素の中で「炭素」だけが、きわめて特徴的な性質を有し、我々に多大な恩恵を与えてくれていることを、元素観に基づいて解説します。
		安田 誠氏	

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館（2016年：2017年2月4日～2017年3月25日 No.C-1～C-3）

No.	実施日	タイトル	要旨
		コーディネーター	
C-1	2/4 (土)	豊中市の至宝・マチカネワニ～発見と研究の軌跡～	“マチカネくん”のキャラクターで豊中市民に親しまれているマチカネワニ化石は、2014年5月3日で発見50周年を迎えました。さらに同年10月6日、本化石は国の登録記念物として登録するよう認められました。マチカネワニ化石は、まさに“豊中の至宝”と呼ぶべき存在なのです。その発見の経緯や Tomistoma machikanense から Toyotamaphimeia machikanensis へと学名が変遷してきたことを軸にした研究の歴史を紹介します。さらに当博物館主導で行われたマチカネワニ化石研究と現在進行中のプロジェクトの一部、他の研究機関にも拡がる研究の一端を紹介し、再発見のマチカネワニ化石およびその関連化石群についても、お話しいたします。
		伊藤 謙	
C-2	3/18 (土)	大学ミュージアムを楽しもう!!	大学は地域社会と密着し、連携しながら、研究や教育活動を行っています。地域社会との連携の窓口となり、大学の情報発信の中核となっているのが、大学ミュージアムです。今回は吹田市にある関西大学博物館と豊中市庄内にある大阪音楽大学音楽博物館、待兼山町にある大阪大学総合学術博物館の担当者が、それぞれのミュージアムの魅力を紹介します。大阪音楽大学音楽博物館は校舎移転に伴い現在休館中ですが、2017年4月に大阪音楽大学音楽メディアセンター・楽器資料館として生まれ変わります。豊中市立文化芸術センターの開館に続く、豊中市の新たな文化芸術スポットとして注目を集めている大阪音大の楽器資料館の魅力をいち早く紹介するとともに、関西大学、大阪大学のミュージアムの魅力、そして、大学ミュージアムが連携して行っているさまざまなイベントなどを紹介します。
		石立 弥生子氏 大梶 晴彦氏 横田 洋	
C-3	3/25 (土)	ロボットはヒトになれるか？～構成的発達科学の挑戦～	「ロボットはヒトになれるか」という問いは「ヒトとは何か」という問いと表裏一体です。すなわち、ヒトの知性を実際に「構成」することで新たにわかるヒトの知性のメカニズムがあります。今回、子どもの発達・学びをロボットや人工知能で実現する中で、発達の原理を明らかにしようとする構成的発達科学の取り組みを紹介します。例えば、子どもは名詞や動詞などの文法を明に教わらないにもかかわらず、言語を習得していきます。人工知能が子どもと同じように言語を獲得するためには何が必要でしょうか。このような話題をきっかけにして、「ヒト（ロボット）とは何か」の問いや、ヒトとロボットの将来を皆さんと考えてみたいと思います。
		河合 祐司氏	

Museum of Osaka University

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して、専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不足を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 135 2017年1月7日(土)

地上の実験で宇宙の始まりを再現する

北澤 正清(理学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 高校生以上

No. 136 2017年1月21日(土)

難病の克服に向けた新しい治療薬の研究

下 剛典(薬学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 中学生以上

No. 137 2017年1月28日(土)

江戸時代の上方絵画 ~曾我蕭白を中心に~

波瀬山 祥子(文学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 中学生以上

No. 138 2017年2月18日(土)

開発途上国の法づくりの支援 ~東ティモールの立法支援の経験から

仁木 恒夫(法学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 高校生以上

No. 139 2017年2月25日(土)

身体の回りの微生物が免疫を制御する

深瀬 浩一(理学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 高校生以上

No. 140 2017年3月4日(土)

タンパク質の不思議への挑戦

水谷 泰久(理学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 高校生以上

No. 141 2017年3月11日(土)

世界を元素で語る -「エネルギー、薬、化学産業、生活」を総合的に解説-

安田 誠(工学研究科)

時間: 14:00~15:30 対象: 高校生以上

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

定員: 各回とも30名

参加費用: 無料

共催: 豊中市立中央公民館

協力: 第11回女子中高生のための関西科学塾、大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

Webフォーム、もしくは往復ハガキにてお申し込みください。

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前までです。

締め切り日必着でお願いします。

※応募多数の場合、原則として抽選で決定します。

抽選結果はメール、もしくはハガキでお知らせします。

Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクから必要事項を入力してください。

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/event/>

往復ハガキ

各カフェのタイトルごとにお申し込みをお願いいたします。タイトル、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。ご家族でお申込の場合、同伴者の氏名、年齢をご記入の上、つぎの宛先にご送付ください。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13

大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



Museum of Osaka University Science Café at Chuo Kominkan

コーヒーやドリンクを片手に、ゆったりとした雰囲気です「科学する」とはどういうものか、研究者とともに考える「サイエンスカフェ」を楽しみませんか。この機会を大阪大学の研究者と市民の皆様とのコミュニケーションの場にしたいと思っています。ぜひ一度ご参加ください。

No. C-1

2017年2月4日(土)

豊中の至宝・マチカネワニ～発見と研究の軌跡～

伊藤 謙(大阪大学総合学術博物館)

対象:年齢制限はございません

受付開始:2017年1月13日(金)14:00より

No. C-2

2017年3月18日(土)

大学ミュージアムを楽しもう！！

石立 弥生子(関西大学博物館)

大梶 晴彦(大阪音楽大学音楽博物館)

横田 洋(大阪大学総合学術博物館)

対象:年齢制限はございません

受付開始:2017年2月24日(金)14:00より

No. C-3

2017年3月25日(土)

ロボットはヒトになれるか？～構成的発達科学の挑戦～

河合 祐司(大阪大学大学院工学研究科)

対象:中学生以上

受付開始:2017年3月10日(金)14:00より

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

開催場所: 豊中市立中央公民館
時 間: 各回14:00～15:30
定 員: 各回30名
参加費用: 無料
主 催: 大阪大学総合学術博物館
共 催: 豊中市立中央公民館
協 力: 大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

電話による事前申込の受付をいたします。

06-6866-0555

(豊中市立中央公民館)

※各カフェの受付開始日をご確認の上お申し込みください。

※定員に達し次第受付を終了させていただきます。

豊中市立中央公民館 〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-3 TEL: 06-6866-0555

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



豊中の至宝・マチカネワニ～発見と研究の軌跡～

伊藤 謙(大阪大学総合学術博物館)

“マチカネくん”のキャラクターで豊中市民に親しまれているマチカネワニ化石は、2014年5月3日で発見50周年を迎えました。さらに同年10月6日、本化石は国の登録記念物として登録するよう認められました。マチカネワニ化石は、まさに“豊中の至宝”と呼ぶべき存在なのです。その発見の経緯やTomistoma machikanense から Toyotamaphimeia machikanensis へと学名が変遷してきたことを軸にした研究の歴史を紹介します。さらに当博物館主導で行われたマチカネワニ化石研究と現在進行中のプロジェクトの一部、他の研究機関にも広がる研究の一端を紹介し、再発見のマチカネワニ化石およびその関連化石群についても、お話しいたします。

大学ミュージアムを楽しもう！！

石立 弥生子(関西大学博物館)

大梶 晴彦(大阪音楽大学音楽博物館)

横田 洋(大阪大学総合学術博物館)

大学は地域社会と密着し、連携しながら、研究や教育活動を行っています。地域社会との連携の窓口となり、大学の情報発信の中核となっているのが、大学ミュージアムです。今回は吹田市にある関西大学博物館と豊中市庄内にある大阪音楽大学音楽博物館、待兼山町にある大阪大学総合学術博物館の担当者が、それぞれのミュージアムの魅力を紹介します。大阪音楽大学音楽博物館は校舎移転に伴い現在休館中ですが、2017年4月に大阪音楽大学音楽メディアセンター・楽器資料館として生まれ変わります。豊中市立文化芸術センターの開館に続く、豊中市の新たな文化芸術スポットとして注目を集めている大阪音大の楽器資料館の魅力をいち早く紹介するとともに、関西大学、大阪大学のミュージアムの魅力、そして、大学ミュージアムが連携して行っているさまざまなイベントなどを紹介します。

ロボットはヒトになれるか？～構成的発達科学の挑戦～

河合 祐司(大阪大学大学院工学研究科)

「ロボットはヒトになれるか」という問いは「ヒトとは何か」という問いと表裏一体です。すなわち、ヒトの知性を実際に「構成」することで新たにわかるヒトの知性のメカニズムがあります。今回、子どもの発達・学びをロボットや人工知能で実現する中で、発達の原理を明らかにしようとする構成的発達科学の取り組みを紹介します。例えば、子どもは名詞や動詞などの文法を明に教わらないにもかかわらず、言語を習得していきます。人工知能が子どもと同じように言語を獲得するためには何が必要でしょうか。このような話題をきっかけにして、「ヒト(ロボット)とは何か」の問いや、ヒトとロボットの将来を皆さんと考えてみたいと思います。

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

豊中市立中央公民館 〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-3 TEL: 06-6866-0555

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

8. 体験！こどもミュージアム@大阪大学

期 間：2016年8月22日（月）～24日（水）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館

後 援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会

協 力：第11回女子中高生のための関西科学塾

文系、理系を問わず様々な分野に対する興味や関心を、子どもたちに持ってもらうことを目指して「体験！こどもミュージアム@大阪大学」を開催した。自由応募制（小学校4・5・6年生対象）という形をとり、豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会からの後援と第11回女子中高生のための関西科学塾からの協力を得て、開催した。いずれも実験・実演を交えた体験型授業を行い、参加した子どもたちからも好評であった。（当日の参加者数は延べ36名、保護者含まず）



「ブロックでレスキューロボットを
作って動かそう！」



「化石のレプリカをつくろう」



「江戸時代人、西洋に学ぶ
～1日適塾生 体験教室～」

授業内容

8月22日（月）

タイトル：「ブロックでレスキューロボットを作って動かそう！」

講師：大阪大学レゴ部（大阪大学公認学生団体）

イザラ なみ 氏（人間科学部2年）他

参加人数：12人

概要：みんなの身の回りにいるロボットがどのように動かされているかを知っていますか？

人がロボットを動かす時にはロボットが理解できるような言葉で話す必要があります。この言葉こそがプログラミングです。

今回は2人で1チームになって歩くレスキューロボットを作って、プログラミングソフトでそのロボットを自由自在に動かしてみましょ

8月23日（火）

タイトル：「化石のレプリカを作ろう！」

講師：半田 直人 氏（大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員）

参加人数：15人

概要：研究者や博物館の仕事に、化石のレプリカを作ることがあります。レプリカとは本物そっくりの模型のことを指します。模型とはいえ、本物と同じように扱って展示や研究のために役立てています。

大阪大学のキャンパス内からは、マチカネワニという大きなワニの化石が見つかっており、その全身骨格化石は大阪大学総合学術博物館に展示されています。

今回はマチカネワニの歯化石のレプリカを作ります。みなさんも、博物館の研究者を体験してみましょ

8月24日（水）

タイトル：「江戸時代人、西洋に学ぶ ～1日適塾生 体験教室～」

講師：松永 和浩 氏（大阪大学適塾記念センター 准教授）

参加人数：9人

概要：アジアのなかでいち早く近代化に成功した日本。その裏には西洋の学問を学んだ江戸時代人の努力がありました。

なかでも大阪にあった適塾（てきじゅく）では、多くの若者がオランダ語を勉強し、のちに学校や病院の先生となって近代化をリードしました。

彼らがどのように外国に学んだのか、当時の適塾生になりきって体験してみましょ

9. 大阪大学美術部 夏部展 2016 私の展覧会

期 間：2016年9月3日（土）～2016年9月10日（土）※9月4日（日）は閉館

会 場：大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3階多目的ルーム

概 要：

”博物館”という言葉で思い浮かべるイメージは千差万別です。博物館とは博物を受け入れる場所であり、美術作品もそこに含まれます。

大阪大学美術部は、今年もこの博物館で夏部展を開催させていただくにあたり、博物館の美術らしさとは何かを考え、部員それぞれの博物館のイメージを美術的に表現する展覧会を開くことにしました。それが「わたしの博物館」です。

企 画：

骨格標本

骨格標本といえば、そのインパクトから博物館の顔となり、たった一つの骨からでもその古代の息遣いを私たちに伝えてくれます。そんな骨格標本を、美術的手法でつくり出そうというものです。

あなたは一体どんな”生き物”をその骨格に感じ取るのでしょうか？

名画の部屋

歴史に残る名画とは、同時に歴史を物語る空間でもあります。この企画では、ドラクロワの代表作『民衆を導く自由の女神』を3次元の”部屋”にすることで、この名画が持つ興味深い歴史を感じてもらいたいと思います。

ボックスアート

ボックスアートとは、小さな箱の中に自分だけの世界をつくり出す美術的手法です。「標本採集」、「世界の国々」、「童話」の3つのテーマをもとに、個々が表現する世界へ連れて行ってくれることでしょう。

仮面展

仮面は古来から様々な文化の中で人々の心を表す役割を果たしてきました。ここには、美術部員がつくった様々な仮面が並びます。それら一つ一つが持つ心をぜひ感じ取っててください。

図鑑

図鑑には、それを書いたり編集したりする者の思いが表れます。それぞれが思い思いに描きたいものを描く、そんな図鑑がここにあり、その人独特の感性を私たちに教えてくれます。



10. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学校 理科展 サテライト展示

展示期間：2016年12月5日（月）～2016年12月10日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター

共催：豊中市教育委員会

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂、第11回女子中高生のための関西科学塾

後援：豊中市

展示概要：

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学校理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び、表彰しています。今回初の試みとして、今年の豊中市立小中学校理科展に出品された児童・生徒の自由研究作品約10,000点から各賞を受賞した優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示します。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

展示作品一覧：

- ・より安定的に風上に進むことのできるヨットの帆のアイデアの考案～帆の動きの研究を通じて～
(南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・ひろったほねを調べよう!(大阪大学総合学術博物館館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・音の模様で楽譜を作る(大阪大学総合学術博物館館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・ナミアゲハの幼虫の性格について～警戒心の継続時間～
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・雲の研究 1. 2 (豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・毛糸の研究～最強のたわしは何か?～(豊中市教育センターあすなろ賞受賞)
- ・救急車の音はなぜ聞こえ方が変わるの?音のカタチ(大阪府学生科学賞受賞)
- ・羽の数によって回転数は変わるのか(大阪府学生科学賞受賞)
- ・立体魚図鑑(大阪府学生科学賞受賞)
- ・天気図(大阪府学生科学賞受賞)
- ・ヨーグルトが苦くなる!? (大阪府学生科学賞受賞)
- ・おじぎ草の研究～動物のような植物～(大阪府学生科学賞受賞)

イベント：

受賞者による発表会

日時：2016年12月10日（土）13:00～14:30

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階 セミナー室

定員：30名（当日先着順・予約不要）

参加費：無料

大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画

豊中市立小中学校 理科展

サテライト展示

ことし とよなかしりつしょうちゅうがっこうりかてん しゅっぴん
今年の豊中市立小中学校理科展に出品された
じどう せいと じゅうけんきゅうさくひん やく てん
児童・生徒の自由研究作品約10000点から
えら ゆうしゅうさくひん てん おおさかだいがくそうごうがくじゅつ
選ばれた優秀作品12点を大阪大学総合学術
はくぶつかん てんじ
博物館で展示します！
さいしゅうび さくしゃ はっぴょう
最終日には作者による発表もあるよ！！

会 場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館
3階セミナー室（入場無料）

作品展示：2016年12月5日（月）～2016年12月10日（土）
開館時間：10:30～17:00（入館は16:30まで）

発表会：2016年12月10日（土）13時～14時30分
定 員：30名、当日先着順、予約不要

<問合せ先>

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13
大阪大学総合学術博物館
電話：06-6850-6714

<アクセス>

阪急電鉄 宝塚線 石橋駅
（徒歩10分）



大阪大学
「ワニ博士」



<会場アクセスMAP>

※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

主催：大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター
共催：豊中市教育委員会
協力：大阪大学21世紀懐徳堂・第11回女子中高生のための関西科学塾
後援：豊中市

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立小中学校理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示されている作品は以下の各賞を受賞された作品です。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

南部陽一郎賞

より安定的に風上に進むことのできるヨットの帆のアイデアの考案
～帆の働きの研究を通じて～



大阪大学総合学術博物館館長賞

ひろったほねを調べよう！



音の模様で楽譜を作る



大阪大学総合学術博物館待兼山賞

ナミアゲハの幼虫の性格について
～警戒心の継続時間～



豊中市教育センターあすなろ賞

雲の研究 1. 2



毛糸の研究～最強のたわしは何か？～



大阪府学生科学賞 作品名

- 救急車の音はなぜ聞こえ方が変わるの？音のカタチ
- ひろったほねを調べよう！
- 羽の数によって回転数は変わるのか
- 立体魚図鑑
- 雲の研究 1. 2
- 天気図
- ヨーグルトが苦くなる！？
- ナミアゲハの幼虫の性格について～警戒心の継続時間～
- おじぎ草の研究～動物のような植物～
- 音の模様で楽譜を作る
- より安定的に風上に進むことのできるヨットの帆のアイデアの考案
～帆の働きの研究を通じて～



豊中市 マチカネくん

11. 阪大生がつくった展覧会 2016 ベスト

期 間：2016年10月17日（月）～2016年11月25日（金）〔A日程〕

2016年12月19日（月）～2017年1月27日（金）〔B日程〕

会 場：大阪大学会館 3F 歴史展示室

概 要：

2010年度より開講している博物館学実習では、受講生がA・B各日程4班ずつに分かれて模擬展示を企画・実施しています。2013年度末よりその一端を大阪大学総合学術博物館のホームページに掲載していますが、2014年度から、優秀な展示を歴史展示室にて一般に公開することにしました。2016年度は、教員・受講生による投票の結果、織田一磨の版画作品を扱ったA-1班および女流水墨画家・松本奉山作品を扱ったB-2班が最優秀賞に選出されました。

展示概要：

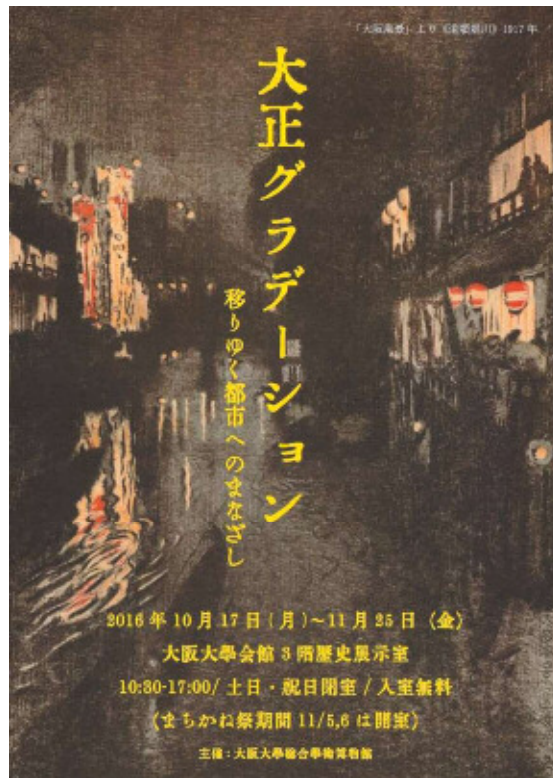
〔A日程〕大正グラデーション ― 移りゆく都市へのまなざし ―

織田一磨（おだかずま）は、近代の新しい潮流である創作版画の発展に寄与した版画家です。創作版画は、浮世絵のように絵師と職人の分業ではなく、画家自身が原画を描き、版を彫って摺る版画です。織田はこの手法で芸術性の高い作品を生み出しました。

織田は明治15年（1882）東京の芝に生まれ、12歳の時に大阪に転居し、一旦東京に戻りますが、明治44年（1911）から再び大阪で制作を行い、大阪市図案調整所に勤務しながら、初代通天閣の天井装飾も行いました。東京と大阪を行き来するなかで、刻々と変化する大正期の都市の姿を見つめました。

《東京風景》は大正5年（1916）から翌年にかけて、《大阪風景》は大正6年（1917）に制作されました。《東京風景》は、関東大震災前以前、江戸の面影を残す東京を伝える資料であり、《大阪風景》では、思春期を過ぎた水都の水辺を中心に近代化で移り変わる景色も描かれています。河川の多い大阪特有の景観は、「灰色好み」と言われた当時の織田の画風によく合致しました。

織田一磨没後60年となる今年、織田の愛した「江戸情緒」溢れる景観から「モダン都市」へと変貌していく都市の姿を、代表作《東京風景》《大阪風景》を中心にとりあげます。街の姿の変化だけではなく、時間のうつろい、デリケートな色調、織田の思いなど、様々な意味合いがこめられた、織田芸術のグラデーションを探しながらお楽しみください。



〔B 日程〕 松本奉山・覚醒 ―新たな水墨画の境地、その先へ―

水墨画と聞いて多くの方が思い描くのは、山や川、樹木や岩など自然の景色を写した山水画ではないでしょうか。私たちの多くが持つ水墨画のイメージは、室町時代的水墨画であり、如拙、周文、雪舟といった代表的な画僧の名を一度は耳にしたことがあるでしょう。

しかし現代においても、水墨画家として名を馳せた芸術家があります。それが女流水墨画家・松本奉山（1925―2010）です。彼女は、伝統的な中国様式的水墨画からかけ離れた画風と色彩を用い、自然の風景から建築物まで様々なものを対象として描き出してきました。異色の女流画家として名を馳せた彼女は、どのように生き、いかにして水墨画家としての姿勢を確立してきたのでしょうか。彼女の転機はアメリカへ渡ったことでした。

アメリカで開眼した境地 ― 目で見ただけを純粹に描き出す創作姿勢 ― と、そこから生まれた奉山の作品は日本だけでなく諸外国でも高い評価を受けました。本展覧会では、2012年に大阪大学総合学術博物館に寄贈された、奉山の渡米（1963年）以降の作品の中から、奉山らしさの感じられる作品を厳選し展示いたします。



関連企画：

ミュージアム・レクチャー

2016年11月19日(土) 「描かれた近代大阪―織田一磨《大阪風景》を中心に―」

参加者数：22人

講師：橋爪 節也（大阪大学教授 総合学術博物館/大学院文学研究科兼任）

博物館学実習優秀班メンバー

2017年1月14日(土) 「ミュージアムレクチャー ～引き継がれる奉山の意志～」

参加者数：20人

講師：松嶋伸山（松本奉山水墨画会）、博物館学実習優秀班メンバー

12. 専任教員活動報告

2016 年度 教員実績表

(2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日)

総合学術博物館 館長 永田 靖

研究・教育部	資料基礎研究系	
	・准教授	高橋 京子
	・特任助教(常勤)	高浦佳代子
	資料先端研究系	
	・教授	上田 貴洋
	・准教授	豊田 二郎
	・准教授	宮久保圭祐
	資料情報研究系	
	・教授	橋爪 節也
	・助教	横田 洋
資料部	・特任講師(常勤)	伊藤 謙

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
2 学期・共通教育科目[全学部・全学年]	演劇学入門
1 学期・文学部	演劇学講義
2 学期・文学部	演劇学講義
た学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
1 学期・文学部	演劇学演習
2 学期・文学部	演劇学演習
た学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
た学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
通年・文学研究科修士課程	アート・プロデュース論演習
通年・文学研究科修士課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
た学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
通年・文学研究科博士前期課程	芸術計画論演習
通年・文学研究科博士前期課程	修士論文作成演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
た学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
通年・文学研究科博士後期課程	演劇学博士論文作成演習

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
28 名	5 名	0 名

学位論文審査等（修士論文・卒業論文省略）

学位申請者および論文名	主査・副査の別
岡田 露子 岸田理生の言葉と身体-「アングラ」から「アジア」へ (博士学位論文)	主査
久岡加枝 ジョージア(グルジア)の民族的文化遺産としての合唱「ポリフォニー Polyphony」－ 20 世紀の民俗音楽研究と文化政策を中心に －	副査

【研究活動】

執筆活動（論文、総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	掲載誌他	報道年月
Destabilizing Geography: on Kara Gumi' s Taiwan Production, 1992,	<i>The 4th International Asian Theatre Studies Conference Asian Theatricality and Identity</i> , Theatre Studies Section, Graduate School of Letters, Osaka University,	2017, pp.6-11.
「伝統」の舞踊化（2）	『演劇学論叢』 大阪大学文学研究科 演劇学研究室	2016 年
「雲門舞集の新しい劇場」	『Arts and Media』 Vol.6, 大阪大学 文学研究科アート・メディア論コース	2016 年 pp.274-277
「ソビエト国際 SF 映画の系譜：『アエリータ』 に始まる」	『不思議惑星キンザザ デジタル・ リマスター版プログラム』 パンドラ	2016 年 8 月、pp.17-19

研究（学会）発表など

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
“Destabilizing Geography: on Kara Gumi' s Taiwan Production in 1992” ,	大阪大学中之島センター	2016 年 11 月 4 日	基調発表
「なげリアルを求めるのか-スタ ニスラフスキイ・システムから 考え直す」	雑誌『地下室』 創刊準備企画レクチャー &トーク、アンダー・スロー京都、	2016 年 8 月 10 日	レクチャー (シンポジウ ム)
「シルク・ドゥ・ソレイユとい う選択」	シンポジウム、アート・メディア論コー ス、大阪大学中之島センター	2016 年 10 月 12 日	シンポジウム

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
「ポスト・グローバリゼーション時代の日本演劇」	日本演劇学会全国大会、大阪大学	2016年7月2日	趣旨説明
“Performing Asian Geographical Past: on Production of Binro no Fuin by Karagumi, 1992” ,	International Federation for Theatre Research, Stockholm Conference, Presenting Theatrical Past, Stockholm University,	2016年6月16日	研究発表
「20世紀と世界演劇-演劇とグローバリゼーション」	甲南女学園大学清友会講演会、オーヴェルジュ・プレザンス桜井、	2016年6月4日	講演
“The Modern Perception of the Traditional Theatre in Japan: a Theoretical Perspective” ,	Asian Theatre Working Group Singapore Colloquium, National Institute of Education, Nanyang Technological University,	2016年5月1日	研究発表

【学会等企画運営】

学 会 名	開 催 地	役 割	期 間
日本演劇学会全国大会「ポスト・グローバリゼーション時代の日本演劇」	大阪大学	実行委員長	2016年7月1日～7月3日
International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Singapore Colloquium,	National Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore	Convener	2016年4月30日～5月1日
International Federation for Theatre Research Stockholm Conference, Asian Theatre Working Group Meeting, Presenting Theatrical Past,	Stockholm University, Sweden	Convener	2016年6月13日～17日
The 4 th International Asian Theatre Studies Conference; Asian Theatricality and Identity	Osaka University	Organizer	2016年11月4日～5日

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（B）	永田靖	2013年～2016年	継続

【社会貢献、管理運営等】

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
日本演劇学会会長	2013年6月		継続
International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Convener	2009年6月		継続
総長参与	2015年8月		継続
21世紀懐徳堂学主	2015年8月		継続
総合学術博物館長	2015年8月		継続
適塾記念センター長	2015年8月		新規
兵庫県立尼崎青少年創造劇場企画委員	2013年4月		継続
吹田市文化振興事業団理事	2014年4月		継続
豊中市立文化芸術審議会委員	2015年6月		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・薬学部・4 回生	漢方薬学（分担）
薬学部・薬学科（6 年制）・3 回生	長期課題研究
薬学部・薬学科（6 年制）・5 回生	長期課題研究
薬学部・薬科学科（4 年制）・4 回生	卒業研究
1 学期 薬学研究科	伝統医薬解析学特別講義
通年 薬学研究科（修士課程）	創成薬学ゼミナール 1
通年 薬学研究科（博士課程）	医療薬学ゼミナール 3
通年 薬学研究科（博士課程）	特別演習
共通教育基礎セミナー	博物館体験コース（分担）

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
9 名	0 名	0 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
小栗 一輝	主査
楠木 歩美	主査
井原 香名子	主査
末元 吹季	主査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
専門科目 生活と福祉 漢方今昔物語：生薬国産化	放送大学 大阪学習センター	2016 年 10 月 29-30 日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Longgu (Fossilia Ossis Mastodi) alters the profiles of organic and inorganic components in <i>Keishikaryukotsuboreito</i>	Oguri K. et al	J Nat Med,	70 : 483-91	2016 年
Mitochondrial defects associated with β -alanine toxicity: relevance to hyper-beta-alaninemia.	Scaffier SW. et al	Amino Acids	416 (1-2) 11-22	2016 年
薬食同源の観点から見た酒：「酒は百薬の長」を科学する	高橋 京子	適塾	49 41-55	2016 年
国史跡・森野旧薬園所蔵『森野藤助繁通編纂・草木葉譜』の全容可視化と修復保存	高橋 京子	文化財保存修復学会誌	60 : 97	2017 年

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
「薬草の博物誌：森野旧薬園と江戸の植物図譜」 温故知新：森野旧薬園から学ぶ生薬国産化 第2版	高橋 京子(共著)	LIXIL BOOKLET	頁 30-32	2017 年 2 月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
シンポジウム4 「探訪 古今・未来の薬草園」	高松国際会議場	2016 年 6 月 5 日	第 67 回日本東洋医学会学術総会
漢方のあゆみ～Part2 漢方復権のシナリオ	高松国際会議場	2016 年 6 月 5 日	第 67 回日本東洋医学会ツムラスポンサードセミナー
地域文化力と 6 次産業化の融合～奈良県の独自性を地域活性化に～ 地域文化力と薬草栽培の叡智：大和芍薬のルーツをさぐる	東大寺総合文化センター金鐘ホール (奈良)	2017 年 1 月 18 日	森野藤助賽郭 没後 250 年記念講演会

研究 (学会) 発表など

タイトル	場所	年月日	備考
化石由来生薬「竜骨」の品質と基原：有限資源の供給課題	第 67 回日本東洋医学会 香川	2016 年 6 月 4-5 日	口頭発表
大阪大学に継承される和漢生薬標本の意義：津村研究所製標本の場合	第 67 回日本東洋医学会 香川	2016 年 6 月 4-5 日	口頭発表
緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)に収蔵された生薬資料：虫害状況とその特徴	文化財保存修復学会 第 38 回大会 平塚	2016 年 6 月 25-26 日	口頭発表

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
大阪大学に継承される和漢生薬標本の意義:文理融合研究への応用	第 11 回博物科学会 広島	2016 年 6 月 30 -7 月 1 日	口頭発表
中山間地域における生薬資源研究: 伝統と暗黙知に基づく地域性の強化	第 34 回和漢医薬会 東京	2016 年 8 月 27-28 日	口頭発表
桃仁 PERSICAE SEMEN の潜在的資源探査: 地域在来果樹活用の可能性	第 63 回日本生薬学会 富山	2016 年 9 月 24-25 日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱 (大阪大学所蔵)』研究: 第一の薬箱の現況	日本薬史学会 2016 年会 東京	2016 年 10 月 25-26 日	ポスター発表
『緒方洪庵の薬箱 (大阪大学所蔵)』研究: 第二の薬箱の現況	日本薬史学会 2016 年会 東京	2016 年 10 月 25-26 日	ポスター発表
地域文化と薬草栽培の叡智: 森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー	神戸大学 ワークショッ プ 2 神戸	2016 年 11 月 13 日	口頭発表
地域特産果樹を活用した生薬国産化研究: シテイ (KAKI CALYX) の安全性評価と吃逆治療	日本薬学会第 137 年会 仙台	2017 年 3 月 25-27 日	口頭発表
桃仁 PERSICAE SEMEN の潜在的資源探査: 国内栽培品種の形態特性検	日本薬学会第 137 年会 仙台	2017 年 3 月 25-27 日	口頭発表
Longgu (Fossilia Ossis Mastodi, dragon bone) changes the component profiles in Keishikaryukotsuboreito (Gui-zhi-jia-long-gu-mu-li-tang)	5th International Conference and Exhibition on Pharmacology and Ethnopharmacology Orlando, FL. USA	2017 年 3 月 26-28 日	ポスター発表
Paeoniae Radix: a characteristic materia medica in Asian countries	5th International Conference and Exhibition on Pharmacology and Ethnopharmacology Orlando, FL. USA	2017 年 3 月 26-28 日	口頭発表
Preservation of medical inheritances: Application of ancient wisdom,	5th International Conference and Exhibition on Pharmacology and Ethnopharmacology Orlando, FL. USA	2017 年 3 月 26-28 日	口頭発表

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」 分担	川嶋 浩樹	2016-2020年	新規
鹿島学術振興財団研究助成 分担	松永 和浩	2014-2016年	継続

寄付

寄 付 名	寄付者名	金 額	受入年月	継続 / 新規
高橋京子薬用資源研究助成金	長江 義明	200万円	2016年7月	新規
高橋京子薬用資源研究助成金	森野 薫子	200万円	2016年5月	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
森野旧薬園至宝『松山本草』の世界～薬草栽培の叢智～	AGC studio (京橋創生館)	LIXIL ギャラリー講演会	2016年4月7日
漢方今昔物語：森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー	ホテルアウィーナ大阪	第79回大阪丸高同窓会総会 特別講演	2016年10月2日
温故知新：森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー	奈良まほろば館 東京・日本橋	森野藤助賽郭 没後250年記念講演会	2017年1月28日
2016年春季展覧会開催 「森野藤助～先駆・革新の系譜～」	森野旧薬園 奈良県・宇陀市	森野旧薬園・大阪大学総合学術博物館主催	2016年4月3日～6月5日
森野初代藤助賽郭 没後250年記念展覧会 「森野家至宝『松山本草』～よみがえる森野藤助賽郭と薬草栽培の叢智～」	森野旧薬園 奈良県・宇陀市	森野旧薬園・大阪大学総合学術博物館主催	2016年10月16日～11月27日

団体見学の説明等

団体名 (人数)	説明日	備 考
毎日文化センター (梅田) (14名)	2016年7月19日	
大阪大学総合学術博物館 まちかね祭 特別公開 (約100名)	2016年11月5日	大阪大学会館3階
ミュージアムレクチャーNo.136 「難病の克服に向けた新しい治療薬の研究」 コーディネーター薬学研究科・下剛典) 司会 (24名)	2017年1月21日	待兼山修学館3階

相談

相談分類	開始年月	終了年月
江戸期医療事情・薬草（奈良県医療政策部） アドバイザー （漢方のメッカ推進プロジェクト）	2013年12月	継続中
史跡・森野旧薬園保存管理計画策定委員会 副委員長 （宇陀市教育委員会文化財課）	2015年11月	継続中

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大阪大学適塾記念センター	2011年4月		継続
大阪大学男女協働推進センター	2015年4月		継続
総合学術博物館・企画調整委員会	2016年4月		新規
同 グローバル・情報委員会	2016年4月		新規
同 博物館教育推進委員会	2016年4月		新規
適塾記念会 幹事	2015年		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬理学会	学術評議員	2006年～	継続
富山大学和漢医薬総合研究所	特任研究員	2011年～	継続
科学研究費委員会	専門委員	2010～2012年	継続
日本薬学会近畿支部会	委員	2007年～	継続
高知県立牧野植物園	上席客員研究員～アドバイザー	2013年～	継続
日本東洋医学会生薬原料委員会	委員	2014年～	継続
日本薬史学会	評議員	2015年～	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・共通教育科目(全学部・全学年)	博物館体験コース(共担)
1 学期・大学院薬学研究科	伝統医薬解析学特別講義
大学院横断科目・学際融合教育科目(集中)	実践ミュージアムコミュニケーション学(共担)

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Mitochondrial defects associated with β -alanine toxicity: relevance to hyper-beta-alaninemia	Shetewy A, <u>Shimada-Takaura K</u> , Warner D, Jong CJ, Mehdi AB, Alexeyev M, Takahashi K, Schaffer SW	Molecular and Cellular Biochemistry	416・11・22	2016年5月

研究(学会)発表など

タイトル	場所	年月日	備考
近現代日本における生薬栽培事業の検証： 津村研究所製和漢薬標本と薬用植物園	第65回日本東洋医学会 学術大会(香川)	2016年6月3- 5日	口頭発表
緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)に収納された生薬資料： 虫害状況とその特徴	文化財保存修復学会第 38回大会(神奈川)	2016年6月25- 26日	口頭発表
国史跡・森野旧薬園の複合的保存修復活動による地域 文化力の向上研究	第11回日本博物科学会 (広島)	2016年6月30日 -7月1日	ポスター発表
大阪大学に継承される和漢生薬標本の意義： 文理融合研究への応用	第11回日本博物科学会 (広島)	2016年6月30日 -7月1日	口頭発表
中山間地域における生薬資源研究： 伝統と暗黙知に基づく地域性の強化	第33回和漢医薬学会学 術大会(東京)	2016年8月27- 28日	口頭発表
桃仁 PERSICAE SEMEN の潜在的資源探査： 地域在来果樹活用の可能性	日本生薬学会第63回年 会(富山)	2016年9月24- 25日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(大阪大学所蔵)』研究： 第一の薬箱の現況	日本薬史学会2016年会 (東京)	2016年10月29日	ポスター発表
『緒方洪庵の薬箱(大阪大学所蔵)』研究： 第二の薬箱の現況	日本薬史学会2016年会 (東京)	2016年10月29日	ポスター発表
地域特産果樹を活用した生薬国産化研究： シテイ(KAKI CALYX)の安全性評価と吃逆治療	日本薬学会第137年会 (宮城)	2017年3月24- 27日	口頭発表

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
桃仁 PERSICAE SEMEN の潜在的資源探査：国内栽培品種の形態特性検証	日本薬学会第 137 年会 (宮城)	2017 年 3 月 24－ 27 日	口頭発表
Paeoniae Radix: a characteristic materia medica in Asian countries.	5th International Conference and Exhibition on Pharmacology and Ethnopharmacology (Orlando, FL, USA)	March 23-25,2017	口頭発表
Preservation of medical inheritances: Application of ancient wisdom	5th International Conference and Exhibition on Pharmacology and Ethnopharmacology (Orlando, FL, USA)	March 23-25,2017	口頭発表 (Workshop)

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究(B) 「アクションリサーチによる医療文化財資源解析 法の革新：緒方洪庵の实地臨床」	高浦 佳代子	2015 年 4 月－ 2018 年 3 月	継続
農林水産省 平成 28 年度委託プロジェクト研究 市場開拓に向けた取組を支える研究開発 「薬用作 物の国内生産拡大に向けた技術の開発」	川嶋 浩樹	2016 年度－ 2020 年度	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・共通教育科目[全学部・全学年]	博物館体験コース (共担)
通年・理学部化学科・4 年生	化学特別研究
通年・理学部化学科・4 年生	化学文献調査
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) (共担)
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I) (共担)
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II) (共担)
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I) (共担)
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II) (共担)
通年・理学研究科博士後期課程 (化)	核磁気共鳴分光学特別セミナーI
通年・理学研究科博士後期課程 (化)	核磁気共鳴分光学特別セミナーII
通年・理学研究科博士後期課程 (化)	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII
大学院横断科目・学際融合教育科目 (集中)	実践ミュージアムコミュニケーション学 (共担)

学外での教育活動 (集中講義等)

授業科目名	機関名	期間
物理化学特論	東洋大学大学院理工学研究科	2016 年 8 月 1 日-2 日

学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
2 名	0 名	2 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
喜村 勝矢 Fabrication of Si materials and application to energy devices (博士学位論文)	副査
山谷 達也 吸着速度で見た多孔性配位高分子 ZIF-8 への嵩高い分子の物理吸着過程とその 微視的機構の解明 (修士論文)	主査

【研究活動】

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
アトキンス物理化学 (上) 10版	Peter Atkins・Julio de Paula 著 中野 元裕・上田 貴洋 奥村 光隆・北河 康隆 共訳	東京化学同人	501	2017年3月10日

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	掲載誌他	報道年月
NMR でみる多孔性配位高分子 ZIF-8 の動的細孔構造	大阪大学低温センター研究報告書 (平成 27 年度)	2017年1月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
Adsorption kinetics of ZIF-8 and its temperature dependence for some large molecules	12 th International Symposium on the Fundamentals of Adsorption (FOA ²), Friedrichshafen/Lake Constance, Germany	2016年5月29日 -6月3日	ポスター
多孔性配位高分子 ZIF-8 のリンカーダイナミクスに及ぼす分子吸着の影響	第 30 回日本吸着学会研究発表会 (長崎、長崎大学)	2016年11月10日 -11日	口頭発表
多孔性配位高分子 ZIF-8 の速度論的アプローチによる蒸気吸着挙動の解明	第 30 回日本吸着学会研究発表会 (長崎、長崎大学)	2016年11月10日 -11日	口頭発表 (大学院生)
多孔性配位高分子 ZIF-8 への嵩高い分子の吸着に対する速度論的考察	日本化学会第 97 春季年会 (神奈川県 慶應義塾大学 日吉キャンパス)	2017年3月16日 -19日	口頭発表

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 挑戦的萌芽研究「細孔分析法を用いた土器類の新規評価法の開発」（課題番号 15K12445）	上田 貴洋	平成 27 年— 平成 29 年	継続

【社会貢献、管理運営等】

団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
奈良市立一条高等学校（42名）	2016年6月27日	

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
図書館委員会委員	2022年4月		継続
総合図書館図書選定小委員会委員	2022年4月		継続
計画・評価委員会 委員	2024年4月		継続
男女協働推進・社会学連携室室員（副理事）	2016年8月		新規
21世紀懐徳堂運営委員会 副委員長	2025年11月		継続
大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業 記念出版・展示実行委員会委員	2027年1月		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本吸着学会 運営委員会	運営委員	2014年4月－	継続
日本吸着学会	評議員	2015年4月－	継続
豊中市学校教育審議会委員	委員	2015年6月－	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
た・工・1	化学概論
た・医/薬・2	化学実験
1・理・2	自然科学実験2化学
1・全学部・全学年	博物館体験コース
1・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
日本化学会第97春季年会 Computational chemistry study of cellulose hydrolysis process (2)	慶応義塾大学 日吉キャンパス	2017年 3月16日	

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
ホテルの光のひみつ	大阪大学待兼山修学館 セミナー室	大阪中学生サマー・セミナー 推進協議会	2016年8月2日

団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
新入職員見学研修見学セミナー（48名）	2016年4月12日	
大阪北部コミュニティーカレッジ（55名）	2016年5月13日	
岡山県立倉敷星陵高校（80名）	2016年5月21日	
湯梨浜学園高校（22名）	2016年7月22日	
智弁学園（50名）	2016年8月30日	
サンマテオ市（5名）	2016年10月14日	
シニア自然大学校（30名）	2016年11月11日	
阪大国際交流センター（20名）	2016年11月24日	
宝塚北高校（45名）	2016年11月24日	
上海交通大学（25名）	2016年12月15日	
OD24木曜会（15名）	2016年12月15日	

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続 / 新規
理学研究科化学専攻 Web 広報委員会・ネット部会委員	2016年4月1日		継続
ODINS 運用部会 部局ネットワーク担当者	2002年4月1日		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続 / 新規
日本化学会近畿支部幹事	幹事	2017年1月～	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・医学部医学科・1 年	化学概論
1 学期・歯学部歯学科・2 年 基礎工学部化学応用化学科・2 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
2 学期・医学部保健学科・1 年 基礎工学部システム工学科・2 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学 (共担)

その他の執筆活動 (総説、評論、辞典項目、各種記事など)

タイトル等	報道機関名	報道年月
大阪高等学校・浪速高等学校の博物館・アーカイブズ所蔵資料を活用した展覧会	大阪大学アーカイブズニューズレター 第 8 号	2016 年 9 月 30 日

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
ミュージアムレクチャー「旧制高校教育と大学一般教養読み比べ-理系教員の視点で-」	待兼山修学館 セミナー室	大阪大学総合学術博物館	2016 年 4 月 30 日
「文理融合を目指す大学博物館の取り組み」(シンポジウム「現代に問う 自然系ミュージアム」)	JT 生命誌研究館	北大阪ミュージアム・ネットワーク	2017 年 1 月 14 日

団体見学の説明等

団体名 (人数)	説 明 日	備 考
共通教育科目「大阪大学の歴史」受講者 (94)	2016 年 4 月 11 日	
大阪よどがわ市民生活協同組合 (18)	2016 年 4 月 16 日	
浪高同窓会 (9)	2016 年 5 月 9 日	
岡山県立倉敷青陵高校 (85 共同担当)	2016 年 5 月 20 日	
基礎工学部材料工学科一期生同窓会 (6)	2016 年 5 月 23 日	
大阪北部コミュニティカレッジ (31)	2016 年 6 月 3 日	
国立大学ゼミ (進学塾) (9)	2016 年 6 月 4 日	
文学部「日本学演習」(17)	2016 年 6 月 15 日	
近大付属広島東広島高校 (30)	2016 年 8 月 2 日	

団体名 (人数)	説明日	備考
兵庫県立御影高等学校 PTA (28)	2016年9月8日	
千葉県県会議員 (2)	2016年9月17日	
石川県立七尾高等学校 PTA (25)	2016年10月22日	

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続 / 新規
教養教育カリキュラム検討 WG	2015年10月		継続
教養教育科目長	2013年4月		継続
豊中地区安全衛生委員会	2015年4月		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
1 学期・文学部	日本美術史演習
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習
1 学期・知のジムナスティックス科目	実践ミュージアムコミュニケーション学 [共担]
2 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
2 学期・文学部	日本美術史講義
2 学期・文学部	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学部	日本美術史演習(見学演習 2) [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習(見学演習 2) [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習(見学演習 2) [共担]
工学部 1 年生 9 月開催	学外研修
一般・学生	「記憶の劇場」大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」

学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
33名 文学部 (学部19)・文学研究科 (前期課程6、後期課程8)	1 名 (研究生)	3 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
修士論文 鈴木 寛和「片山昭弘の1950年代」	主査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
大阪学	帝塚山学院大学	2016年4-5月
美の感動を生む場所－美術館	放送大学大阪学習センター (放送大学学園)	2016年10月1日－ 2017年3月31日
古美術研究旅行	愛知県立芸術大学油画科	2016年10月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
T. MAEDA の見たもの－大大阪のモダニズムと前田藤四郎－	橋爪 節也	「前田藤四郎と川上澄生－モダニズム版画の実験室－」鹿沼市立川上澄生美術館	9頁－23頁	2016年10月1日
「北野恒富と歌舞伎、浄瑠璃－生命感の躍動と画家の個性を求めて－」大大阪の画家たち第1回	橋爪 節也	『やそしま』第10号 関西・大阪21世紀協会、上方文化芸能運営委員	36頁－75頁	2016年12月10日
「大学の“記憶”とアート・リソース－大阪大学豊中キャンパスにおける調査報告－」	橋爪 節也	『ユニヴァーシティ・アート・リソース研究Ⅱ』科学研究費補助金 基盤研究(A)大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究(課題番号15H01874)』	55頁－72頁	2017年3月27日

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「大阪市中心標」解説	「大阪の歴史」第84号 大阪市史編纂所	2016年7月
「大丸 VERSUS そごう－百貨店の空間意匠」	『日本・地域・デザイン史Ⅱ』芸術工学会地域デザイン史特設委員会編 美学出版社	2016年12月5日
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く(16)「装幀」の美学」聞き手 橋爪節也・古川 武志	『大阪春秋第162号－池の文化香るまち大阪狭山－』	2016年4月

タイトル等	報道機関名	報道年月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く (17) 報道画～閉ざされた情景を描く～」 聞き手 橋爪節也・古川武志	『大阪春秋第 163 号—軍都おおさか—71 年目の戦争 遺跡—』	2016 年 7 月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く (18) 奉納画 ～祈りと鎮魂をこめて～」 聞き手 橋爪節也・古川武志	『大阪春秋第 164 号—” なんかもろい” まち 東淀川—』	2016 年 10 月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く (19)」 聞き手 橋爪節也・古川武志	『大阪春秋第 165 号—いまよみがえる三好長慶の 世界—』	2017 年 1 月
いきかたのカタチ住ムフムラボ「絵を飾る 人のキモチ」第 9 回「サクラ咲く国のサク ラの絵」	積水ハウス株式会社 住ムフムラボ (うめきた グラ ンフロント大阪 ナレッジキャピタル) http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/	2016 年 4 月 21 日
いきかたのカタチ住ムフムラボ「絵を飾る 人のキモチ」第 10 回 「世界文化遺産に突 っこみつつ、「環境絵画」としての襖絵が面 白いという噺」	積水ハウス株式会社 住ムフムラボ (うめきた グラ ンフロント大阪 ナレッジキャピタル) http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/	2016 年 8 月 25 日
いきかたのカタチ住ムフムラボ「絵を飾る 人のキモチ」第 11 回「猫谷に笑う三賢人～ 長沢蘆雪の襖絵から、再び「世界遺産」に突 っ込みかけた話」	積水ハウス株式会社 住ムフムラボ (うめきた グラ ンフロント大阪 ナレッジキャピタル) http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/	2016 年 12 月 22 日
おおさか KEY ワード第 67 回「大阪人は南 画が好き…だったはずが—蕪村生誕 300 年、鉄斎生誕 180 年—」	「いちょう並木」4 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 4 月 10 日
おおさか KEY ワード第 68 回「千両箱を抱 えて走ると屋根が抜ける—江戸時代からお 金に宿る“金霊” —」	「いちょう並木」5 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 5 月 10 日
おおさか KEY ワード第 69 回「嗚呼黎明は 近づけり…友よ我らぞ光と—旧制高校を 知っていますか—」	「いちょう並木」6 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 6 月 10 日
おおさか KEY ワード第 70 回「「夏祭浪花 鑑」の泥田を探せ—大阪の夏芝居はこれで 決まり—」	「いちょう並木」7 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 7 月 10 日
おおさか KEY ワード第 71 回「蟻一匹炎天 下—作家藤本義一のダンディズム—」	「いちょう並木」8 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 8 月 10 日
おおさか KEY ワード第 72 回「見上げてご らん、煌めく星を—天学家・間重富没後二〇 〇年—」	「いちょう並木」9 月号 大阪市教育委員会発行、 大阪市総合学習センター編	2016 年 9 月 10 日

タイトル等	報道機関名	報道年月
おおさかKEYワード第73回「大阪モダニズムと私鉄沿線ーわが町にも文化の香り」	「いちょう並木」10月号 大阪市教育委員会発行、大阪市総合学習センター編	2016年10月10日
おおさかKEYワード第74回「懐徳堂が大阪にありー町人の町人による町人のための学問所ー」	「いちょう並木」11月号 大阪市教育委員会発行、大阪市総合学習センター編	2016年11月10日
おおさかKEYワード第75回「三都三府のプライドー新春に祈念する、今年はいかに」	「いちょう並木」12月1月合併号 大阪市教育委員会発行、大阪市総合学習センター編	2016年12月10日
おおさかKEYワード第76回「「野良犬会」は吠えるー藤本義一と今東光」	「いちょう並木」2月号 大阪市教育委員会発行、大阪市総合学習センター編	2017年2月10日
おおさかKEYワード第77回「十円玉は旅ガラスー銅とゆかりが深い大阪」3月号	「いちょう並木」3月号 大阪市教育委員会発行、大阪市総合学習センター編	2017年3月10日
「大阪の陣 400年と大阪城対談シリーズ40」北川中央大阪城天守閣館長と対談	「うえまち」第143号 うえまち編集局	2017年2月24日
「都市とアートのお話ー「大大阪」誕生と奮起する画家たちー」	「學士會会報」No. 923 學士會	2017年3月
つれづれ彩時記「大大阪」妄想紀行1. 「乱歩が注いだ濃厚な空気」	朝日新聞夕刊	2017年2月23日
つれづれ彩時記「大大阪」妄想紀行2. 「水都に降りたエジプトの神々」	朝日新聞夕刊	2017年3月30日

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
橋爪節也「なにわの文化・芸術で商いをするーこんなに個人的な大阪の先人たち」	帝国ホテル大阪 孔雀の間	2016年5月26日	大阪装粧品協同組合創立150周年祝賀会
国際シンポジウム「大学と美術の可能性を求めて」コメンテーター	九州大学箱崎キャンパス 旧工学部本館 大講義室	2016年10月15日	主催 科研共同研究 大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究
橋爪節也「大学の歴史は誰のものかー《源流》探しと都市大阪、そして博物館ー」	グランフロント大阪 ナレッジキャピタル	2016年12月11日	「大学ミュージアムをめぐるシンポジウム みんなのヒストリーみんなのミュージアム 学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営」主催：大阪大学総合学術博物館、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会 後援：北大阪ミュージアム・ネットワーク 協力：大阪大学21世紀懐徳堂

講演タイトル	場 所	年 月 日	備 考
橋爪節也「大学の歴史と大学ミュージアム」	日本体育大学図書館	2017年1月20日	日本体育図書館協議会 2016年度 研修会 オープンセミナー「自校史教育を図書館 につなげる」

研究（学会）発表など

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
橋爪節也「イマジュリイ蒐集と都市イメージ探求」シンポジウム「アート? デザイン? 道楽?—大阪イマジュリイをもとめて」	大阪市中央公会堂	2016年7月31日	主催：大正イマジュリイ学会 後援：大阪市

報道

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
「大阪新美術館 38年越し実現? 市コスト抑え基本設計費計上」にコメント「中之島から文化発信を」	朝日新聞	2017年7月13日	
「美の美 大大阪の風景 上」にコメント	日本経済新聞	2016年12月4日	
「美の美 大大阪の風景 下」にコメント	日本経済新聞	2016年12月11日	
「新美術館— 構想 34年、大阪市が建設へ設計業者決定」にコメント	毎日新聞	2017年2月10日	
「関西の力 第3部スポーツの力 タニマチ気質」コメント	産経新聞夕刊	2017年2月25日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続/新規
基盤研究(A)「大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究」(研究課題番号:15H01874)	五十殿 利治	2015—2018年	継続

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
第1回「大大阪成立にむけて、大阪市はいかなる美術行政を目指したか—市立美術館・工芸学校・美術家協会の成立と挫折—」	大阪市立生涯学習センター	いちょう大学同窓会平成28年第2期「土曜学習会」歴史コース 大大阪90年の文化・芸術物語 第2章「アートの世界でモダン大阪を探索する」	2016年7月16日
第2回「描かれた天神祭り—浪花百景から生田花朝へ」	大阪市立生涯学習センター	同上	2016年7月23日

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
第3回「佐伯祐三とその芸術―バリエーションに死した天才画家―」	大阪市立生涯学習センター	同上	2016年8月6日
第4回「昭和22年の大分県へ―映画「大分県観光」を読み解く―」	大阪市立生涯学習センター	同上	2016年8月27日
第5回「大阪人の愛した戯画・イラストの世界―江戸時代から近代のおもしろい大阪の絵画―」	大阪市立生涯学習センター	同上	2016年9月10日
第6回「もっと大阪の文化・芸術を知ろう―戦後大阪の現代美術―」	大阪市立生涯学習センター	同上	2016年9月24日
「江戸絵画のたのしみ―師匠応挙、弟子蘆雪の作品を造形性から読み解く―」	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館	2016年10月23日
第18回「鎮守の杜・仁徳文化サロン―文楽をゆく―」 二代目吉田玉男 対談・橋爪節也	高津宮	鎮守の杜・仁徳文化サロン	2016年11月5日
「大学博物館を識る―大阪大学総合学術博物館―」	芦屋市民センター	芦屋川カレッジ	2016年11月21日
上町台地・今昔フォーラム vol.7 「“しゅみんじん”のまち・大阪レビュー 郷土玩具から広がる「趣味人」ネットワークと近代・大阪の創造力」	大阪ガス実験集合住宅NEXT21 2階ホール	大阪ガスエネルギー・文化研究所（CEL）	2017年2月25日
検証 70年大阪万博―その遺産とは「前衛芸術と大阪の街―ボクのパビリオン体験―」	上田安子服飾専門学校本館	大阪自由大学	2017年2月13日
「アート・アイランド探訪―モダニズム芸術の発信基地、中之島―」	リーガロイヤルホテル	リーガロイヤルホテル	2017年2月17日

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
公開講座運営委員会	2008年4月		継続
アーカイブス運営委員会	2012年10月		継続
適塾記念センター会議			継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役 職	期 間	継続/新規
大正イマジュリ学会	常任委員		継続
大阪府市民表彰選考委員会	選考委員		継続
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー	2014年4月―現在	継続
一般財団法人懐徳堂記念会	評議員		継続
八尾市 今東光資料館	企画展示アドバイザー		継続
堺市展 日本画部門審査委員会	審査委員	2016年	継続
和歌山県展 日本画部門審査委員会	審査委員長	2016年	継続

委員会名	役 職	期 間	継 続 / 新 規
第 54 回 なにわ芸術祭新人賞選出 新進落語家競演会審査委員会	審査委員	2016 年 1 月 15 日	継 続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・全学教育推進機構・1 年	基礎セミナー「博物館体験コース」
通年・文学部・2、3、4 年	博物館学（学内実習）
1 学期・高度教養プログラム・1、2、3、4、5 年	実践ミュージアムコミュニケーション学

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
国際社会と日本文化Ⅲ（伝統芸能）	大阪国際大学	2016 年 10 月－2017 年 3 月
映画の歴史	大手前大学	2016 年 10 月－2017 年 3 月

【研究活動】

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
女性芸能者の近代-その普遍性と特殊性-	大阪大学	2016 年 7 月 2 日	日本演劇学会

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究（C） 「芸能史的環境における映画とその影響に関する研究」	横田 洋	平成 27 年度－ 平成 30 年度	継続

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 「大学ミュージアムを楽しもう」	豊中市立中央公民館	大阪大学総合学術博物館	2017 年 3 月 18 日

団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
京都市立西京高等学校附属中学校 3 年	5 月 18 日	
特定営利活動法人 シニア自然大学校 自然と文化科	6 月 15 日	
ONCC 西国街道を訪ねる科 6 班	7 月 7 日	
かんさい大学ミュージアム連携ギャラリートーク	10 月 20 日	
かんさい大学ミュージアム連携ギャラリートーク	11 月 17 日	
NPO 法人 大阪府北部コミュニティカレッジ 健康とアウトドア科	2 月 16 日	

特任講師(常勤) 伊藤 謙

【社会貢献、管理運営等】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・3回生以上	博物館学(学内実習)
1回生	基礎セミナー「博物館体験コース」

学生指導

学生数(留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
41名	0名	5名

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Research on KAMPO Medicine in Shanghai Natural Science Laboratories	伊藤 謙	東洋文化研究所 紀要	第171冊	Research on KAMPO Medicine in Shanghai Natural Science Laboratories

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
Seminar from Osaka University	Perugia University	2016年12月6日	学術講演会
Interconnection between Arts and Culture from JAPAN	Perugia University	2017年3月20日	学術講演会
豊中の至宝・マチカネワニ～発見と研究の軌跡～	豊中市中央公民館	2017年1月13日	アウトリーチ活動

【社会貢献、管理運営等】

団体見学の説明等

団体名(人数)	説明日	備考
De La Salle UNIVERSITY (6人)	2016年4月8日	
Rangsit University (18人)	2016年4月23日	
金光八尾高等学校 (30人)	2016年7月12日	
私立 昭和薬科大学附属高等学校 (26人)	2016年8月31日	
大学生のキャリアを考える会 (5人)	2016年10月25日	
上海交通大学 (12人)	2016年12月15日	
理学研究科 久野研究室 さくらサイエンスプログラム (12人)	2017年1月14日	

13. 資料

掲載項目

- ・ 2016 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

2016 年度の主な活動一覧

期間	主な活動
2016年	
4月23日	「第15回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」【1回目】が開催された。(主催：大阪大学 21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
4月27日 ～7月9日	大阪大学総合学術博物館 第9回特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと 一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学アーカイブズ 協力：大阪府立大学 21世紀科学研究機構 大学史編纂研究所、大阪大学 21世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
4月30日	大阪大学総合学術博物館 第66回ミュージアム・レクチャー「旧制高校教育と大学一般教養読み比べー理系教員の視線でー」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館准教授 宮久保 圭祐 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
5月7日	「第15回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」【2回目】が開催された。(主催：大阪大学 21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
5月21日	大阪大学総合学術博物館 第67回ミュージアム・レクチャー「大阪大学会館から「発見」された旧制浪速高校奉安庫ー大阪大学に残る戦争遺跡ー」を開催した。(講師：大阪大学アーカイブズ教授 菅真城氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
5月28日	大阪大学総合学術博物館 第68回ミュージアム・レクチャー「大阪大学における教養教育の現状」を開催した。(講師：大阪大学大学院理学研究科教授 前大阪大学全学教育推進機構長 下田正氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
6月25日	大阪大学総合学術博物館 第69回ミュージアム・レクチャー「大阪の高等教育機関の変遷」を開催した。(講師：大阪府立大学 21世紀科学研究機構 大学史編纂研究所 教授 山東功氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
7月23日～7月24日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」ー大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①「『記憶の劇場』オープニング・セミナー」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学文学研究科 連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、公益財団法人吹田市文化振興事業団(吹田メイシアター)、豊中市都市活力部文化芸術課、能勢浄るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)、公益財団法人益富地学会館 助成：平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 会場：大阪大学会館 21世紀懐徳堂スタジオ、大阪大学文法経本館 文経中庭会議室)
7月23日～8月27日	大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市、豊中市教育委員会 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂、大阪市立自然史博物館、太田記念美術館、株式会社サイエンスモンスター、京都大学霊長類研究所、滋賀県立琵琶湖博物館、信州新町化石博物館、戸隠地質化石博物館、西浦青雅堂、三重県総合博物館、瑞浪市化石博物館)
7月30日	大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会 豊中市関連イベント「ちっちゃい化石モンスターを探せ！」を開催した。(講師：早稲田大学高等研究所 西岡佑一郎氏 大阪大学総合学術博物館研究支援推進員 半田直人 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市、豊中市教育委員会 会場：豊中市教育センター科学実験室)
7月31日	大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会 豊中市関連イベント「これでキミもワニ博士ーマチカネワニのレプリカ作りー」を開催した。(講師：早稲田大学高等研究所 西岡佑一郎氏 大阪大学総合学術博物館研究支援推進員 半田直人 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市、豊中市教育委員会 会場：豊中市教育センター科学実験室)
8月2日	平成28年 大阪中学生サマー・セミナー 大阪大学総合学術博物館開設講座「ホテルの光のひみつ」が開催された。(主催：大阪中学生サマー・セミナー推進協議会 後援：大阪府 講師：大阪大学総合学術博物館准教授 豊田二郎 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
8月6日	大阪大学総合学術博物館 第70回ミュージアム・レクチャー「民俗学と古生物学から見た怪異考」を開催した。(講師：天理大学文学部教授 齊藤純氏、古生物学者理学博士 荻野慎諧氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)

期間	主な活動
8月6日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」を開催した。(講師：国立民族学博物館 日高真吾氏、演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学文学研究科・大阪大学総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学文学研究科 渡辺浩司氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉)
8月11日～8月12日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol. 1, 2」を開催した。(講師：立川晋輔氏、維新派 清水翼氏、南山大学 ささきようこ氏、dracom 筒井潤氏、dracom[NPO 法人記録と表現とメディアのための組織]/東京大学大学院 松本篤氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏 担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)
8月13日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」を開催した。(講師：国立民族学博物館 日高真吾氏、演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学文学研究科・大阪大学総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学文学研究科 渡辺浩司氏 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉)
8月22日	2016 年体験！こどもミュージアム@大阪大学「ブロックでレスキューロボットを作って動かそう！」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学レゴ部(大阪大学公認学生団体)、大阪大学人間科学部 2 年 イザラなみ氏 他 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
8月23日	2016 年体験！こどもミュージアム@大阪大学「化石のレプリカを作ろう！」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館研究支援推進員 半田 直人 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
8月25日	2016 年体験！こどもミュージアム@大阪大学「江戸時代人、西洋に学ぶ～1 日適塾生 体験教室～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学適塾記念センター 松永和浩氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
9月3日～9月10日	大阪大学美術部 2016 年度夏部展「わたしの博物館」を開催した。(主催：大阪大学美術部 共催：大阪大学総合学術博物館 協力：21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的室)
9月4日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」維新派「デジタルアーカイブシリーズ」を開催した。(講師：維新派、山口良太氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏 他 担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)
9月9日～9月10日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：立川晋輔氏、維新派 清水翼氏、南山大学 ささきようこ氏、dracom 筒井潤氏、dracom[NPO 法人記録と表現とメディアのための組織]/東京大学大学院 松本篤氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏 担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)
9月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」を開催した。(講師：三浦 暁氏、演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパス)
9月17日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)

期間	主な活動
9月18日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の検証・発信とメディアリテラシー」第1回講座を開催した。(講師：140B 中島淳氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学中之島センター 201 教室)
10月2日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の検証・発信とメディアリテラシー」第2回講座を開催した。
10月8日	「第16回植物探検隊@秋の待兼山周辺(刀根山・中山池)」【1回目】が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
10月8日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」座学を開催した。(担当：大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室)
10月8日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.1,2」を開催した。(講師：立川晋輔氏、維新派 清水翼氏、南山大学 ささきようこ氏、dracom 筒井潤氏、dracom[NPO 法人記録と表現とメディアのための組織]/東京大学大学院 松本篤氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏 担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)
10月15日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」鉱物関連講義(1回目)を開催した。(講師：公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏 担当：大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：大阪大学会館3階展示実習室)
10月15日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」を開催した。(講師：森本年氏、劇団「このしたやみ」山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長 永田靖 会場：大阪大学会館3階収蔵室)
10月15日～11月19日 (全6回)	「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2016 —宇宙から極微の世界まで—」(全6回)が開催された。(主催：大阪大学大学院理学研究科物理学専攻 共催：大阪大学大学院工学研究科、大阪大学大学院基礎工学研究科、大阪大学全学教育推進機構、大阪大学核物理研究センター、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター、大阪大学総合学術博物館湯川記念室 後援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、京都市教育委員会、大阪府高等学校理化教育研究会、日本物理教育学会近畿支部、朝日新聞社、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター、大阪大学グローバルサイエンスキャンパス(SEEDS プログラム)、大阪大学インタラクティブ物質科学・かでっとプログラム 協賛：工研電子産業株式会社 場所：大阪大学豊中キャンパス理学部、吹田キャンパスの研究室と研究所)
10月17日～11月25日	2016年度実習展 阪大生がつくった展覧会 2016 ベストA 日程「大正グラデーショナー 移りゆく都市へのまなざし」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 会場：大阪大学会館 歴史展示室)
10月22日～12月22日	大阪大学総合学術博物館 第20回企画展「重建懐徳堂 100周年 KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学大学院文学研究科 一般財団法人懐徳堂記念会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：総合学術博物館 待兼山修学館)
10月22日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」立体造形実習(1回目木工)を開催した。(講師：京都造形芸術大学 柴田純生氏 担当：大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：京都造形芸術大学 柴田研究室)
10月22日	「第16回植物探検隊@秋の待兼山周辺(刀根山・中山池)」【2回目】が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)

期間	主な活動
10月29日	<p>関連イベント「懐徳堂展」連携 重建懐徳堂開学 100 周年記念 第 132 回懐徳堂秋季講座「よりよく生きるために」が開催された。(主催：一般財団法人 懐徳堂記念会 共催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学文学研究科、大阪府 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 後援：大阪市 会場：大阪大学豊中キャンパス共通教育棟 A102)</p>
10月29日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」鉱物関連講義(2 回目)を開催した。(講師：公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏 担当：大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙 会場：大阪大学会館 3 階展示実習室)</p>
11月5日	<p>大阪大学総合学術博物館 第 72 回ミュージアム・レクチャー「懐徳堂の歩みとそれを支えた人々」を開催した。(講師：文学研究科助教 中村翼氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)</p>
11月12日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」にて「劇作家 森本薫を語る」を開催した。(協力：森本年氏、登壇者：演劇評論家 兵庫県立芸術文化センター参与 阪急文化財団理事 河内厚郎氏、演出家 元近畿大学舞台芸術教授 菊川徳之助氏、演出家 劇団「このしたやみ」 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長 永田靖 担当：大阪大学総合学術博物館長 永田靖)</p>
11月13日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」を開催した。(講師：IAMAS 三輪眞弘氏、沖縄県立芸術大学 谷本裕氏、愛知県芸術文化センター 藤井昭子氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏氏 場所：IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 担当：大阪大学文学研究科 伊東信宏氏)</p>
11月19日	<p>2016 年度実習展関連企画 第 75 回ミュージアム・レクチャー「描かれた近代大阪—織田一磨《大阪風景》を中心に—」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 講師：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也、博物館学実習優秀班メンバー 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)</p>
11月20日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする」受講生による図鑑の講義を開催した。(講師：公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏 担当：大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室))</p>
11月23日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)</p>
11月26日	<p>大阪大学総合学術博物館 第 73 回ミュージアム・レクチャー「懐徳堂の儒学」を開催した。(講師：文学研究科博士後期課程院生 佐藤由隆氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)</p>
11月27日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」講座を開催した。(講師：演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター 9 F 特別会議室)</p>
12月4日	<p>大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1」ワークショップを開催した。(講師：劇団「このしたやみ」 山口 浩章氏、劇団「このしたやみ」 広田ゆうみ氏、劇団「このしたやみ」 二口大学氏、大阪大学総合学術博物館長 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館長 永田靖 会場：大阪大学中之島センター講義室 304)</p>
12月5日~12月10日	<p>大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学校理科展サテライト展示」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター 共催：豊中市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、第 11 回女子中高生のための関西科学塾 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)</p>

期間	主な活動
12月10日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学校理科展 受賞者による発表会」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター 共催：豊中市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、第 11 回女子中高生のための関西科学塾 会場：総合学術博物館 待兼山修学館)
12月11日	平成 28 年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業 交流する大学ミュージアムを目指して～大学の扉を開く～ 大学ミュージアムをめぐるシンポジウム「みんなのヒストリー みんなのミュージアム～学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 シンポジスト：大阪大学総合学術博物館 永田靖、常翔歴史館 益山新樹氏、阪急文化財団学芸課長 仙海義之氏、関西大学博物館 伊藤信明氏、吹田市立博物館 藤井裕之氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也 会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム C01 + 02)
12月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥紛争・災害の TELESOPHIA を開催した。(講師：演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家 / ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター 9 F 会議室)
12月17日	大阪大学総合学術博物館 第 74 回ミュージアム・レクチャー「懐徳堂の和学―新出資料『和語集解』について―」を開催した。(講師：文学研究科博士後期課程院生 河野光将氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
12月18日	シンポジウム＜具体＞再考「第 1 回 1950 年代の前衛グループ」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 シンポジスト：国立国際美術館 安来正博氏、川崎市岡本太郎美術館 佐藤玲子氏、大阪大学総合学術博物館招へい准教授 加藤瑞穂 会場：大阪大学中之島センター 3 階 講義室 304)
12月18日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」―大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」を開催した。(講師：IAMAS 三輪眞弘氏、左近田展康氏、岡野勇仁氏、山名仁氏、上山朋子氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏氏 担当：大阪大学文学研究科 伊東信宏氏 会場：大阪大学豊中キャンパス 文法経講義棟 文 13 教室、大阪大学豊中キャンパス 文法経講義棟 リサーチ commons)
12月19日～ 2017年1月27日	2016 年度実習展 阪大生がつくった展覧会 2016 ベスト B 日程「松本奉山・覚醒―新たな水墨画の境地、その先へ―」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 会場：大阪大学会館 歴史展示室)
12月24日～12月25日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」―大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」を開催した。(講師：IAMAS 三輪眞弘氏、左近田展康氏、岡野勇仁氏、山名仁氏、上山朋子氏、沖縄県立芸術大学 谷本裕氏、愛知県芸術文化センター 藤井昭子氏 大阪大学文学研究科 伊東信宏氏 担当：大阪大学文学研究科 伊東信宏氏)
2017年	
1月7日	サイエンスカフェ@待兼山 No.135 「地上の実験で宇宙の始まりを再現する」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第 11 回女子中高生のための関西科学塾、大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 北澤正清氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
1月8日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動②地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー「第 3 回講座」を開催した。(講師：大阪市史料調査会 古川武志氏、140B 中島淳氏、大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪市中央公会堂 3 階 特別室)
1月14日	2016 年度実習展関連企画 第 76 回ミュージアム・レクチャー「ミュージアムレクチャー～引き継がれる奉山の意志～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 講師：大阪大学総合学術博物館 松本奉山水墨画会 松嶋伸山氏、博物館学実習優秀班メンバー 会場：総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室)
1月14日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」―大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイブ」維新派上演舞台訪問ツアー & ワークショップを開催した。(講師：維新派スタッフ、松井浩子氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏 担当：大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏)

期間	主な活動
1月21日	サイエンスカフェ@待兼山 No.136「難病の克服に向けた新しい治療薬の研究」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院薬学研究科 下剛典氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
1月28日	サイエンスカフェ@待兼山 No.137「江戸時代の上方絵画～曾我蕭白を中心に～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院文学研究科 波瀬山祥子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
1月29日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動②地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー「活動②講座 最終回」を開催した。(講師：大阪市史料調査会 古川武志氏、140B 中島 淳氏、大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪市中央公会堂 地下1階 第4会議室)
1月29日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥紛争・災害の TELESOPHIA 「紛争・災害の TELESOPHIA 1月29日講座」を開催した。(講師：演出家 伊藤拓也氏 追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：兵庫県立文化体育館)
2月4日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動②地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシーを開催した。(講師：大阪市史料調査会 古川武志氏、140B 中島 淳氏、大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也)
2月4日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.C-1「豊中の至宝・マチカネワニ～発見と研究の軌跡～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館 伊藤謙 会場：豊中市立中央公民館)
2月18日	サイエンスカフェ@待兼山 No.138「開発途上国の法づくりの支援～東ティモールの立法支援の経験から」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院法学研究科 仁木恒夫氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
2月25日	サイエンスカフェ@待兼山 No.139「身体の回りの微生物が免疫を制御する」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 深瀬浩一氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室)
2月26日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」イベント「1995年1月17日のAM神戸を朗読する」を開催した。(演出・出演：演出家 伊藤拓也氏 音響：佐藤武紀氏 出演：追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉、活動⑥受講生 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学 21世紀懐徳堂スタジオ)
2月27日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」私たちの震災の記録」上演会+カフェトークを開催した。(カフェトーク登壇：神戸映画資料館 田中範子氏、演出家 伊藤拓也氏、追手門学院大学 富田大介氏、散歩家/ダンサー 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉、TELESOPHIA 受講生 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：神戸映画資料館)
2月27日～3月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 展覧会を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館長 永田靖、大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学文学研究科 伊東信宏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉、大阪大学文学研究科 渡辺浩司氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的室)
3月3日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」活動⑥「紛争・災害の TELESOPHIA」トークイベント「telesophia—知を伝えること—震災カフェ」(お題：「震災者とは」)を開催した。(企画運営・進行：「記憶の劇場」活動フェロー 明石陸 サポート：演出家 伊藤拓也、追手門学院大学 富田大介、散歩家/ダンサー 古川友紀、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：喫茶リバティールーム・カーナ)

期間	主な活動
3月4日	サイエンスカフェ@待兼山 No.140「タンパク質の不思議への挑戦」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 水谷泰久氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室)
3月4日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.1 (劇作家・森本薫プロジェクト)」関連演劇公演「まだ生きてゐる」を開催した。(構成・演出：山口浩章氏 担当：大阪大学総合学術博物館長 永田靖 会場：大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ)
3月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①「『記憶の劇場』クロージング・シンポジウム」を開催した。(会場：大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオ)
3月11日	サイエンスカフェ@待兼山 No.141「世界を元素で語る－「エネルギー、薬、化学産業、生活」を総合的に解説－」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：第11回女子中高生の為の関西科学塾、大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院工学研究科 安田誠氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室)
3月18日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.C-2「大学ミュージアムを楽しもう！！」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：関西大学博物館 石立弥生子氏、大阪音楽大学音楽博物館 大梶晴彦氏、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：豊中市立中央公民館)
3月25日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.C-3「ロボットはヒトになれるか？～構成的発達科学の挑戦～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学工学研究科大学院 河合祐司氏 会場：豊中市立中央公民館)

入館者数及びアンケート集計結果一覧

・2016年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

第9回特別展

会 期：4月27日(水)～7月9日(土)

入館者数：4,900人

夏期特集展覧会

会 期：7月23日(土)～8月27日(土)

入館者数：3,854人

第20回企画展

会 期：10月22日(土)～12月22日(木)

入館者数：3,889人

休館日：日曜・祝日

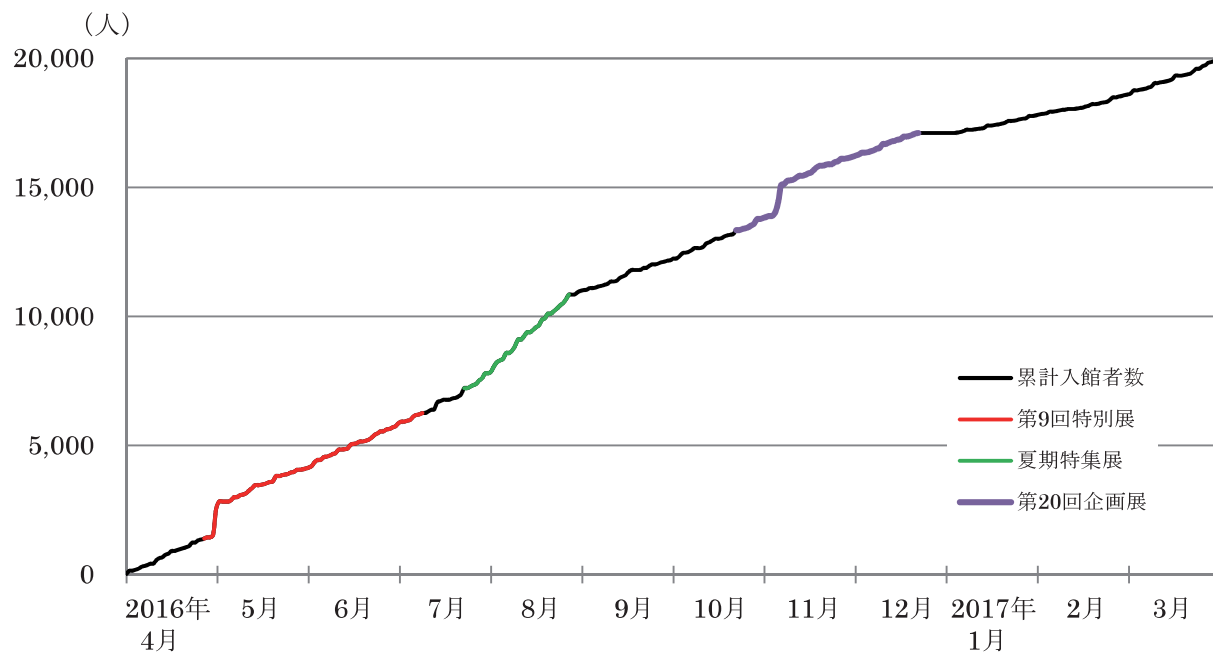
ただし、下記の日は開館

5月1日(日)、11月6日(日)

年末年始休業およびメンテナンス休館：

12月23日(祝・木)～2017年1月3日(木)

	入館者数
2016年4月	1,542
5月	2,562
6月	1,640
7月	2,049
8月	3,199
9月	1,184
10月	1,634
11月	2,379
12月	919
2017年1月	703
2月	729
3月	1,357
合計	19,897



※以下の内容のアンケート（任意記入）を実施した。

大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館 アンケート

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。今後の参考のため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。以下の項目の該当する欄にチェック をつけてください。

- 来館日 _____年 _____月 _____日（ ）
- 年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代
50代 60代 70代以上
- 住所 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県
その他（ _____ ）
- 学年 小学生未満 小学生 中学生 高校生 大学生・大学院生（阪大）
大学生・大学院生（阪大以外） 専門学校生 一般（ _____ ）
- 大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館についてお尋ねします。

- Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）
通りがかり パンフレット ホームページ ガイドブック等
友人・知人より その他（ _____ ）
- Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）
1階 玄関ホールのマチカネワニ 世界にはばたく研究者
コンピュータの黎明期
2階 大阪大学の系譜 みる科学
3階 待兼山に学ぶ
R階 自然教室
その他（ _____ ）
- Q3 来館は何回目ですか？
はじめて 2回目 3回目 4回目以上
- Q4 その他ご意見・ご感想などをお書き下さい。

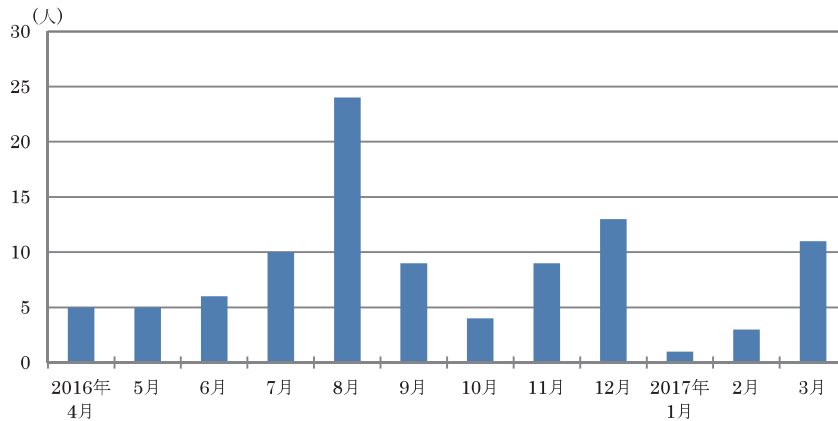
アンケートにお答え頂きありがとうございました。

貴重なご意見・ご感想などを今後の総合学術博物館発展のため、参考とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

・アンケート集計結果

◆ アンケート回答総数



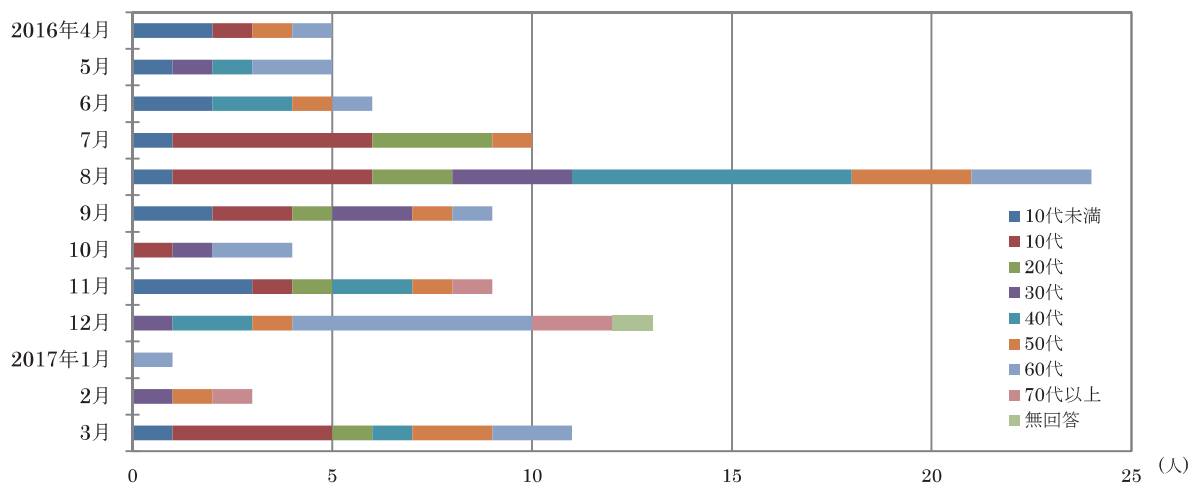
(単位：人)

2016年4月	5
5月	5
6月	6
7月	10
8月	24
9月	9
10月	4
11月	9
12月	13
2017年1月	1
2月	3
3月	11
合計	100

■ 年齢分布

(単位：人)

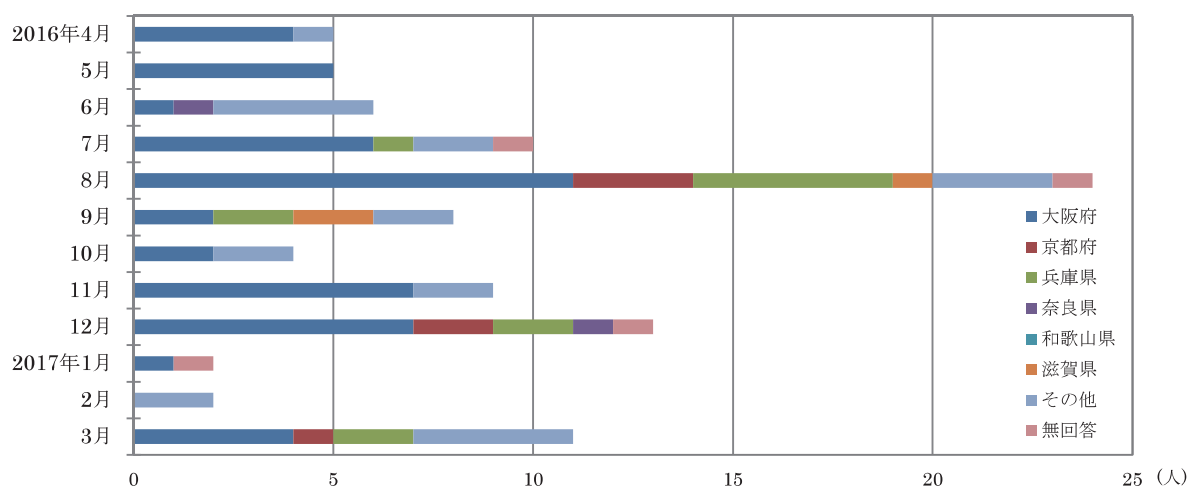
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
2016年4月	2	1	0	0	0	1	1	0	0
5月	1	0	0	1	1	0	2	0	0
6月	2	0	0	0	2	1	1	0	0
7月	1	5	3	0	0	1	0	0	0
8月	1	5	2	3	7	3	3	0	0
9月	2	2	1	2	0	1	1	0	0
10月	0	1	0	1	0	0	2	0	0
11月	3	1	1	0	2	1	0	1	0
12月	0	0	0	1	2	1	6	2	1
2017年1月	0	0	0	0	0	0	1	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	1	0	0
3月	1	4	1	0	1	2	2	0	0
合計	13	19	8	9	15	12	19	4	1



■ 住所分布

(単位：人)

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他	無回答
2016年4月	4	0	0	0	0	0	1	0
5月	5	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	0	0	1	0	0	4	0
7月	6	0	1	0	0	0	2	1
8月	11	3	5	0	0	1	3	1
9月	2	0	2	0	0	2	2	0
10月	2	0	0	0	0	0	2	0
11月	7	0	0	0	0	0	2	0
12月	7	2	2	1	0	0	0	1
2017年1月	1	0	0	0	0	0	0	0
2月	1	0	0	0	0	0	2	0
3月	4	1	2	0	0	0	4	0
合計	51	6	12	2	0	3	22	3



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2016年4月
・タイバンコク在住

6月
・静岡
・千葉県
・埼玉県
・埼玉

7月
・山形
・島根

8月
・東京都 2名
・神奈川
・東京

9月
・東京
・岐阜

10月
・東京

11月
・千葉県
・岡山県

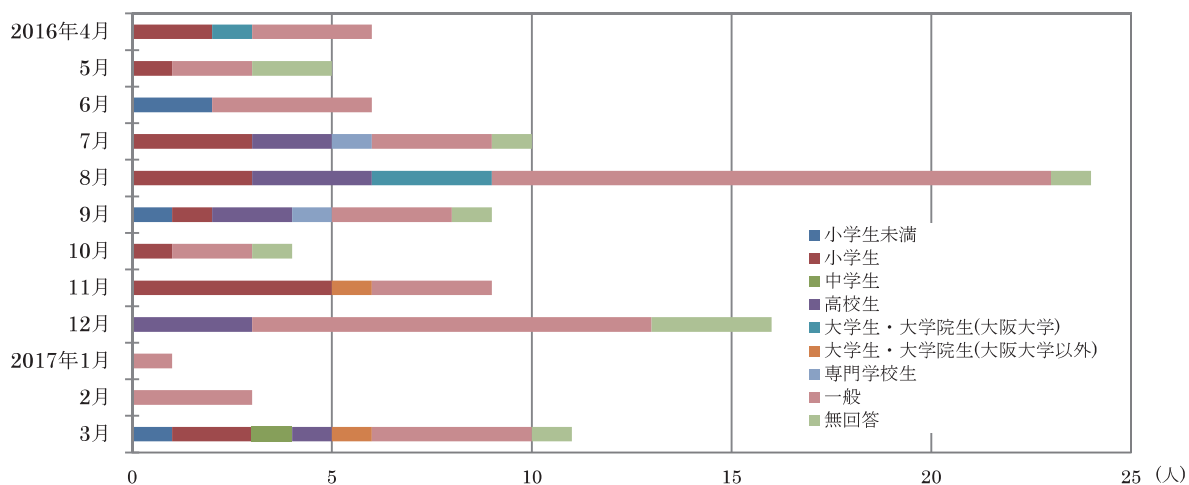
2017年2月
・埼玉県
・福岡研

3月
・中華人民共和国
・北海道
・茨城県

■ 入館者学年分布

(単位：人)

	小学生 未満	小学生	中学生	高校生	大学生 大学院生 (大阪大学)	大学生 大学院生 (大阪大学以外)	専門 学校生	一般	無回答
2016年4月	0	2	0	0	1	0	0	3	0
5月	0	1	0	0	0	0	0	2	2
6月	2	0	0	0	0	0	0	4	0
7月	0	3	0	2	0	0	1	3	1
8月	0	3	0	3	3	0	0	14	1
9月	1	1	0	2	0	0	1	3	1
10月	0	1	0	0	0	0	0	2	1
11月	0	5	0	0	0	1	0	3	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	10	3
2017年1月	0	0	0	0	0	0	0	1	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	3	0
3月	1	2	1	1	0	1	0	4	1
合計	4	18	1	8	4	2	2	52	10



● 一般 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2016年4月
・基礎工機械修士

6月
・大学生・大学院(阪大)元

7月
・フリーター

11月
・教員

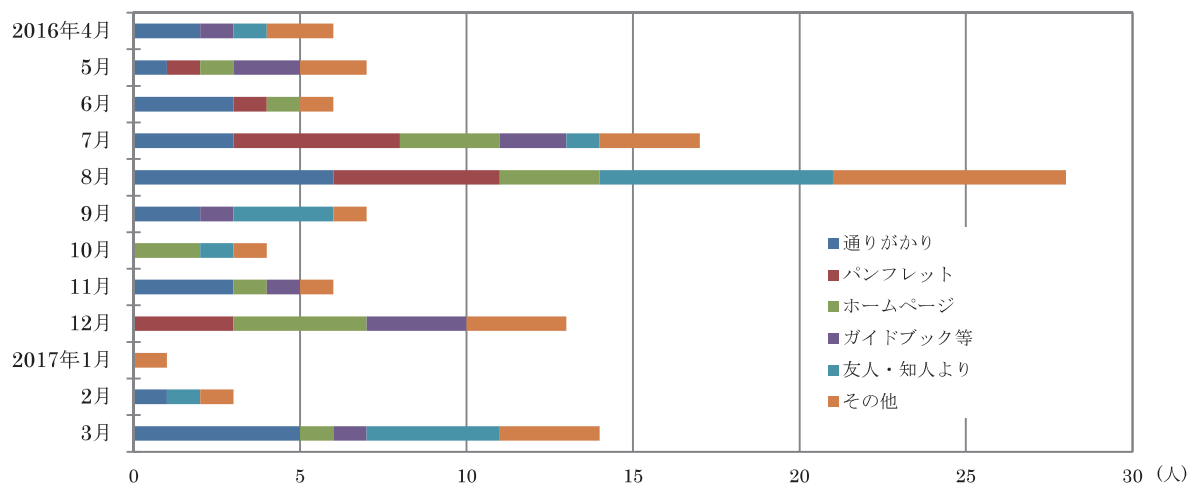
12月
・公務員
・大学教員

■ 大阪大学総合学術博物館 — 待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

（単位：人）

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブック等	友人・知人より	その他
2016年4月	2	0	0	1	1	2
5月	1	1	1	2	0	2
6月	3	1	1	0	0	1
7月	3	5	3	2	1	3
8月	6	5	3	0	7	7
9月	2	0	0	1	3	1
10月	0	0	2	0	1	1
11月	3	0	1	1	0	1
12月	0	3	4	3	0	3
2017年1月	0	0	0	0	0	1
2月	1	0	0	0	1	1
3月	5	0	1	1	4	3
合計	26	15	16	11	18	26



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2016年4月

- ・同級生の基礎工の教授

5月

- ・いちよう祭に来て
- ・ママのしごとば

6月

- ・学校見学

7月

- ・新聞記事
- ・学校のキャンパスツアー

8月

- ・チラシを友人にもらいました
- ・ポスター
- ・JOB BB ばんばさん NET RADIO
- ・新聞

9月

- ・近くに住んでいる

11月

- ・以前より知っていた
- ・東大インターメディアテク展示により

12月

- ・妹
- ・博物館に改修されたときから

1月

- ・卒業生なので知っている

2月

- ・友人が浪速高出身者

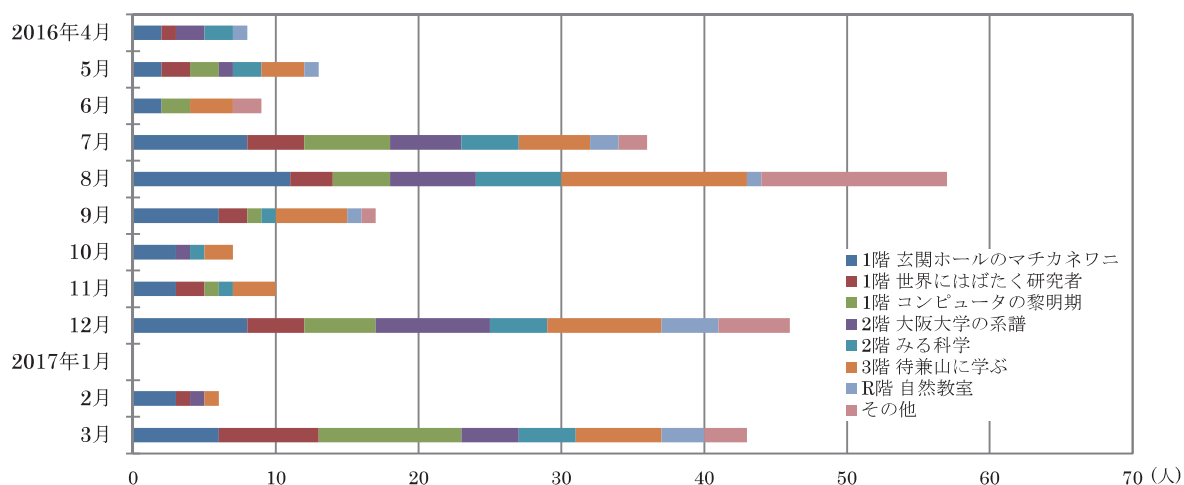
3月

- ・学校の研しゅう
- ・母から
- ・ネットで

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

（単位：人）

	1 階			2 階		3 階	R 階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピュータの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
2016年4月	2	1	0	2	2	0	1	0
3月	2	2	2	1	2	3	1	0
6月	2	0	2	0	0	3	0	2
7月	8	4	6	5	4	5	2	2
8月	11	3	4	6	6	13	1	13
9月	6	2	1	0	1	5	1	1
10月	3	0	0	1	1	2	0	0
11月	3	2	1	0	1	3	0	0
12月	8	4	5	8	4	8	4	5
2017年1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	3	1	0	1	0	1	0	0
3月	6	7	10	4	4	6	3	3
合計	54	26	31	28	25	49	13	26



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2016年6月

- ・第9回特別展

7月

- ・特別展
- ・妖怪展

8月

- ・妖怪古生物展 13名

9月

- ・3Fのマチカネワニ

12月

- ・懐徳堂展の歴史
- ・第20回企画展
- ・懐徳堂
- ・企画展示「大阪の誇り懐徳堂展の美と学問」
- ・屋上からのながめも良かった

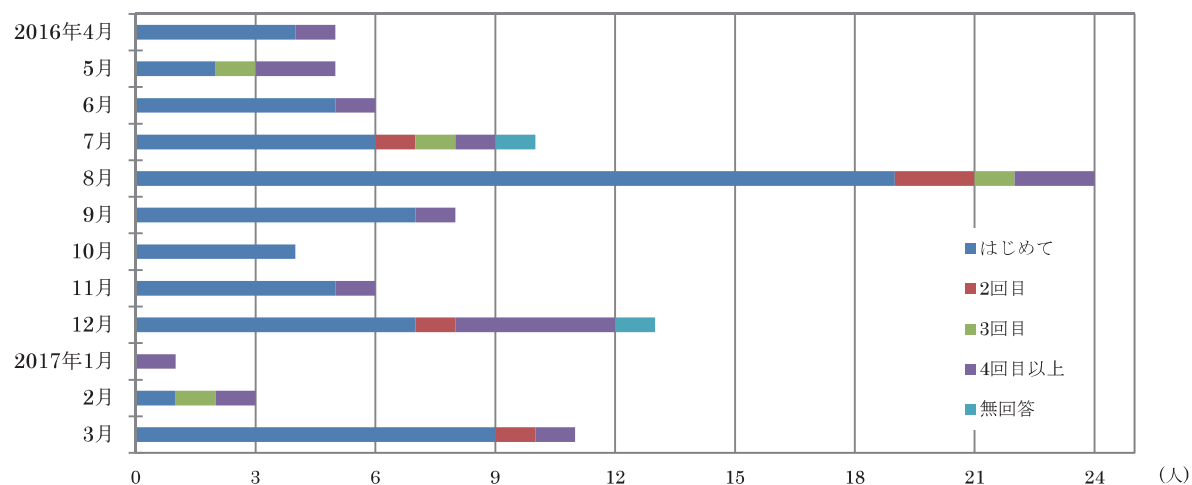
2017年3月

- ・3階の特別展

Q3 来館は何回目ですか？

(単位：人)

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
2016年4月	4	0	0	1	0
5月	2	0	1	2	0
6月	5	0	0	1	0
7月	6	1	1	1	1
8月	19	2	1	2	0
9月	7	0	0	1	0
10月	4	0	0	0	0
11月	5	0	0	1	0
12月	7	1	0	4	1
2017年1月	0	0	0	1	0
2月	1	0	1	1	0
3月	9	1	0	1	0
合計	69	5	4	16	0



Q4 その他ご意見・ご感想などをお書きください。

◎ アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

● 2016年4月

- ・おもしろかったです。
- ・けんぴきょうがとくにおもしろかったです。
- ・またきたいです。
- ・久しぶりに学んだイ号館に訪問し感激した。展示も興味深く拝見。
- ・ワニが子ゾウを襲って親ゾウにゲキタイされる。ゾウも豊中にいたってこと？
- ・とても、楽しくみれた

● 5月

- ・たのしかったです
- ・旧制高校のOBがよるこびそうな企画。
- ・ワニに圧倒されました。一般がみれる施設で開かれた大学を感じました。大学のイメージが上がりました。
- ・ゆっくり見れました。良かったです。特に3階のこみみづくの標本につき感動しました。「私の住んでいる島本町の淀川岸に時々姿を現し写真家等により注目が集まっている状況の中、標本とはいえ本物を見た思いを致しました。」
- ・質問ですが、3階の近畿の活断層の中で、「六甲」断層と表示してあるものは「有馬高槻構造線」といわれていたものの場所です。研究によって呼称が変わったのでしょうか。(理由)いつ変わったのでしょうか。説明があった方がいいと思います。

● 6月

- ・もっと民博の学芸員の様に留学生・障がい・高齢者に伝わる工夫を
- ・旧医短の建屋がこれほど味わいあるものと知ったのが大収穫でした。長く使って欲しい。
- ・展示内容が充実しており、楽しい時間を過ごすことが出来ました。1976年3月に法学部を卒業しましたが、今回修学館の展示を見て、知らないことだらけだったことに気付かされました。訪問させていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常に興味深かった。もっとマチカネワニがどのように考古学上で貴重か教えてほしい。貴重な個体を見れてよかった。
- ・グレート。その一言に尽きるね。マチカネワニにしゃぶりつきたい。

● 7月

- ・大高・浪高の展示に関して図録なりブックレットなりがあればよいと思いました。あまり語られることの少ない、また適当な書物もないようなので。展示自体は大変興味深く、有意義なものでありました。それだけに図録があればなど…。ありがとうございました。
- ・もっとすずしくしてほしい。もっと体験コーナーがほしいです。
- ・きかくてんして
- ・企画展をしてほしいです。マチカネワニ良かった!!OK
- ・大阪大学の系譜が面白かった。
- ・妖怪が好きで来ました。なかなかおもしろい展覧会でした。

● 8月

- ・たいへんおもしろかったです。
- ・セミナーに参加したかった。
- ・講演会の受付を、当日ではなく、前もって予約できると助かります。
- ・分子の話や用語は、全く知らないので分かりやすい説明や表示なら見れると思いました。又は、用語のくわしい説明があると、シロウトにはうれしいかもしれません。
- ・古墳に入っているのは誰ですか？
- ・展示が充実していて面白かったです。古生物展を目的に来たのですがどの展示も楽しめました。また来たいです。
- ・妖怪古生物展、面白い切り口でとても楽しめました。
- ・1.マチカネワニのレプリカをShopで販売して欲しい...スケールは小さくてもよいので本物を。
- ・2.待兼山、マチカネワニの展示説明がわかりにくい(資料は豊富です)
- ・3.大阪大学の系譜、説明をもう少し大阪鉱業学校と大阪工業大学の記述で、現在の大工大と、間違える人は少ないと思いますが、どうしても現在の大工大をイメージしてしまいます。東工大、大工大ともに国立なら…。
- ・マチカネワニの展示の仕方→柱があるので迫力が半減している。入口あたりにした方が良いのでは？大阪大学の系譜で「大阪工業大学」とあったが、大工大とまちがえるのでは？「大阪工業大学」で統一した方が良いのではないか？
マチカネワニは非常に魅力的であった。ミュージアムショップでレプリカやフィギュアがあれば買って帰りたいかったが、子供向けのぬいぐるみではものたりなすぎる。
- ・目ひとつぼうって何かゲゲゲの鬼太郎の見あげ入道みたいな目以外は人とかわんないよ ゾウの鼻と目と知識なかったら一つ目かな

- ・マチカネワニの化石ははく力がありました。もっと地域にアピールしてもらいたいです。無料でみられてよかったです。お得でした。
 - ・今回の特別展は興味深かったです。伝承を科学的に説明を試みる企画をまた期待しています。
 - ・またゆっくりと来たいです。
 - ・化石がいっぱいあっておもしろかったです。
 - ・はじめて来てしんぱいをしていたのですが、とてもたのしくみさせていただきありがとうございます。とてもべんきょうになりました。ありがとうございました。
 - ・阪大の歴史と研究の実践の一部に触れ、勉強になりました。
 - ・良かったです。
 - ・期待していた以上におもしろかったです。なぜトレードマークにワニ？その理由もあきらかになりました。古くからの地域の歴史、貴大学の成り立ち、もちろん妖怪展もどれもすばらしい展示です！
 - ・すごく楽しかったです！
 - ・今回の古生代の生物から昔の妖怪展などをひもとく展示ゾーンはとても興味深く、大変たのしませていただきました。更に良い博物館となるようがんばって下さい。
- 9月
- ・ちょうど北海道大学の博物館を訪れたばかりだったが、北大は全学部からの展示（法・経済・人文社会含む）があつて大変面白かったが、本博物館は特定分野のみで少し面白くなかった。解説はわかりやすかった。AIロボットがあるんじゃないかと期待していたので少しがっかりした。
 - ・いつも楽しく利用させて頂いております。マチカネワニの骨格、子供たちも大好きでとても勉強になっています！来年は夏休みの自由研究にしたいと思います。他にも子供向けの展示が増えると嬉しいです。
 - ・こんな施設があるとは知りませんでした。この地域にちなんだワニの化石や地層の説明もとてもリアルに感じて良かったです。また来ます。
 - ・待兼山の事がよくわかって良かった。
 - ・ワニが大きいですね！
 - ・ワニがすごかったです。
 - ・ライトの反射で説明プレートがみにくいです。
- 10月
- ・よかったです。また来たいです。
- 11月
- ・マチカネワニのせつ明をもうすこししてほしい
 - ・マチカネワニが可愛いです。
 - ・こんなに立派な博物館があるとは知らなかった。もっと広範囲の県にPRしては？学会や会議がある時もPRしたほうがよいかもしれない。また海外の中高生にも…。懐徳堂のことを知ることができてよかった。4Fは誰もいないのに部屋の電気もテレビもついていたので、節電のために人が来た時だけオンにしては？
- 12月
- ・常設コーナーが、いつも同じ展示なので少しマンネリ気味。とはいえ、何度見ても新鮮。（つまり覚えられない）
 - ・どの展示も見やすくわかりやすい。特に虫の展示はきれい。歴史上の学校関係者の資料もわかりやすい。懐徳堂の学問が大阪で生まれ、又それをとり巻く人々の学問への情熱が伝わる内容だった。学問が人類にとって幸せを運ぶものとして発展して欲しい。医学科学が発達し治らない病気の解明に力を出して欲しい。戦争を阻止するためにも発展して欲しい。決して人類破めつに使わないで欲しい。
 - ①どのコーナーもわかりやすく、レベルが高く、学問の大切さを改めて感じる事ができた。
 - ②また先人の情熱や苦勞も知ることができ、歴史を伝えること、それを今後さらに発展させることの大切さも感じることができました。
 - ③貴重な施設を無料でみることができ、感謝します。
 - ・ミュージアム・レクチャーをもっと増してほしい。
 - ・懐徳堂の門下生、近くに住むのにはじめて知り今後共同ひたく存じます。徳を胸にとじんと来ました。
 - ・懐徳堂の門下生や、ここで学んだ人たちを詳しく知りたかった 例 山片幡桃(出身地に在住する者です。)
 - ・静かでゆっくり見られる。キャプションや解説も大きくて読みやすい。R階からの眺めが気持ちよい。「大大阪展」「具体美術展」など印象に残っている。これからも阪大らしい企画を。
 - ・何年も前から来たいと思っていました。想像以上に良かったです。
 - ・大阪府立産業技術総合研究所のOBですが、菅田栄治先生は私が入所したときの館長(工業奨励館)でした。在任は1971(S46)~1979(S54)で、退館後すぐに就任されたようです。菅田先生の経歴に私達の職場が載っていないのは一寸淋しいです。ちなみに館長、所長は代々、工学部長経験で次の所長(奨励館から工業技術研究所に名称変更)→その後、更に産業技術総合研究所となりました。は、戸倉仁一郎先生でした。この方も立派なひとでした。
 - ・3Fのトイレの手摺りが出っばっているのを頭を打ちます。ペーパーも取りにくい。本来手摺りが必要な人もあのスペースでは使えないのでは？3Fでイベントの時はドアを閉めて下さい。展示室まで聞こえうるさいです。
- 2017年1月
- ・本日は「大阪大学の系譜」のみ見学しました。じっくり1つのテーマ毎に見ていこうと思っています。ありがとうございました。

● 2月

- ・今回は3Fを見る事が出来なくて残念であった。
- ・息子がワニが好きなのでよくきています。
- ・大阪大学はすごい大学というイメージはありましたが、こんなにも多方面でトップクラスの教授陣がこれまでにいらっしやったり、この土地自体にもあらゆる価値のある資料が存在したことに感動しました。

● 3月

- ・湯川、八木、千谷を越えます
- ・很好！
- ・古い機械を大切に保管してありかんしんした
- ・おもしろい
- ・難しいことだったけど、見るだけでもすごくおもしろかったです。
- ・阪大の系譜と湯川博士の荘士の文言がとても印象的でした。
- ・マチカネワニを初めて知りました
- ・3階の特別展で阪神淡路大震災のことを扱われており、それをきっかけにアンケートを記入しています。私自身も阪神淡路大震災の前年に生まれており、生田志帆さんのように震災当日に生まれた同級生がいました。テレビなどでは、東日本大震災ばかりが大きく取り上げられ、(テレビ局が関東にあることも関係しているとは思いますが) 阪神淡路大震災のことは、忘れられてしまったように感じていたので、こういう機会に多くの人の目に触れる形で展示していただいたことを嬉しく思うと同時に私自身ももっと震災のことを知りたいと思いました。
- ・記憶…が面白い。
多面の見方、角度の違いをとことん話し合っていると思いますが、展示には十分表れていない気がします。
- ・まちかねの歴史を作るべきだと思う

団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
2016年					
1	4月2日	土	ヒッポファミリークラブすみれ	31	なし
2	4月4日	月	大阪大学薬学部14期生ミニ同窓会	11	なし
3	4月8日	金	De La Salle UNIVERSITY	6	伊藤
4	4月11日	月	共通教育「大阪大学の歴史」	94	なし
5	4月12日	火	大阪大学 新入社員研修	48	豊田
6	4月14日	月	阪大理学部生物学科生命理学基礎演習	31	なし
7	4月16日	土	大阪よどがわ市民生活協同組合	18	宮久保
8	4月23日	土	Rangsit University	18	伊藤
9	4月23日	土	第15回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて	29	なし
10	4月25日	月	共通教育 考古学基礎 A	60	なし
11	5月2日	月	吹田市山一地区公民館	28	なし
12	5月7日	土	第15回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて	28	なし
13	5月9日	月	地球科学 A	45	なし
14	5月13日	金	大阪北部コミュニティカレッジ (ONCC) 歴史のロマンと謎に迫る科	47	豊田
15	5月14日	土	かんさい・大学ミュージアムネットワーク	10	橋爪
16	5月18日	水	京都市立西京高等学校附属中学校 3年	5	横田
17	5月20日	金	基礎セミナー「アーカイブズの世界に触れる」	3	なし
18	5月21日	土	岡山県立倉敷青陵高等学校	85	宮久保、豊田
19	5月23日	月	基礎工学部材料工学科一期生同窓会	6	宮久保
20	6月3日	金	大阪府北部コミュニティカレッジ「歴史と古典文学を学ぶ科」	31	宮久保
21	6月3日	金	中京大学附属中京高等学校	42	なし
22	6月3日	金	とよなか歴史と文化の会	19	なし
23	6月4日	土	国立大学ゼミ(進学塾) 小学5年生・6年生	9	宮久保
24	6月6日	月	箕面自由学園スーパー特進コース	75	なし
25	6月15日	水	講義「宇宙地球科学の考え方」	45	なし
26	6月15日	水	特定営利活動法人 シニア自然大学校 自然と文化科	6	横田
27	6月15日	水	文学部学部授業「日本学演習」	17	宮久保
28	6月15日	水	大阪府立住吉高校 PTA	50	なし
29	6月22日	水	講義「宇宙地球科学の考え方」	47	なし
30	6月23日	木	兵庫県立明石西高等学校国際人間科1年生	45	なし
31	6月27日	月	奈良市立一条高等学校数理科	42	上田
32	6月29日	水	講義「宇宙地球科学の考え方」	37	なし
33	7月1日	金	特定営利活動法人 シニア自然大学校 自然と文化科	76	なし
34	7月6日	水	京都府立亀岡高校 P T A	32	なし
35	7月6日	水	講義「宇宙地球科学の考え方」	39	なし
36	7月7日	木	ONCC 西国街道を訪ねる科 6班	7	横田
37	7月11日	月	兵庫県国際高等学校	44	なし
38	7月12日	火	金光八尾高等学校	30	伊藤
39	7月14日	木	箕面自由学園高校1・2年生	232	なし
40	7月19日	火	毎日文化センター(梅田)	14	高橋
41	7月22日	金	学校法人 湯梨浜学園 湯梨浜学園中学校高等学校 PTA	22	豊田
42	7月23日	土	近畿大学附属広島高等学校福山校 1年	37	上田
43	7月28日	木	富山県立砺波高等学校	77	なし
44	7月30日	土	大阪市立自然史博物館	33	なし
45	8月1日	月	石川県立小松明峰高等学校 第2学年	35	なし
46	8月2日	火	近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校	31	宮久保
47	8月2日	火	京都府立西舞鶴高等学校	52	なし
48	8月3日	水	兵庫県立北摂三田高等学校	66	なし
49	8月8日	月	慶応義塾福澤センター	21	なし(適塾:福田)
50	8月18日	木	釜山外国語大学	58	なし
51	8月26日	金	西宮市立西宮高等学校	36	なし
52	8月30日	火	智辯学園高等学校	52	豊田

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
53	8月31日	水	私立 昭和薬科大学附属高等学校	26	伊藤
54	9月 8日	木	兵庫県立御影高等学校 PTA	28	宮久保
55	9月10日	土	楽山会	12	なし
56	9月13日	火	NPO 高槻市文化財スタッフの会	26	宮久保
57	9月16日	金	比叡山高等学校	63	なし
58	9月17日	土	千葉県議会議員(自民党)	2	宮久保
59	9月23日	金	NHK 文化センター神戸教室「近代建築巡り」	30	なし
60	9月29日	木	大阪大学理学部生物(生物学野外実習)	14	なし
61	10月 3日	月	岡山県立笠岡高等学校	48	なし
62	10月 7日	金	島根県立松江江南高等学校 高校1年生クラス	35	なし
63	10月 8日	土	第16回植物探検隊@秋の待兼山周辺	19	なし
64	10月11日	火	自敬寺 護拝会 歩こう会	32	なし
65	10月12日	水	大阪府立生野高等学校 PTA	95	なし
66	10月14日	金	サンマテオ市親善使節団一行	4	豊田
67	10月14日	金	日本の森を守る地方銀行有志の会	20	なし
68	10月18日	火	大阪府立泉陽高等学校	25	なし
69	10月22日	土	第16回植物探検隊@秋の待兼山周辺	21	なし
70	10月22日	土	石川県立七尾高等学校 PTA	25	宮久保
71	10月25日	火	大学生のキャリアを考える会	5	伊藤
72	10月28日	金	NPO 法人とよなか歴史と文化の会	32	なし
73	11月 8日	火	豊中市立第八中学校	90	なし
74	11月11日	金	シニア自然大学校 環境科	25	豊田
75	11月15日	火	瑞穂町議会総務産業建設委員会	10	なし
76	11月17日	木	報徳学園高等学校	35	なし
77	11月18日	金	大阪府立春日丘高等学校 第一学年	73	なし
78	11月24日	木	KOSMOS 第2次第7期予備教育(阪大国際教育交流センター)	6	豊田
79	11月24日	木	兵庫県立宝塚北高等学校グローバルサイエンス科第2学年	45	豊田
80	12月 8日	木	開明高等学校 1学年	47	なし
81	12月15日	木	OD24 木曜会	12	豊田
82	12月15日	木	上海交通大学	12	豊田 伊藤
2017年					
83	1月14日	土	理学研究科 久野研究室 さくらサイエンスプログラム	12	伊藤
84	1月14日	土	科学教育研究協議会大阪支部	25	なし
85	1月28日	土	とよなか歴史と文化の会	30	なし
86	2月16日	木	NPO法人 大阪府北部コミュニティカレッジ 健康とアウトドア科	27	横田
87	2月24日	金	兵庫県阪神シニアカレッジ国際交流(現国際理解)学科平成21年卒業 同期生有志	14	なし
88	2月24日	金	村田製作所 栄寿会	8	なし
89	3月11日	土	NPO 法人とよなか歴史と文化の会	15	なし
90	3月17日	金	兵庫県立豊岡高等学校	9	なし
91	3月24日	金	沖縄市児童合唱団	18	半田
92	3月24日	金	川西市グリーンハイツ「スポクラウォーク」	41	なし
93	3月27日	月	Kids Duo 豊中	25	なし
94	3月27日	月	春期学童保育(男女協働推進センター主催)	18	なし
95	3月29日	水	福岡県立八幡高等学校	16	なし
96	3月29日	水	「どんぐり村」	13	なし

関連記事一覧

新聞

※教員関連の記事は「12. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内 容
2016年				
1	4月5日	火	大阪日日新聞	展覧会「薬学の博物誌 森野旧薬園と江戸の植物図譜」5/21まで
2	8月22日	月	毎日新聞 大阪 地方版	妖怪古生物展 妖怪と古生物の関係探る特集展 大阪大博物館で27日まで
3	8月22日	月	産経新聞 26面	「天六学舎の思い出ポロポロン」(「待兼山少年」ウクレレ関連)
4	10月7日	金	毎日新聞 大阪 地方版 朝刊 23面	情報プラザ ★第20回企画展 重建懐徳堂開学100周年記念「KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」10月22日(土)～12月22日(木) 総合学術博物館
5	10月17日	月	読売新聞 夕刊 2面	□懐徳堂秋季講座「よりよく生きるために」 (展覧会の案内あり)
6	10月20日	木	朝日新聞(大阪) 夕刊 5面	(黒板) 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問 【大阪】
7	10月28日	金	朝日新聞 夕刊 4面	A+1 美術館・博物館 大阪大学総合学術博物館「KAITOKUDO 大阪の誇り 懐徳堂の美と学問」
8	10月29日	土	産経新聞 朝刊 27面	展覧会 「KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」
9	11月14日	月	読売新聞 夕刊 2面	「懐徳堂 大阪300年の誇り」
10	12月4日	日	日本経済新聞 朝刊 16面	大大阪の風景①小出栢重「雪の市街風景」(橋爪 節也 コメント掲載)
11	12月10日	土	毎日新聞 夕刊 8面	「構想34年 新美術館建設へ：中之島 大阪市、建設業者決定」
12	12月10日	土	毎日新聞 夕刊 28面	「新美術館「追い風」：ゼネイ美術家集団「具体」に関心：大阪市構造34年 時代味方に」
13	12月11日	日	日本経済新聞 朝刊 16面	大大阪の風景① (橋爪 節也 コメント掲載)
14	12月15日	木	朝日新聞 夕刊 5面	黒板 シンポジウム「『具体』再考 第1回 1950年代の前衛グループ」
15	12月22日	木	毎日新聞 夕刊 6面	文化 批評&研究「周辺から再考「具体」 大阪でシンポ「0会」結成時期新説も」
2017年				
16	1月20日	金	産経新聞 朝刊 27面	メッセージ：講義講座 ・サイエンスカフェ@待兼山「身体の回りの微生物が免疫を制御する」

その他 刊行物

※教員関連の記事は「12. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内 容
1	広報いけだ / 池田市	2016年4月1日 / 第1145号	みゅうじあむ・がいで 特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—」
2	学びの情報 / 吹田市生涯学習推進本部	2016年4月1日発行	吹田市6大学・研究機関講座等情報 大阪大学総合学術博物館 第9回特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—」
3	広報いけだ / 池田市	2016年5月1日 / 第1146号	みゅうじあむ・がいで 特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—」
4	図解入門 よくわかる 最新分析化学の基本と仕組み [第2版] / 株式会社秀和システム	2016年5月30日発行	分析機器遺産 国産第一号電子顕微鏡
5	関西の大学を楽しむ本 / 株式会社京阪神エルマガジン	2016年5月26日発行	関西の大学を楽しむ 知に触れる② 大阪大学 大阪大学総合学術博物館
6	広報いけだ / 池田市	2016年6月1日 / 第1147号	みゅうじあむ・がいで 特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—」
7	瓦版や / 手作り新聞「瓦版や」	2016年6月号 / No.259	「ちょっとご案内」 ●大阪大学総合学術博物館 第9回特別展 嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと 一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録～ ◎ミュージアムレクチャー ～大阪の高等教育機関の変遷

その他 刊行物

※教員関連の記事は「12. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内 容
8	City Life News 北摂 WEST 版 / 株式会社シティライフ NEW	2016年5月号 / Vol.159	北摂イベント 第9回特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと 一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録」
9	いちょう並木 / 大阪市教育委員会	2016年6月10日 / No.402	おおさか KEY わーど 第69回大阪を知るための100の言葉とモノの世界 特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと ～よみがえる旧制高 校 大高・浪高の記憶と記録～」
10	広報いけだ / 池田市	2016年7月1日 / 第1148号	みゅうじあむ・がいで ●特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと 一よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録」 ●夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
11	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下店ときわ台店	2016年7月25日	大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会 科学で楽しむ怪異考「妖怪古生物」展
12	広報いけだ / 池田市	2016年8月1日 / 第1149号	みゅうじあむ・がいで 夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
13	広報いけだ / 池田市	2016年9月1日 / 第1150号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館（常設展示）
14	広報いけだ / 池田市	2016年10月1日 / 第1151号	みゅうじあむ・がいで 第20回企画展・重建懐徳堂開学100周年記念「KAITOKUDO 大阪の 誇り—懐徳堂の美と学問—」
15	広報いけだ / 池田市	2016年11月1日 / 第1152号	みゅうじあむ・がいで 第20回企画展・重建懐徳堂開学100周年記念「KAITOKUDO 大阪の 誇り—懐徳堂の美と学問—」
16	広報とよなか	2016年11月号 / Vol.799	11月のお知らせ（人権・文化） 小中学生理科展 表彰式・作品発表会
17	いちょう並木 / 大阪市教 育委員会	2016年11月号 / No.407	おおさか KEY わーど 第74階大阪を知るための100の言葉とモノの世界 懐徳堂が大阪にあり：町人の町人による町人のための学問所
18	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下店ときわ台店	2016年11月28日	大学ミュージアムをめぐるシンポジウム みんなのストーリーみんなの ミュージアム
19	ともも1・2月 合併号 No.165 / 有限会社ともも	2016年12月5日	「<具体>再考 第1回：1950年代の前衛グループ」
20	広報いけだ / 池田市	2016年12月1日 / 第1153号	みゅうじあむ・がいで 第20回企画展・重建懐徳堂開学100周年記念「KAITOKUDO 大阪の 誇り—懐徳堂の美と学問—」
21	広報とよなか	2016年12月号 / Vol.800	12月のお知らせ（人権・文化） サイエンスカフェ@待兼山 「難病の克服に向けた新しい治療薬の研究」 「江戸時代の上巻絵画 曾我蕭白を中心に」
22	サンケイリビング新聞 （北摂版） 新春号	2017年1月5日	●サイエンスカフェ@待兼山
23	広報いけだ / 池田市	2017年1月1日 / 第1154号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館（常設展示・サイエンスカフェ）
24	広報とよなか	2017年1月号 / Vol.801	1月のお知らせ（人権・文化） サイエンスカフェ@待兼山 「開発途上国の法づくりの支援」 「身体の回りの微生物が免疫を制御する」
25	広報いけだ / 池田市	2017年2月1日 / 第1155号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館（常設展示・サイエンスカフェ）
26	広報とよなか	2017年2月号 / Vol.802	1月のお知らせ（人権・文化） サイエンスカフェ@待兼山 「タンパク質の不思議への挑戦」「世界を元素で語る」
27	広報いけだ / 池田市	2017年3月1日 / 第1156号	みゅうじあむ・がいで 展覧会「記憶の劇場」 「記憶の劇場」クロージング・シンポジウム
28	広報とよなか	2017年3月号 / Vol.803	3月のお知らせ（人権・文化） ロボットはヒトになれるのか 構成的発達科学の挑戦
29	いちょう並木 / 大阪市教 育委員会	2017年3月号 / No.410	おおさか KEY わーど 第77階大阪を知るための100の言葉とモノの世界 誰が還暦やねん…「万博かてしってるねん」と十円玉が語る

インターネット

No.	掲載ホームページ	内 容
1	阪急電鉄	イベント情報 第9回 特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと」
2	日本地質学会	大阪府の「県の石」 ◆大阪府の化石 マチカネワニ
3	関西文化 .com	イベント 大阪大学総合学術博物館第9回特別展「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと」
4	City Life News	イベント 第9回特別展『嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと』開催！
5	笠間書院 online	学会・講演会・展覧会情報 大阪大学総合学術博物館待兼山修学館 2016年夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
6	阪急電鉄	イベント情報 大阪大学総合学術博物館 夏期特集展覧会 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
7	関西文化 .com	イベント 大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
8	関西文化 .com	イベント 大阪大学総合学術博物館 体験！こどもミュージアム@大阪大学
9	博物月報	博物的話題 「妖怪に古生物学の視点からアプローチ、大阪大学総合学術博物館で」
10	ほとんど0円大学	大学をたのしもう おすすめイベント 「夏休みの自由研究はコレに決まり！大阪大学を体験しよう！」 ■体験！こどもミュージアム@大阪大学
11	City Life news	イベント 展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」が始まる！
12	まいぶれ 豊中	でかける イベント 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
13	豊中市	イベント・催し 豊中市共催事業 大阪大学総合学術博物館 2016年夏期特集展覧会 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
14	Living 大阪 Web / サンケイリビング新聞社	街のイベント・催し 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」／大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館」
15	まいぶれ 豊中	でかける イベント 体験！こどもミュージアム@大阪大学
16	ほとんど0円大学	大学を楽しもう 郊外型大学ミュージアムで深呼吸。大阪大学総合学術博物館
17	はろーあさひ / 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	はろーあさひ最新情報 大阪大学総合学術博物館 夏期特集展覧会 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
18	産経フォト / 産経新聞・産経デジタル	サッと見ニュース 2016.8.18のニュース 「古生物学×妖怪で特集展 大阪大博、化石で伝説考察」
19	中国・本の情報館～東方書店～	催事情報 企画展「KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—」／講座「よりよく生きるために」
20	関西文化 .com	イベント 第20回企画展・重建懐徳堂開学100周年記念 KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—
21	はろーあさひ / 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	はろーあさひ最新情報 大阪大学総合学術博物館企画展KAITOKUDO
22	阪急電鉄	イベント情報 大阪大学総合学術博物館第20回企画展～大阪の誇り 懐徳堂の美と学問～
23	笠間書院 online	学会・講演会・展覧会情報 大阪大学総合学術博物館 第20回企画展「KAITOKUDO 大阪の誇り -- 懐徳堂の美と学問 --」(2016年10月22日(土)～2016年12月22日(木)、入場無料)
24	DNP Museum Information Japan Artscape	○展覧会のスケジュール 大阪府 KAITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—
25	西宮市 生涯学習情報	<市外(阪神間)の生涯学習イベントを紹介します> 第20回企画展・重建懐徳堂開学100周年記念 KAITOKUDO大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—

インターネット

No.	掲載ホームページ	内 容
26	関西文化 .com	イベント [かんさい・大学ミュージアム連携] 平成 28 年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業：交流する大学ミュージアムを目指して～大学の扉を開く～ ・ギャラリー・トーク 大阪大学総合学術博物館 10/20 (木)、11/17 (木)、両日とも 14:00～15:00 ・関連行事 大学ミュージアムをめぐるシンポジウム「学校の歴史と大学ミュージアム」(仮題) 12月11日(日) 13:30～17:00
27	神戸新聞 NEXT	■文化 2016/11/12 11:10 「[具体]」の活動を再考するシンポ 12月、大阪
28	朝日マリオン .コム	全国美術館・博物館情報 大阪大学総合学術博物館「KAITOKUDO 大阪の誇り 懐徳堂の美と学問」
29	第 11 回女子中高生のための関西科学塾 Newsletter vol.3 8月の学外イベント	● 8/22 体験！こどもミュージアム@大阪大学「ブロックでレスキューロボットを作って動かそう！」 ● 8/23 体験！こどもミュージアム@大阪大学「化石のレプリカを作ろう！」 ・サイエンスカフェ@待兼山
30	第 11 回女子中高生のための関西科学塾 Newsletter vol.3 9月の学外イベント	・サイエンスカフェ@待兼山 ・理科展優秀展示・発表会
31	Living 大阪 Web / サンケイリビング新聞社	街のイベント・催し 第 20 回企画展 KITOKUDO 大阪の誇り—懐徳堂の美と学問—
32	Jタウンネット東京都	おでかけ・ミュージアム情報 「大学ミュージアムをめぐるシンポジウムみんなの歴史—みんなのミュージアム！学校・自治体・企業の歴史とミュージアム運営」
33	関西文化 .com	イベント [大阪大学総合学術博物館] サイエンスカフェ@待兼山 (2016 年度)
34	サイエンスポータル	2017 年 2 月のイベント一覧 サイエンスカフェ@待兼山 no.138～139
35	第 11 回女子中高生のための関西科学塾 Newsletter vol.7 10・11月の学外イベント	サイエンスカフェ@待兼山
36	豊中市	イベント・催し HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へ—

ラジオ・テレビ等

No.	番組名 / 放送局	放送日時	内容
1	かたらいブラザ / J:COM 豊中・池田 (11ch) (豊中市広報番組)	2016年5月16日～5月31日	市制施行 80 周年 マチカネくんの歴史探訪：豊中市北部編 (大阪モノレール柴原駅、待兼山町ほか) 大阪大学とマチカネワニ化石発掘
2	まちのラジオ 大阪大学 社会学連携 / みのおエフエム タッキー 816	2016年6月9日 15:00～16:00	大阪大学総合学術博物館第 9 回特別展 「嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと」
3	まちのラジオ 大阪大学 社会学連携 / みのおエフエム タッキー 816	2016年8月11日	大阪大学総合学術博物館 夏期特集展覧会 「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」
4	NHK大阪 「ニュースほっと関西」	2016年12月12日 18:10～19:00	「ワニ (肉) で豊中の街に人を」
5	日本テレビ 「幸せ！ボンビーガール」	2016年12月17日 22:00～	再現 VTR 内で豊中市の街紹介の一つとしてマチカネワニ化石の映像を使用
6	読売テレビ 「朝生ワイド す・またん	2017年1月17日 5:20～8:00	まるトク ZIP 「マイナーグルメ」 豊中市マチカネミートの紹介
7	関西テレビ 「ワンダー」	2017年2月8日 16:47～	豊中市「ワニグルメ」の紹介

寄贈図書一覧

No.	寄 贈 者	書 名
1	一般財団法人アジア太平洋研究所	APIR Now No. 8
2	和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館 紀要 20
3	和泉市久保惣記念美術館	江川コレクション 中国古代金属器から西洋近代ガラス器まで
4	和泉市久保惣記念美術館	第六次久保惣コレクション
5	茨木市教育委員会	中条小学校遺跡発掘調査報告書（本文編）
6	茨木市教育委員会	中条小学校遺跡発掘調査報告書（写真図版編）
7	茨木市教育委員会	中条小学校遺跡発掘調査報告書（分析・考察編）
8	茨木市教育委員会	松ヶ本南遺跡発掘調査報告書
9	茨木市教育委員会	平成 27 年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報 8 - 国庫補助事業に伴う発掘調査 -
10	茨木市教育委員会	太田遺跡発掘調査概報
11	茨木市教育委員会	遺跡を探ろう！
12	茨木市立文化財資料館	いばらきの歴史を探ろう！ 旧石器時代～弥生時代編
13	茨木市立文化財資料館	いばらきの歴史を探ろう！ 古墳時代編
14	茨木市立文化財資料館	いばらきの歴史を探ろう！ 古代編
15	茨木市立文化財資料館	いばらきの歴史を探ろう！ 中世編
16	茨木市立文化財資料館	いばらきの歴史を探ろう！ 近世編
17	茨木市立文化財資料館	絵図で楽しむ茨木
18	茨木市立文化財資料館	茨木市立文化財資料館 館報第 1 号（平成 26 年度）
19	茨木市立文化財資料館	龍王山をめぐる信仰と人々 - 山岳寺院の軌跡 -
20	茨木市立文化財資料館	茨木に眠る資料 - 免山篤コレクションを中心に -
21	茨木市立文化財資料館	発掘された文字 - 市域出土の墨書土器・刻書土器・硯 -
22	宇治市歴史資料館	宇治市歴史資料館 年報 平成 26 年度
23	宇治市歴史資料館	収蔵資料調査報告書 18 戦争関係資料 2
24	宇治市歴史資料館	進め！奈良鉄道 JR 奈良線 120 年
25	N H K	真田丸 2016 年 NHK 大河ドラマ特別展
26	京阪神エルマガジン社	関西の大学を楽しむ本
27	大阪市立大学 恒藤記念室	恒藤記念室叢書 6 恒藤恭「戦中日記」（1941～1945 年）
28	大阪狭山市郷土資料館	狭山藩北条氏 - 戦国大名 小田原北条五代の末裔 -
29	大阪城天守閣	真田幸村の生涯を彩った人たち
30	大阪市立東洋陶磁美術館	李秉昌博士記念 韓国陶磁研究報告 10
31	大阪市立住まいのミュージアム	大阪市立住まいのミュージアム 研究紀要・館報 13
32	大阪市立美術館	大阪市立美術館だより 美をつくし
33	大阪城天守閣	神君家康 - 「東照宮縁起絵巻」でたどる生涯 -
34	大阪府立狭山池博物館	河内の開発と渡来人 - 葦屋北遺跡の世界 -
35	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報 平成 27 年度
36	大阪歴史博物館	近代大阪職人図鑑
37	大山崎町歴史資料館	堺と大山崎 - 自治都市の系譜 -
38	大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館館報 第 21 号
39	小樽市総合博物館	小樽市総合博物館紀要第 29 号
40	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム 年報第 8 号
41	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム Collection Exhibition Vol. 69～78
42	笠岡市立竹喬美術館	年報 Vol. 9 2011. 4～2016. 3
43	柏原市立歴史資料館	春季企画展 江戸時代の国分村
44	柏原市立歴史資料館	平成 28 年度夏季企画展 まじなう - 古代の祈りの道具たち -
45	柏原市立歴史資料館	柏原市古文書調査報告書第十一集 河内国安宿郡国分村南西尾家文書目録Ⅲ
46	柏原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館 館報第 28 号
47	金沢大学資料館	平成 27 年度特別展 加賀藩与力 武士のほまれ
48	金沢大学資料館	金沢大学資料館紀要第 11 号
49	金沢大学資料館	平成 28 年度金沢大学資料館特別展「ガラスの博物誌」
50	関西大学博物館	特集展示 関西大学蔵本山コレクションの精華
51	関西大学博物館	関西大学創立 130 周年記念展示会 関西大学のちから
52	関西大学なにわ大阪研究センター	新出「浪花名所図屏風」の研究

No.	寄贈者	書名
53	関西学院大学博物館	神々の宿る布ー古代アンデスからのメッセージー
54	関西学院大学博物館	公開研究会報告第1号 アンデスの織物を観るールーピング技法を中心に
55	キリスト教美術協会 関西学院大学博物館	第40回キリスト教美術展
56	九州国立博物館 福岡県立アジア文化交流センター	大宰府の軍備に関する考古学的研究 科学研究費補助金研究成果報告書
57	九州国立博物館	「大英博物館展」図録
58	九州国立博物館	「琉球と海ーアジアにおける交流」目録
59	九州国立博物館	「新羅王子がみた大宰府」図録
60	九州国立博物館	「祈りのかたち 八幡」図録
61	九州国立博物館	「黄金のアフガニスタン」図録
62	九州国立博物館	「戦国大名 九州の群雄とアジアの波濤」図録
63	九州国立博物館	「始皇帝と大兵馬俑」図録
64	九州国立博物館	「九州国立博物館名品五十選」図録 日英版
65	九州国立博物館	「九州国立博物館名品五十選」図録 日中版
66	九州国立博物館	「九州国立博物館名品五十選」図録 日韓版
67	九州国立博物館	「美の国日本」図録
68	九州国立博物館	大宰府天満宮の地宝
69	九州国立博物館	九州国立博物館紀要 東風西声 第11号
70	九州大学総合研究博物館	九州大学総合研究博物館年報 第6号
71	九州産業大学美術館	九州産業大学美術館年度報告書 平成26・27年度
72	九州産業大学美術館	グラフィックデザイナー豊増秀男 かたち・時代・ユーモア
73	京都造形芸術大学芸術館	縄文と現代
74	京都大学 白眉センター	白眉プロジェクト2015
75	京都大学総合博物館	「探究活動」で、大学ができること 研究大学からの社会貢献
76	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館年報 平成27年度
77	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館ニュースレター No.37
78	京都大学総合博物館	考古学資料目録 エジプト出土資料
79	熊本市熊本博物館	熊本博物館館報No.28(2015年度報告)
80	神戸大学大学院人文学研究科 海港都市研究センター	海港都市研究 第11号
81	神戸大学大学院海事科学研究科 海事博物館	海事博物館研究年報2015 No.43
82	神戸大学大学院海事科学研究科 海事博物館	海事博物館企画展図録2015
83	郡山古文書クラブ	和州郡山藩 幕末大庄屋記録(続)
84	國學院大学博物館地域共働連携事業実行委員会	東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業報告書
85	國學院大學博物館	國學院大學博物館研究報告2016
86	国土交通省中部地方整備局 長野県埋蔵文化財センター	飯田市 鬼釜遺跡 風張遺跡 神之峰城跡 一般国道474号飯橋道路埋蔵文化財発掘調査報告書6
87	国立民族学博物館	見世物大博覧会
88	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館外部評価報告書ー歴博の情報発信についてー
89	国立歴史民俗博物館	公開シンポジウム 「資料がつなぐ大学と博物館ー研究循環アクセスモデルの構築にむけてー」
90	越谷市教育委員会	大道遺跡発掘調査報告書I ー西大袋土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ー
91	堺市博物館	大寺さんー信仰のかたちをたどるー
92	滋賀大学経済学部附属史料館	研究紀要第49号 史料館新館20周年記念号
93	滋賀大学経済学部附属史料館	近江商人とみちのく
94	静岡県博物館協会	研究紀要 平成27年度第39号
95	静岡県博物館協会	静岡県博物館協会会報第77号 静岡の博物館
96	鳥根県立石見美術館	鳥根県立石見美術館ニューズレター Vol.25
97	島本町立歴史文化資料館	島本町立歴史文化資料館 館報 第8号
98	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 第26集 広瀬遺跡発掘調査概要報告
99	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 第28集 広瀬遺跡発掘調査概要報告
100	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 第29集 水無瀬地区遺跡範囲確認調査概要報告

No.	寄贈者	書名
101	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 第30集 大森浄水場浄水池新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 広瀬遺跡発掘調査報告書
102	秀和システム	よくわかる最新分析化学の基本と仕組み
103	吹田市立博物館	古代の港か？ 祭場か？ - 五反島遺跡の謎に迫る -
104	吹田市立博物館	平成28年度春季特別展 " 田園都市 " 千里山 ~大正時代の理想郷~
105	西南学院大学博物館	西南学院大学博物館研究叢書 信仰の歴史 キリスト教の伝播と受容
106	西南学院大学	西南学院大学博物館研究紀要 第4号
107	西南学院大学	西南学院大学博物館年報第8号
108	瀬戸内海歴史民俗資料館	瀬戸内海歴史民俗資料館 Collection Exhibition Vol. H 26-1 ~ H 28-1
109	仙台市博物館	仙台市博物館収蔵資料図録2 服飾 改訂版
110	仙台市博物館	仙台市博物館調査研究報告第36号
111	仙台市博物館	仙台市博物館収蔵資料図録⑧ 齋藤報恩会寄贈資料
112	総合地球環境学研究所	総合地球環境学研究所 要覧2016
113	大東市立歴史民俗資料館	市制施行60周年記念特別展 よみがえる平野屋新田会所
114	たばこと塩の博物館	たばこと塩の博物館 年報 第31号
115	玉川大学	玉川大学芸術学部シンポジウム報告 美術教育の現在 - 学校と美術館の役割とは -
116	多摩美術大学芸術人類学研究所	Art Anthropology II
117	だんじりを活かした地域共働事業実行委員会	だんじりを活かした地域共働事業実行委員会報告書II 「だんじりの記録、だんじりの記憶」
118	筑紫野市歴史博物館	筑紫野市歴史博物館年報16
119	土屋健	古第三紀・新第三紀・第四紀の生物 下巻
120	帝京大学総合博物館	帝京大学創立50周年企画展示 50年前の帝京大学
121	帝京大学書道研究所 大学総合博物館	帝京 日本書道文化の伝統と継承 - かな美への挑戦 -
122	手塚山大学附属博物館	瓦の来た道 - 東アジアの瓦の歴史 -
123	手塚山大学考古学研究所	手塚山大学考古学研究所研究報告 X VIII
124	東京藝術大学	平成28年度東京藝術大学 卒業・修了制作作品集
125	東京文化財研究所	保存科学 第55号
126	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館 館報第19号
127	新潟市美術館	アナタにツナガル展
128	東北学院大学博物館	躍動する身体 よみがえる60年前の古写真帖II
129	東北学院大学博物館	KOREMITE 東北学院大学博物館収蔵資料図録 Vol. 1
130	東北学院大学博物館	二風谷への旅路 - フィールドワーク入門2015 調査報告 -
131	東北学院大学博物館	東北学院大学博物館年報 平成26年度 2014 Vol. 6
132	東北学院大学博物館	東北学院大学博物館年報 平成27年度 2015 Vol. 7
133	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 年報7
134	苫小牧市美術博物館	イカラカラ アイヌ刺繍の世界
135	富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館	民族薬物資料館 生薬目録[IV]
136	名古屋市博物館	名古屋市博物館研究紀要 第39巻 2016
137	新潟市	新潟市のあゆみ
138	新潟市美術館	新潟市美術館所蔵品目録2016
139	西宮大谷記念美術館	年報(2012~2014)
140	西宮市立郷土資料館	第32回特別展示 西宮町人の生活と文化
141	西宮市立郷土資料館	西宮歴史調査団年報 2014年度版
142	NIFREL	NIFREL 1st ANNIVERSARY BRAND BOOK
143	大学共同利用機関法人人間文化研究機構歴史民俗博物館	Research Institute for Humanity and Nature Prospectus 2016-2017
144	大学共同利用機関法人人間文化研究機構歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館要覧 平成28(2016)年度
145	根津美術館	古伊万里図鑑 - 山本コレクション総目録 -
146	根津美術館	根津美術館紀要「此君」特集 - 芝田是真
147	根津美術館	若き日の雪舟 - 初公開の「芦葉達磨図」と拙宗の水墨画 -
148	根津美術館	開館75周年記念特別展 丸山応挙 - 「写生」を超えて -
149	株式会社阪急アドエージェンシー	阪急電車 宝塚線沿線まちあるき手帖
150	公益財団法人阪急文化財団	阪急文化研究年報 第五号 平成27年度

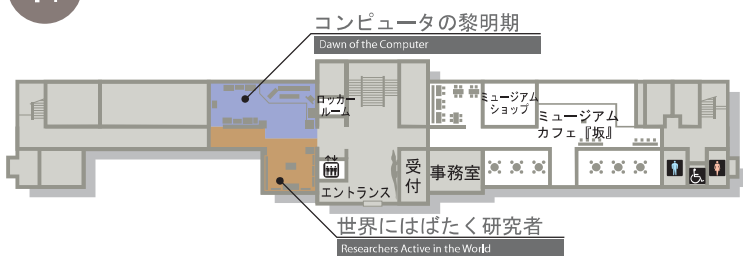
No.	寄贈者	書名
151	公益財団法人美術院	美術院紀 第八号
152	姫路科学館	姫路科学館収蔵資料目録第5号 小林平一コレクション昆虫編 タテハチョウ科(1)
153	福井県立歴史博物館	城下町福井の町と人
154	福井県立若狭歴史博物館	館報 平成27年度
155	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム 研究紀要 第12号
156	北海道大学総合博物館	オホーツク文化の研究4 目梨泊遺跡(1) 北海道大学総合博物館研究報告第8号
157	松岡美術館	わたしの好きなシロカネ・アートベストセレクション
158	松代文化施設等管理事務所	こども松代見て歩き 松代真田のはじまり
159	松代文化施設等管理事務所	真田宝物館収蔵品目録
160	松代文化施設等管理事務所	真田宝物館特別企画展図録 戦国の真田
161	松代文化施設等管理事務所	松代<付・年報> 第29号
162	松原市民ふるさとびあプラザ	狭山池と松原
163	三重県総合博物館	三重県総合博物館 資料叢書2014 No.1
164	三重県総合博物館	三重県総合博物館 研究紀要2014 No.1
165	三重県総合博物館	MieMu 2014 三重県総合博物館年報
166	三重県総合博物館	MieMu 2015 三重県総合博物館研究紀要
167	三重県総合博物館	MieMu 2015 三重県総合博物館資料叢書
168	南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第35号
169	明治大学校地内遺跡調査団	下原・富士見町遺跡Ⅲ 後期旧石器時代の発掘調査(1)
170	明治大学校地内遺跡調査団	下原・富士見町遺跡Ⅲ 後期旧石器時代の発掘調査(2)
171	八尾市立歴史民俗資料館	平成27年館報
172	山形大学附属博物館	山形大学附属博物館報 42
173	立教大学社会デザイン研究所	公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ2015
174	立教大学社会デザイン研究所	公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ LECTURES
175	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館平和研究 -立命館大学国際平和ミュージアム紀要- 第17号
176	和歌山市立博物館	和歌山市史研究 44
177	和歌山市立博物館	特別展「城下町和歌山の絵師たち」
178	和歌山市立博物館	特別展「玉津島 -衣通姫と三十六歌仙-」図録
179	和歌山市立博物館	和歌山市立博物館研究紀要 第31号
180	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	道成寺の縁起 伝承と実像
181	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第37号
182	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	企画展「村上安吉のライフストーリー」



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

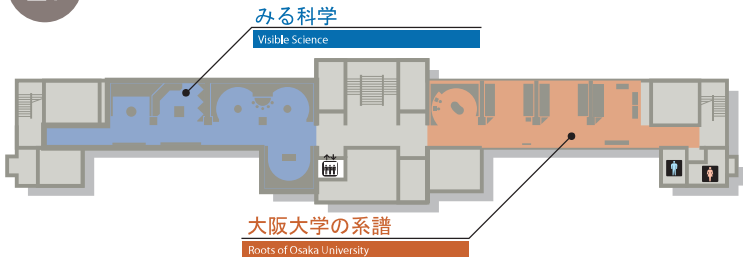
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆者を持った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



みる科学 Visible Science

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大阪市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

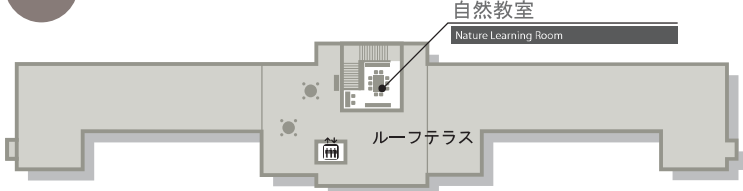


待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R_F



自然教室 Nature Learning Room

自然教室&ルーフトラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフトラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

Museum of Osaka University

編集後記

2016年の当館の展覧会はいずれも大阪大学の源流に関連するもので、春季は旧制高校、大高・浪高を、秋季は大阪の学問所、懐徳堂を取り上げました。二つとも大阪大学の歴史のみならず、大阪の文化史の一側面といえるものになっていたと自負していますが、ご覧になられた方の目にはどのように映ったでしょうか。展覧会以外にも社会人教育のプログラム「記憶の劇場」、豊中市との連携による「豊中市立小中学校 理科展 サテライト展示」やキャンパスを飛び出した豊中市立中央公民館でのサイエンスカフェなど、社会との連携において新しい試みの多い1年でした。

博物館は歴史を切り取って保管しつづけるアルバムのようなもので、永く存続する施設であるべきだと思いますが、それを運営するスタッフの方は大学の改革の動きとは無縁ではありえません。大阪大学は2017年8月より社学共創本部を立ち上げました。学内の他の社学連携組織とともに、博物館スタッフもそこに加わり、社会との共創による知の創出を新たに求めていくことになりました。これまで以上にご助力いただければ幸いに存じます。

(文責 宮久保 圭祐)

大阪大学総合学術博物館 年報 2016

2017年8月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13
印刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子 (アトリエツジムラ)

